



システム管理コマンド

- arp (4 ページ)
- boot (5 ページ)
- cat (7 ページ)
- copy (8 ページ)
- copy startup-config tftp: (9 ページ)
- copy tftp: startup-config (10 ページ)
- debug voice diagnostics mac-address (11 ページ)
- debug platform condition feature multicast controlplane (12 ページ)
- debug platform condition mac (14 ページ)
- debug platform rep (16 ページ)
- debug ilpower powerman (18 ページ)
- delete (21 ページ)
- dir (22 ページ)
- emergency-install (24 ページ)
- exit (26 ページ)
- factory-reset (27 ページ)
- flash_init (30 ページ)
- help (31 ページ)
- hostname (32 ページ)
- install (34 ページ)
- ip ssh bulk-mode (38 ページ)
- l2 traceroute (40 ページ)
- license air level (41 ページ)
- license boot level (43 ページ)
- license smart (グローバル コンフィギュレーション) (46 ページ)
- license smart (特権 EXEC) (57 ページ)
- line auto-consolidation (63 ページ)
- location (65 ページ)
- location plm calibrating (69 ページ)

- [mac address-table move update \(70 ページ\)](#)
- [mgmt_init \(72 ページ\)](#)
- [mkdir \(73 ページ\)](#)
- [more \(74 ページ\)](#)
- [no debug all \(75 ページ\)](#)
- [rename \(76 ページ\)](#)
- [request consent-token accept-response shell-access \(77 ページ\)](#)
- [request consent-token generate-challenge shell-access \(78 ページ\)](#)
- [request consent-token terminate-auth \(79 ページ\)](#)
- [request platform software console attach switch \(80 ページ\)](#)
- [reset \(82 ページ\)](#)
- [rmdir \(83 ページ\)](#)
- [sdm prefer \(84 ページ\)](#)
- [service private-config-encryption \(85 ページ\)](#)
- [set \(86 ページ\)](#)
- [show avc client \(89 ページ\)](#)
- [show bootflash: \(90 ページ\)](#)
- [show debug \(93 ページ\)](#)
- [show env \(94 ページ\)](#)
- [show env xps \(96 ページ\)](#)
- [show flow monitor \(100 ページ\)](#)
- [show install \(102 ページ\)](#)
- [show license all \(105 ページ\)](#)
- [show license authorization \(110 ページ\)](#)
- [show license data translation \(115 ページ\)](#)
- [show license eventlog \(116 ページ\)](#)
- [show license history message \(118 ページ\)](#)
- [show license reservation \(119 ページ\)](#)
- [show license status \(120 ページ\)](#)
- [show license summary \(129 ページ\)](#)
- [show license tech \(132 ページ\)](#)
- [show license udi \(140 ページ\)](#)
- [show license usage \(142 ページ\)](#)
- [show location \(146 ページ\)](#)
- [show logging onboard switch uptime \(148 ページ\)](#)
- [show mac address-table \(151 ページ\)](#)
- [show mac address-table move update \(156 ページ\)](#)
- [show parser encrypt file status \(157 ページ\)](#)
- [show platform hardware fpga \(158 ページ\)](#)
- [show platform integrity \(159 ページ\)](#)
- [show platform software audit \(160 ページ\)](#)

- [show platform software fed switch punt cause](#) (164 ページ)
- [show platform software fed switch punt cpuq](#) (166 ページ)
- [show platform software sl-infra](#) (170 ページ)
- [show platform sudi certificate](#) (171 ページ)
- [show romvar](#) (173 ページ)
- [show running-config](#) (174 ページ)
- [show sdm prefer](#) (180 ページ)
- [show tech-support confidential](#) (182 ページ)
- [show tech-support monitor](#) (183 ページ)
- [show tech-support platform](#) (184 ページ)
- [show tech-support platform evpn_vxlan](#) (188 ページ)
- [show tech-support platform fabric](#) (191 ページ)
- [show tech-support platform igmp_snooping](#) (195 ページ)
- [show tech-support platform layer3](#) (198 ページ)
- [show tech-support platform mld_snooping](#) (206 ページ)
- [show tech-support port](#) (213 ページ)
- [show tech-support pvlan](#) (216 ページ)
- [show tech-support resource](#) (217 ページ)
- [show version](#) (222 ページ)
- [system env temperature threshold yellow](#) (230 ページ)
- [traceroute mac](#) (232 ページ)
- [traceroute mac ip](#) (235 ページ)
- [type](#) (238 ページ)
- [unset](#) (239 ページ)
- [upgrade rom-monitor capsule](#) (241 ページ)
- [version](#) (243 ページ)

arp

Address Resolution Protocol (ARP) テーブルの内容を表示するには、ブートローダモードで **arp** コマンドを使用します。

arp [*ip_address*]

構文の説明	<i>ip_address</i> (任意) ARP テーブルまたは特定の IP アドレスのマッピングを表示します。				
コマンド デフォルト	デフォルトの動作や値はありません。				
コマンド モード	ブートローダ				
コマンド履歴	<table border="1"> <thead> <tr> <th>リリース</th> <th>変更内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Cisco IOS XE Everest 16.5.1a</td> <td>このコマンドが導入されました。</td> </tr> </tbody> </table>	リリース	変更内容	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。
リリース	変更内容				
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。				

使用上のガイドライン ARP テーブルには、IP アドレスと MAC アドレスのマッピングが示されます。

例

次に、ARP テーブルを表示する例を示します。

```
Device: arp 172.20.136.8
arp'ing 172.20.136.8...
172.20.136.8 is at 00:1b:78:d1:25:ae, via port 0
```

boot

実行可能イメージをロードおよびブートして、コマンドラインインターフェイス (CLI) を表示するには、ブートローダモードで **boot** コマンドを使用します。

boot [-post | -n | -p | flag] filesystem:/file-url...

構文の説明	
-post	(任意) 拡張および総合 POST によってロードされたイメージを実行します。このキーワードを使用すると、POST の完了に要する時間が長くなります。
-n	(任意) 起動後すぐに、Cisco IOS デバッガが休止します。
-p	(任意) イメージのロード後すぐに、JTAG デバッガが休止します。
<i>filesystem:</i>	ファイルシステムのエイリアス。システム ボード フラッシュ デバイスには flash: を使用します。USB メモリスティックには usbflash0: を使用します。
<i>/file-url</i>	ブート可能なイメージのパス (ディレクトリ) および名前。各イメージ名はセミコロンで区切ります。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード ブートローダ

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン 引数を何も指定しないで **boot** コマンドを入力した場合、デバイスは、BOOT 環境変数が設定されていればその中の情報を使用して、システムを自動的にブートしようとします。

file-url 変数にイメージ名を指定した場合、**boot** コマンドは指定されたイメージをブートしようとします。

ブートローダ **boot** コマンドのオプションを設定した場合は、このコマンドがただちに実行され、現在のブートローダセッションだけに適用されます。

これらの設定が保存されて次回のブート処理に使用されることはありません。

ファイル名およびディレクトリ名は、大文字と小文字を区別します。

例

次の例では、*new-image.bin* イメージを使用してデバイスをブートする方法を示します。

```
Device: set BOOT flash:/new-images/new-image.bin  
Device: boot
```

このコマンドを入力すると、セットアッププログラムを開始するように求められます。

cat

1つ以上のファイルの内容を表示するには、ブートローダモードで**cat**コマンドを使用します。

cat *filesystem:/file-url...*

構文の説明

filesystem: ファイルシステムを指定します。

/file-url 表示するファイルのパス（ディレクトリ）と名前を指定します。ファイル名はスペースで区切ります。

コマンドデフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

ブートローダ

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ファイル名およびディレクトリ名は、大文字と小文字を区別します。

ファイルのリストを指定した場合は、各ファイルの内容が順に表示されます。

例

次の例では、イメージファイルの内容を表示する方法を示します。

```
Device: cat flash:image_file_name
version_suffix: universal-122-xx.SEx
version_directory: image_file_name
image_system_type_id: 0x00000002
image_name: image_file_name.bin
ios_image_file_size: 8919552
total_image_file_size: 11592192
image_feature: IP|LAYER_3|PLUS|MIN_DRAM_MEG=128
image_family: family
stacking_number: 1.34
board_ids: 0x000000068 0x000000069 0x00000006a 0x00000006b
info_end:
```

copy

ファイルをコピー元からコピー先にコピーするには、ブートローダモードで **copy** コマンドを使用します。

copy *filesystem:/source-file-url filesystem:/destination-file-url*

構文の説明

filesystem: ファイルシステムのエイリアス。USB メモリ スティックの場合は、**usbflash0:** を使用します。

/source-file-url コピー元のパス（ディレクトリ）およびファイル名です。

/destination-file-url コピー先のパス（ディレクトリ）およびファイル名です。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

ブートローダ

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ファイル名およびディレクトリ名は、大文字と小文字を区別します。

スラッシュ (/) 間に指定できるディレクトリ名は最大 127 文字です。ディレクトリ名には制御文字、スペース、削除文字、スラッシュ、引用符、セミコロン、コロンは使用できません。

指定できるファイル名は最大 127 文字です。ファイル名には制御文字、スペース、削除文字、スラッシュ、引用符、セミコロン、コロンは使用できません。

ファイルを別のディレクトリにコピーする場合は、そのディレクトリが存在していなければなりません。

例

次の例では、ルートにあるファイルをコピーする方法を示します。

```
Device: copy usbflash0:test1.text usbflash0:test4.text
File "usbflash0:test1.text" successfully copied to "usbflash0:test4.text"
```

ファイルがコピーされたかどうかを確認するには、**dir filesystem:** ブートローダコマンドを入力します。

copy startup-config tftp:

スイッチから TFTP サーバに設定をコピーするには、特権 EXEC モードで **copy startup-config tftp:** コマンドを使用します。

copy startup-config tftp: *remote host {ip-address}/{name}*

構文の説明

remote host {ip-address}/{name} リモートホストのホスト名または IP アドレス。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

特権 EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
------	------

Cisco IOS XE リリース 16.1 このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

スイッチから現在の設定をコピーするには、**copy startup-config tftp:** コマンドを実行し、続く指示に従います。設定が TFTP サーバにコピーされます。

次に、別のスイッチへログインし、**copy tftp: startup-config** コマンドを実行して、続く指示に従います。これで、設定は別のスイッチにコピーされます。

例

次に、TFTP サーバに設定をコピーする例を示します。

```
Device: copy startup-config tftp:  
Address or name of remote host []?
```

copy tftp: startup-config

TFTP サーバから新しいスイッチに設定をコピーするには、新しいスイッチ上で、特権 EXEC モードで **copy tftp: startup-config** コマンドを使用します。

copy tftp: startup-config *remote host {ip-address}/{name}*

構文の説明

remote host {ip-address}/{name} リモートホストのホスト名または IP アドレス。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

特権 EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
------	------

Cisco IOS XE リリース 16.1	このコマンドが導入されました。
------------------------	-----------------

使用上のガイドライン

設定をコピーした後、その設定を保存するには、**write memory** コマンドを使用し、その後スイッチをリロードするか、または **copy startup-config running-config** コマンドを実行します。

例

次に、TFTP サーバからスイッチに設定をコピーする例を示します。

```
Device: copy tftp: startup-config
Address or name of remote host []?
```

debug voice diagnostics mac-address

音声クライアントの音声診断のデバッグを有効にするには、特権 EXEC モードで **debug voice diagnostics mac-address** コマンドを使用します。デバッグを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug voice diagnostics mac-address mac-address1 verbose mac-address mac-address2 verbose
nodebug voice diagnostics mac-address mac-address1 verbose mac-address mac-address2 verbose

構文の説明	voice diagnostics	音声クライアントの音声のデバッグを設定します。
	mac-address mac-address1 mac-address mac-address2	音声クライアントの MAC アドレスを指定します。
	verbose	音声診断の冗長モードを有効にします。
コマンド デフォルト	デフォルトの動作や値はありません。	
コマンド モード	特権 EXEC	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

以下は、**debug voice diagnostics mac-address** コマンドの出力例で、MAC アドレスが 00:1f:ca:cf:b6:60 である音声クライアントの音声診断のデバッグを有効にする手順を示しています。

```
Device# debug voice diagnostics mac-address 00:1f:ca:cf:b6:60
```

debug platform condition feature multicast controlplane

Internet Group Management Protocol (IGMP) およびマルチキャストリスナー検出 (MLD) のスヌーピング機能の放射線トレースを有効にするには、特権 EXEC モードで **debug platform condition feature multicast controlplane** コマンドを使用します。放射線トレースを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
debug platform condition feature multicast controlplane {{igmp-debug | pim} group-ip {ipv4 address
/ ipv6 address} | {mld-snooping | igmp-snooping} mac mac-address ip {ipv4 address | ipv6 address}
vlan vlan-id } level {debug | error | info | verbose | warning}
no debug platform condition feature multicast controlplane {{igmp-debug | pim} group-ip {ipv4
address | ipv6 address} | {mld-snooping | igmp-snooping} mac mac-address ip {ipv4 address | ipv6
address} vlan vlan-id } level {debug | error | info | verbose | warning}
```

構文の説明

igmp-debug	IGMP制御の放射線トレースを有効にします。
pim	Protocol Independent Multicast (PIM) 制御の放射線トレースを有効にします。
mld-snooping	MLDスヌーピング制御の放射線トレースを有効にします。
igmp-snooping	IGMPスヌーピング制御の放射線トレースを有効にします。
mac mac-address	受信者の MAC アドレス。
group-ip {ipv4 address ipv6 address}	igmp-debug または pim グループの IPv4 または IPv6 アドレス。
ip {ipv4 address ipv6 address}	mld-snooping または igmp-snooping グループの IPv4 または IPv6 アドレス。
vlan vlan-id	VLAN ID。指定できる範囲は 1 ~ 4094 です。
level	デバッグの重大度レベルを有効にします。
debug	デバッグレベルを有効にします。
error	エラーデバッグを有効にします。

info	情報デバッグを有効化します。
verbose	詳細デバッグを有効にします。
warning	警告デバッグを有効にします。

コマンドモード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Gibraltar 16.10.1	このコマンドが導入されました。

次に、IGMP スヌーピングの放射線トレース有効にする例を示します。

```
Device# debug platform condition feature multicast controlplane igmp-snooping mac
000a.f330.344a ip 10.1.1.10 vlan 550 level warning
```

関連コマンド

Command	Description
clear debug platform condition all	プラットフォームに適用されているデバッグ条件を削除します。
debug platform condition	指定した条件に基づいて debug コマンドのデバッグ出力をフィルタリングします。
debug platform condition start	システムの条件付きデバッグを開始します。
debug platform condition stop	システムの条件付きデバッグを停止します。
show platform condition	現在アクティブなデバッグ設定を表示します。

debug platform condition mac

MAC ラーニングの放射線トレースを有効にするには、特権 EXEC モードで **debug platform condition mac** コマンドを使用します。MAC ラーニングの放射線トレースを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug platform condition mac {*mac-address* {**control-plane** | **egress** | **ingress**} | **access-list** *access-list name* {**egress** | **ingress**}}

no debug platform condition mac {*mac-address* {**control-plane** | **egress** | **ingress**} | **access-list** *access-list name* {**egress** | **ingress**}}

構文の説明

mac <i>mac-address</i>	指定された MAC アドレスに基づいて出力をフィルタリングします。
access-list <i>access-list name</i>	指定されたアクセスリストに基づいて出力をフィルタリングします。
control-plane	コントロールプレーンのルーチンに関するメッセージを表示します。
egress	発信パケットに基づいて出力をフィルタリングします。
ingress	着信パケットに基づいて出力をフィルタリングします。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Gibraltar 16.10.1	このコマンドが導入されました。

次に、MAC アドレスに基づいてデバッグ出力をフィルタリングする例を示します。

```
Device# debug platform condition mac bc16.6509.3314 ingress
```

関連コマンド

Command	Description
show platform condition	現在アクティブなデバッグ設定を表示します。
debug platform condition	指定した条件に基づいて debug コマンドのデバッグ出力をフィルタリングします。

Command	Description
debug platform condition start	システムの条件付きデバッグを開始します。
debug platform condition stop	システムの条件付きデバッグを停止します。
clear debug platform condition all	プラットフォームに適用されているデバッグ条件を削除します。

debug platform rep

Resilient Ethernet Protocol (REP) 機能のデバッグをイネーブルにするには、特権 EXEC モードで **debug platform rep** コマンドを使用します。指定した条件を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

debug platform rep {all | error | event | packet | verbose}
no debug platform rep {all | error | event | packet | verbose}

構文の説明		
	all	すべての REP デバッグ機能をイネーブルにします。
	error	REP エラーデバッグをイネーブルにします。
	event	REP イベントデバッグをイネーブルにします。
	packet	REP パケットデバッグをイネーブルにします。
	verbose	REP 詳細デバッグをイネーブルにします。

コマンドモード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Gibraltar 16.10.1	このコマンドが導入されました。

次に、すべての機能のデバッグをイネーブルにする例を示します。

```
Device# debug platform rep all

debug platform rep verbose debugging is on
debug platform rep control pkt handle debugging is on
debug platform rep error debugging is on
debug platform rep event debugging is on
```

関連コマンド

Command	Description
show platform condition	現在アクティブなデバッグ設定を表示します。
debug platform condition	指定した条件に基づいて debug コマンドのデバッグ出力をフィルタリングします。

Command	Description
debug platform condition start	システムの条件付きデバッグを開始します。
debug platform condition stop	システムの条件付きデバッグを停止します。
clear debug platform condition all	プラットフォームに適用されているデバッグ条件を削除します。

debug ilpower powerman

電源コントローラおよびPower over Ethernet (PoE) システムのデバッグをイネーブルにするには、特権EXECモードで **debug ilpower powerman** コマンドを使用します。デバッグをディセーブルにする場合は、このコマンドの **no** 形式を使用します。

コマンド デフォルト このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド モード 特権 EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Gibraltar 16.10.1	このコマンドが導入されました。

次に、Cisco IOS XE Gibraltar 16.10.1 よりも前のリリースの **debug ilpower powerman** コマンドの出力例を示します。

```
Device# debug ilpower powerman
1. %ILPOWER-3-CONTROLLER_PORT_ERR: Controller port error, Interface
Gix/y/z: Power Controller reports power Imax error detected
Mar 8 16:35:17.801: ilpower_power_assign_handle_event: event 0, pwrassign
  is done by proto CDP
Port Gi1/0/48: Selected Protocol CDP
Mar 8 16:35:17.801: Ilpowerinterface (Gi1/0/48) process tlvfrom cdpINPUT:

Mar 8 16:35:17.801: power_consumption= 2640, power_request_id= 1,
power_man_id= 2,
Mar 8 16:35:17.801: power_request_level[] = 2640 0 0 0 0
Mar 8 16:35:17.801:
Mar 8 16:35:17.801: ILP:: Sending icutoffcurrent msgto slot:1 port:48
Mar 8 16:35:17.802: Ilpowerinterface (Gi1/0/48) power negotiation:
consumption = 2640, alloc_power= 2640
Mar 8 16:35:17.802: Ilpowerinterface (Gi1/0/48) setting ICUT_OFF
threshold to 2640.
Mar 8 16:35:17.802: ILP:: Sending icutoffcurrent msgto slot:1 port:48
Mar 8 16:35:17.802: ILP:: Sending icutoffcurrent msgto slot:1 port:48
Mar 8 16:35:17.803: ILP:: Sending icutoffcurrent msgto slot:1 port:48
Mar 8 16:35:17.803: ILP:: Sending icutoffcurrent msgto slot:1 port:48
Mar 8 16:35:17.803: ILP:: Sending icutoffcurrent msgto slot:1 port:48
Mar 8 16:35:18.115: ILP:: posting ilpslot 1 port 48 event 5 class 0
Mar 8 16:35:18.115: ILP:: Gi1/0/48: State=NGWC_ILP_LINK_UP_S-6,
Event=NGWC_ILP_IMAX_FAULT_EV-5
Mar 8 16:35:18.115: ilpowerdelete power from pdlinkdownGi1/0/48
Mar 8 16:35:18.115: Ilpowerinterface (Gi1/0/48), delete allocated power
  2640
Mar 8 16:35:18.116: Ilpowerinterface (Gi1/0/48) setting ICUT_OFF
threshold to 0.
Mar 8 16:35:18.116: ILP:: Sending icutoffcurrent msgto slot:1 port:48
Mar 8 16:35:18.116: ilpower_notifylldp_power_via_mdi_tlvGi1/0/48
```

```

pwralloc0
Mar 8 16:35:18.116: Gil/0/48 AUTO PORT PWR Alloc130 Request 130
Mar 8 16:35:18.116: Gil/0/48: LLDP NOTIFY TLV:
(curr/prev) PSE Allocation: 13000/0
(curr/prev) PD Request : 13000/0
(curr/prev) PD Class : Class 4/
(curr/prev) PD Priority : low/unknown
(curr/prev) Power Type : Type 2 PSE/Type 2 PSE
(curr/prev) mdi_pwr_support: 7/0
(curr/prevPower Pair) : Signal/
(curr/prev) PSE PwrSource : Primary/Unknown

```

次に、Cisco IOS XE Gibraltar 16.10.1 以降の **debug ilpower powerman** コマンドの出力例を示します。power_request_level、PSE Allocation、および PD Request に電力の単位 (mW) が追加されています。power_request_level にゼロ以外の値のみが表示されるようになりました。

```

Device# debug ilpower powerman
1. %ILPOWER-3-CONTROLLER_PORT_ERR: Controller port error, Interface
Gix/y/z: Power Controller reports power Imax error detected
Mar 8 16:35:17.801: ilpower_power_assign_handle_event: event 0, pwrassign
is done by proto CDP
Port Gil/0/48: Selected Protocol CDP
Mar 8 16:35:17.801: Ilpowerinterface (Gil/0/48) process tlvfrom cdpINPUT:

Mar 8 16:35:17.801: power_consumption= 2640, power_request_id= 1,
power_man_id= 2,
Mar 8 16:35:17.801: power_request_level(mW) = 2640
<----- mW unit added, non-zero value display
Mar 8 16:35:17.801:
Mar 8 16:35:17.801: ILP:: Sending icutoffcurrent msgto slot:1 port:48
Mar 8 16:35:17.802: Ilpowerinterface (Gil/0/48) power negotiation:
consumption = 2640, alloc_power= 2640
Mar 8 16:35:17.802: Ilpowerinterface (Gil/0/48) setting ICUT_OFF
threshold to 2640.
Mar 8 16:35:17.802: ILP:: Sending icutoffcurrent msgto slot:1 port:48
Mar 8 16:35:17.802: ILP:: Sending icutoffcurrent msgto slot:1 port:48
Mar 8 16:35:17.803: ILP:: Sending icutoffcurrent msgto slot:1 port:48
Mar 8 16:35:17.803: ILP:: Sending icutoffcurrent msgto slot:1 port:48
Mar 8 16:35:17.803: ILP:: Sending icutoffcurrent msgto slot:1 port:48
Mar 8 16:35:18.115: ILP:: posting ilpslot 1 port 48 event 5 class 0
Mar 8 16:35:18.115: ILP:: Gil/0/48: State=NGWC_ILP_LINK_UP_S-6,
Event=NGWC_ILP_IMAX_FAULT_EV-5
Mar 8 16:35:18.115: ilpowerdelete power from pdlinkdownGil/0/48
Mar 8 16:35:18.115: Ilpowerinterface (Gil/0/48), delete allocated power
2640
Mar 8 16:35:18.116: Ilpowerinterface (Gil/0/48) setting ICUT_OFF
threshold to 0.
Mar 8 16:35:18.116: ILP:: Sending icutoffcurrent msgto slot:1 port:48
Mar 8 16:35:18.116: ilpower_notify_lldp_power_via_mdi_tlvGil/0/48
pwralloc0
Mar 8 16:35:18.116: Gil/0/48 AUTO PORT PWR Alloc130 Request 130

```

```
Mar 8 16:35:18.116: Gi1/0/48: LLDP NOTIFY TLV:  
(curr/prev) PSE Allocation (mW): 13000/0  
<----- mW unit added  
(curr/prev) PD Request (mW) : 13000/0  
<----- mW unit added  
(curr/prev) PD Class : Class 4/  
(curr/prev) PD Priority : low/unknown  
(curr/prev) Power Type : Type 2 PSE/Type 2 PSE  
(curr/prev) mdi_pwr_support: 7/0  
(curr/prevPower Pair) : Signal/  
(curr/prev) PSE PwrSource : Primary/Unknown
```

delete

指定されたファイルシステムから1つ以上のファイルを削除するには、ブートローダモードで **delete** コマンドを使用します。

delete *filesystem:/file-url...*

構文の説明

filesystem: ファイルシステムのエイリアス。USBメモリスティックの場合は、**usbflash0:**を使用します。

/file-url... 削除するファイルのパス（ディレクトリ）および名前です。ファイル名はスペースで区切ります。

コマンドデフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

ブートローダ

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ファイル名およびディレクトリ名は、大文字と小文字を区別します。

各ファイルを削除する前に確認を求めるプロンプトがデバイスによって表示されます。

例

次の例では、2つのファイルを削除します。

```
Device: delete usbflash0:test2.text usbflash0:test5.text
Are you sure you want to delete "usbflash0:test2.text" (y/n)?y
File "usbflash0:test2.text" deleted
Are you sure you want to delete "usbflash0:test5.text" (y/n)?y
File "usbflash0:test2.text" deleted
```

ファイルが削除されたことを確認するには、**dir usbflash0:** ブートローダコマンドを入力します。

dir

指定されたファイルシステムのファイルおよびディレクトリのリストを表示するには、ブートローダモードで **dir** コマンドを使用します。

dir *filesystem:/file-url*

構文の説明

filesystem: ファイルシステムのエイリアス。システム ボードフラッシュ デバイスには **flash:** を使用します。USB メモリスティックには **usbflash0:** を使用します。

/file-url (任意) 表示するコンテンツが格納されているパス (ディレクトリ) およびディレクトリの名前です。ディレクトリ名はスペースで区切ります。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

ブートローダ
特権 EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。

例

次の例では、フラッシュメモリ内のファイルを表示する方法を示します。

```
Device: dir flash:
Directory of flash:/
 2  -rwx      561  Mar 01 2013 00:48:15  express_setup.debug
 3  -rwx    2160256  Mar 01 2013 04:18:48  c2960x-dmon-mz-150-2r.EX
 4  -rwx     1048  Mar 01 2013 00:01:39  multiple-fs
 6  drwx      512  Mar 01 2013 23:11:42  c2960x-universalk9-mz.150-2.EX
645 drwx      512  Mar 01 2013 00:01:11  dc_profile_dir
647 -rwx     4316  Mar 01 2013 01:14:05  config.text
648 -rwx         5  Mar 01 2013 00:01:39  private-config.text

96453632 bytes available (25732096 bytes used)
```

表 1: **dir** のフィールドの説明

フィールド	説明
2	ファイルのインデックス番号

フィールド	説明
-rwx	ファイルのアクセス権（次のいずれか、またはすべて） <ul style="list-style-type: none">• d : ディレクトリ• r : 読み取り可能• w : 書き込み可能• x : 実行可能
1644045	ファイルのサイズ
<date>	最終変更日
env_vars	ファイル名

emergency-install

システムで緊急インストールを実行するには、ブートローダモードで **emergency-install** コマンドを使用します。



(注) この機能は、Cisco Catalyst 9500 シリーズ ハイ パフォーマンス スイッチではサポートされません。

emergency-install *url://<url>*

構文の説明

<url> 緊急インストールバンドルイメージが格納されているファイルの URL と名前です。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

ブートローダ

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

インストール操作時にブートフラッシュが消去されます。緊急インストール操作を実行した後、**set BOOT flash:packages.conf** コマンドを使用して ROMMON プロンプトで BOOT 変数を設定し、ブートローダモードで **boot flash:packages.conf** コマンドを手動で実行してシステムを起動します。ROMMON プロンプトで BOOT 変数が設定されていない場合は、システムが起動してから、グローバル コンフィギュレーション モードで **boot system flash:packages.conf** コマンドを使用してデバイスプロンプトで BOOT 変数を設定します。

例

次に、イメージファイルの内容を使用して緊急インストール操作を実行する例を示します。

```
Device: emergency-install tftp:<url>
The bootflash will be erased during install operation, continue (y/n)?y
Starting emergency recovery (tftp:<url> ...
Reading full image into memory.....done
Nova Bundle Image
-----
Kernel Address      : 0x6042d5c8
Kernel Size         : 0x317ccc/3243212
Initramfs Address   : 0x60745294
Initramfs Size      : 0xdc6774/14444404
Compression Format: .mzip

Bootable image at @ ram:0x6042d5c8
```


exit

以前のモードに戻るか、CLI EXEC モードを終了するには、**exit** コマンドを使用します。

exit

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

特権 EXEC

グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

次に、コンフィギュレーション モードを終了する例を示します。

```
Device(config)# exit
Device#
```

factory-reset

お客様固有のすべてのデータを消去し、デバイスを工場出荷時の設定に戻すには、特権 EXEC モードで **factory-reset** コマンドを使用します。



(注) NIST SP 800-88 Rev. 1 で説明されているように、消去は **clear** メソッドと一致します。

Standalone Device

```
factory-reset { all [secure 3-pass] | boot-vars | config }
```

Stacked Device

```
factory-reset { all [secure 3-pass] | boot-vars | config | switch switch_number | all { all [secure 3-pass] | boot-vars | config } }
```

構文の説明

all	NVRAM のすべての内容、現在のブートイメージ、ブート変数、起動コンフィギュレーションと実行コンフィギュレーションのデータ、およびユーザデータを含むすべての Cisco IOS イメージを消去します。
secure 3-pass	3-pass 上書きでデバイスからすべての内容を消去します。 <ul style="list-style-type: none"> • Pass 1 : すべてのアドレス可能な場所を 2 進数のゼロで上書きします。 • Pass 2 : すべてのアドレス可能な場所を 2 進数の 1 で上書きします。 • Pass 3 : すべてのアドレス可能な場所をランダムビットパターンで上書きします。
boot-vars	ユーザによって追加されたブート変数のみを消去します。
config	スタートアップ コンフィギュレーションのみを消去します。
switch { <i>switch_number</i> all }	選択したスイッチのコンテンツを消去します。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>switch-number</i> : スイッチ番号を指定します。指定できる範囲は 1 ~ 16 です。 • all : スタック内のすべてのスイッチを選択します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Fuji 16.8.1a	このコマンドが導入されました。

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Amsterdam 17.2.1	secure 3-pass キーワードと switch キーワードが導入されました。

使用上のガイドライン **factory-reset** コマンドは、次のシナリオで使用されます。

- 返品許可（RMA）のためにデバイスをシスコに返送する必要がある場合は、このコマンドを使用してお客様固有のデータをすべて削除してからデバイスの RMA 証明書を取得します。
- デバイ스에保存されている重要な情報やクレデンシャルに不正にアクセスされた場合は、このコマンドを使用してデバイスを初期設定にリセットしてから再設定します。

工場出荷時の状態へのリセットプロセスが正常に完了すると、デバイスがリブートして ROMMON モードになります。

例

次に、**factory-reset all** コマンドを使用してデバイスのすべての内容を消去する例を示します。

```
Device> enable
Device# factory-reset all

The factory reset operation is irreversible for all operations. Are you sure? [confirm]
The following will be deleted as a part of factory reset:
1: Crash info and logs
2: User data, startup and running configuration
3: All IOS images, including the current boot image
4: OBFL logs
5: User added rommon variables
6: Data on Field Replaceable Units(USB/SSD/SATA)
The system will reload to perform factory reset.
It will take some time to complete and bring it to rommon.
You will need to load IOS image using USB/TFTP from rommon after
this operation is completed.
DO NOT UNPLUG THE POWER OR INTERRUPT THE OPERATION
Are you sure you want to continue? [confirm]
```

次に、スタック構成デバイスで初期設定へのリセットを実行する例を示します。

```
Device> enable
Device# factory-reset switch all all

The factory reset operation is irreversible for all operations. Are you sure? [confirm]
The following will be deleted as a part of factory reset:
1: Crash info and logs
2: User data, startup and running configuration
3: All IOS images, including the current boot image
4: OBFL logs
5: User added rommon variables
6: Data on Field Replaceable Units(USB/SSD/SATA)
The system will reload to perform factory reset.
It will take some time to complete and bring it to rommon.
You will need to load IOS image using USB/TFTP from rommon after
this operation is completed.
DO NOT UNPLUG THE POWER OR INTERRUPT THE OPERATION
Are you sure you want to continue? [confirm]
Chassis 1 reloading, reason - Factory Reset
```

```
Protection key not found
9300L#Oct 25 09:53:05.740: %PMAN-5-EXITACTION: F0/0: pvp: Process manager is exiting:
reload fp action requested
Oct 25 09:53:07.277: %PMAN-5-EXITACTION:vp: Process manager is exiting: rp processes
exit with reload switch code

Enabling factory reset for this reload cycle
Switch booted with
tftp://10.5.40.45/cat9k_iosxe.BLD_POLARIS_DEV_LATEST_20191007_224933_V17_2_0_21_2.SSA.bin

Switch booted via
//10.5.40.45/cat9k_iosxe.BLD_POLARIS_DEV_LATEST_20191007_224933_V17_2_0_21_2.SSA.bin
% FACTORYRESET - Started Cleaning Up...

% FACTORYRESET - Unmounting sd1
% FACTORYRESET - Cleaning Up sd1 [0]
% FACTORYRESET - erase In progress.. please wait for completion...
% FACTORYRESET - write zero...
% FACTORYRESET - finish erase

% FACTORYRESET - Making File System sd1 [0]
Discarding device blocks: done
Creating filesystem with 409600 4k blocks and 102544 inodes
Filesystem UUID: fcf01664-7c6f-41ce-99f0-6df1d941701e
Superblock backups stored on blocks:
 32768, 98304, 163840, 229376, 294912

Allocating group tables: done
Writing inode tables: done
Writing superblocks and filesystem accounting information: done

% FACTORYRESET - Mounting Back sd1 [0]
% FACTORYRESET - Handling Mounted sd1
% FACTORYRESET - Factory Reset Done for sd1

% FACTORYRESET - Unmounting sd3
% FACTORYRESET - Cleaning Up sd3 [0]
% FACTORYRESET - erase In progress.. please wait for completion...
% FACTORYRESET - write zero...

Chassis 2 reloading, reason - Factory Reset
Dec 12 01:02:12.500: %PMAN-5-EXITACTION: F0/0: pvp: Process manager is exiting: reload
fp action requested
De
Enabling factory reset for this reload cycle
Switch booted with
tftp://10.5.40.45/cat9k_iosxe.BLD_POLARIS_DEV_LATEST_20191007_224933_V17_2_0_21_2.SSA.bin

Switch booted via
//10.5.40.45/cat9k_iosxe.BLD_POLARIS_DEV_LATEST_20191007_224933_V17_2_0_21_2.SSA.bin
% FACTORYRESET - Started Cleaning Up...
% FACTORYRESET - Unmounting sd1
% FACTORYRESET - Cleaning Up sd1 [0]
% FACTORYRESET - erase In progress.. please wait for completion...
% FACTORYRESET - write zero...

After this the switch will come to boot prompt. Then the customer has to boot the device
from TFTP.
```

flash_init

flash: ファイルシステムを再初期化するには、ブートローダモードで **flash_init** コマンドを使用します。

flash_init

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

flash: ファイルシステムは、通常のシステム動作中に自動的に初期化されます。

コマンド モード

ブートローダ

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

flash: ファイルシステムは、通常のブートプロセス中に自動的に初期化されます。

このコマンドは、flash: ファイルシステムを手動で初期化します。たとえば、パスワードを忘れた場合には、回復手順中にこのコマンドを使用します。

help

利用可能なコマンドを表示するには、ブートローダモードで **help** コマンドを使用します。

help

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

ブートローダ

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

例

次に、利用可能なブートローダコマンドのリストを表示する例を示します。

```
Device:help
? -- Present list of available commands
arp -- Show arp table or arp-resolve an address
boot -- Load and boot an executable image
cat -- Concatenate (type) file(s)
copy -- Copy a file
delete -- Delete file(s)
dir -- List files in directories
emergency-install -- Initiate Disaster Recovery
...
...
...
unset -- Unset one or more environment variables
version -- Display boot loader version
```

hostname

ネットワークサーバーのホスト名を指定または変更するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **hostname** コマンドを使用します。

hostname *name*

構文の説明	<i>name</i>	ネットワークサーバーの新しいホスト名を指定します。
-------	-------------	---------------------------

コマンド デフォルト デフォルトのホスト名は、「switch」です。

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン ホスト名は、プロンプトとデフォルトのコンフィギュレーションファイル名で使用されます。

大文字小文字は区別されないものと思ってください。多くのインターネット ソフトウェア アプリケーションでは、大文字と小文字は区別されません。名前は英語と同様に大文字で始めるのが適切であるように思われますが、規則によりコンピュータ名はすべて小文字で表示されません。詳細については、RFC 1178 の『*Choosing a Name for Your Computer*』を参照してください。

名前は ARPANET ホスト名のルールにも従う必要があります。このルールではホスト名は文字で始まり、文字または数字で終わり、その間には文字、数字、またはハイフンしか使用できません。名前は 63 文字以下にする必要があります。数字のみのホスト名を作成することは推奨されませんが、エラーが返された後にそのホスト名は受け入れられます。

```
Device(config)#hostname 123
% Hostname contains one or more illegal characters.
123(config)#
```

ホスト名は 10 文字未満にすることを推奨します。詳細については、RFC 1035 の『*Domain Names--Implementation and Specification*』を参照してください。

ほとんどのシステムでは、ホスト名と CLI のプロンプトに 30 文字のフィールドが使用されています。ホスト名の長さによっては、コンフィギュレーションモードの長いプロンプトが切り捨てられる可能性があるので注意してください。たとえば、サービス プロファイル コンフィギュレーション モードのフルプロンプトは、次のとおりです。

```
(config-service-profile)#
```

ただし、「Switch」をホスト名として使用すると、次のプロンプトだけが表示されます（ほとんどのシステムで）。


```
Switch(config-service-profil)#
```

ホスト名をさらに長くすると、表示されるプロンプトはさらに短くなります。

```
Basement-rtr2(config-service)#
```

システムに名前を割り当てる際は、この点に注意してください (**hostname** グローバルコンフィギュレーションコマンドを使用する場合)。ユーザーがCLIのナビゲーション支援としてモードプロンプトを使用すると予想される場合は、9文字以下のホスト名を割り当てる必要があります。

hostname のような文字設定に「\」（バックスラッシュ）などの特殊文字および3桁以上の数字を使用すると、誤って変換されます。

```
Device(config)#  
Device(config)#hostname \99  
% Hostname contains one or more illegal characters.
```

例

次の例では、ホスト名を「host1」に変更します。

```
Device(config)# hostname host1  
host1(config)#
```

install

ソフトウェア メンテナンス アップグレード (SMU) パッケージをインストールするには、特権 EXEC モードで **install** コマンドを使用します。

```
install {abort | activate | file {bootflash: | flash: | harddisk: | webui:} [{auto-abort-timer timer
timer prompt-level {all | none}}] | add file {bootflash: | flash: | ftp: | harddisk: | http: | https: |
rep: | scp: | tftp: | webui:} [{activate [{auto-abort-timer timer prompt-level {all | none} commit}]}]
| commit | auto-abort-timer stop | deactivate file {bootflash: | flash: | harddisk: | webui:} | label
id {description description | label-name name} | remove {file {bootflash: | flash: | harddisk: | webui:}
| inactive } | rollback to {base | committed | id {install-ID} | label {label-name}}}
```

構文の説明

abort	現在のインストール操作を終了します。
activate	<p>install add コマンドを通じて SMU が追加されているかどうかを検証します。</p> <p>このキーワードは、互換性チェックを実行し、パッケージステータスを更新します。パッケージを再起動できる場合はポストインストール スクリプトをトリガーして必要なプロセスを再起動するか、または再起動できないパッケージの場合はリロードをトリガーします。</p>
file	アクティブにするパッケージを指定します。
{bootflash: flash: harddisk: webui:}	インストールしたパッケージのロケーションを指定します。
auto-abort-timer timer	(任意) 自動アボートタイマーをインストールします。
prompt-level {all none}	<p>(任意) インストールアクティビティについてのプロンプトをユーザに表示します。</p> <p>たとえば、activate キーワードはリロードが必要なパッケージに対してリロードを自動的にトリガーします。パッケージをアクティブにする前に、続行するかどうかについてユーザに確認するプロンプトが表示されます。</p> <p>all キーワードを使用するとプロンプトをイネーブルにすることができます。none キーワードはプロンプトをディセーブルにします。</p>

add	<p>ファイルをリモートロケーション（FTPまたはTFTP）からデバイスにコピーし、プラットフォームとイメージのバージョンのSMU互換性チェックを実行します。</p> <p>このキーワードは、指定したパッケージがプラットフォームで必ずサポートされるように基本の互換性チェックを実行します。</p>
{ bootflash: flash: ftp: harddisk: http: https: rcp: scp: tftp: webui: }	追加するパッケージを指定します。
commit	<p>リロード後もSMUの変更が持続されるようにします。</p> <p>パッケージをアクティブにした後、システムがアップ状態にある間、または最初のリロード後にコミットを実行できます。パッケージがアクティブになっていてもコミットされていない場合は、最初のリロード後はアクティブの状態を保ちますが、2回目のリロード後はアクティブ状態を保ちません。</p>
auto-abort-timer stop	自動アボートタイマーを停止します。
deactivate	<p>インストールしたパッケージを非アクティブにします。</p> <p>(注) パッケージを非アクティブにすると、パッケージステータスも更新され、プロセスが再起動またはリロードされることがあります。</p>
label <i>id</i>	ラベルを付けるインストールポイントのIDを指定します。
description	指定したインストールポイントに説明を追加します。
label-name <i>name</i>	指定されたインストールポイントにラベル名を追加します。
remove	<p>インストールしたパッケージを削除します。</p> <p>remove キーワードは、現在非アクティブ状態のパッケージでのみ使用できます。</p>
inactive	非アクティブ状態のすべてのパッケージをデバイスから削除します。

rollback	データモデルインターフェイス (DMI) パッケージ SMU をベースバージョン、最後にコミットされたバージョン、または既知のコミット ID にロールバックします。
to base	ベースイメージに戻します。
committed	最後のコミット操作が実行されたときのインストール状態に戻します。
id <i>install-ID</i>	特定のインストールポイント ID に戻します。有効な値は、1 ~ 4294967295 です。

コマンド デフォルト パッケージはインストールされません。

コマンド モード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.6.1	このコマンドが導入されました。
	Cisco IOS XE Fuji 16.9.1	ホットパッチのサポートが導入されました。出力例がホット SMU の出力に更新されました。

使用上のガイドライン SMU は、システムにインストールしてパッチ修正やセキュリティ解決をリリースされたイメージに提供ができるパッケージです。このパッケージには、パッケージの内容を記述するいくつかのメタデータとともに、リリースにパッチを適用するための最小限の一連のファイルが含まれています。

SMU をアクティブ化する前にパッケージを追加する必要があります。

パッケージは、フラッシュから削除する前に非アクティブにする必要があります。削除したパッケージは、もう一度追加する必要があります。

次に、インストールパッケージをデバイスに追加する例を示します。

```
Device# install add file
flash:cat9k_iosxe.BLD_SMU_20180302_085005_TWIG_LATEST_20180306_013805.3.SSA.smu.bin

install_add: START Mon Mar  5 21:48:51 PST 2018
install_add: Adding SMU

--- Starting initial file syncing ---
Info: Finished copying
flash:cat9k_iosxe.BLD_SMU_20180302_085005_TWIG_LATEST_20180306_013805.3.SSA.smu.bin to
the selected switch(es)
Finished initial file syncing

Executing pre scripts....

Executing pre scripts done.
--- Starting SMU Add operation ---
```

```

Performing SMU_ADD on all members
  [1] SMU_ADD package(s) on switch 1
  [1] Finished SMU_ADD on switch 1
Checking status of SMU_ADD on [1]
SMU_ADD: Passed on [1]
Finished SMU Add operation

SUCCESS: install_add
/flash/cat9k_iosxe.BLD_SMU_20180302_085005_TWIG_LATEST_20180306_013805.3.SSA.smu.bin Mon
Mar  5 21:49:00 PST 2018

```

次に、インストールパッケージをアクティブにする例を示します。

```

Device# install activate file
flash:cat9k_iosxe.BLD_SMU_20180302_085005_TWIG_LATEST_20180306_013805.3.SSA.smu.bin

install_activate: START Mon Mar  5 21:49:22 PST 2018
install_activate: Activating SMU
Executing pre scripts....

Executing pre sripts done.

--- Starting SMU Activate operation ---
Performing SMU_ACTIVATE on all members
  [1] SMU_ACTIVATE package(s) on switch 1
  [1] Finished SMU_ACTIVATE on switch 1
Checking status of SMU_ACTIVATE on [1]
SMU_ACTIVATE: Passed on [1]
Finished SMU Activate operation

SUCCESS: install_activate
/flash/cat9k_iosxe.BLD_SMU_20180302_085005_TWIG_LATEST_20180306_013805.3.SSA.smu.bin Mon
Mar  5 21:49:34 PST 2018

```

次に、インストールしたパッケージをコミットする例を示します。

```

Device# install commit

install_commit: START Mon Mar  5 21:50:52 PST 2018
install_commit: Committing SMU
Executing pre scripts....

Executing pre sripts done.
--- Starting SMU Commit operation ---
Performing SMU_COMMIT on all members
  [1] SMU_COMMIT package(s) on switch 1
  [1] Finished SMU_COMMIT on switch 1
Checking status of SMU_COMMIT on [1]
SMU_COMMIT: Passed on [1]
Finished SMU Commit operation

SUCCESS: install_commit
/flash/cat9k_iosxe.BLD_SMU_20180302_085005_TWIG_LATEST_20180306_013805.3.SSA.smu.bin Mon
Mar  5 21:51:01 PST 2018

```

関連コマンド

コマンド	説明
show install	インストールパッケージに関する情報を表示します。

ip ssh bulk-mode

セキュアシェル（SSH）バルクデータ転送モードをイネーブルにするには、グローバル コンフィギュレーションモードで **ip ssh bulk-mode** コマンドを使用します。このモードをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip ssh bulk-mode
no ip ssh bulk-mode

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

SSH 一括モードが有効になっていません。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Amsterdam 17.2.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

SSH 一括モードを使用すると、大量のデータ転送を伴うプロシージャのスループットパフォーマンスを最適化できます。一括コピーの最適化を活用するために、セキュアコピー機能が強化されました。この操作は、他のファイル転送操作と比較して、CPUやメモリなどのシステムリソースをより多く消費するため、大きなファイルを転送するための **ip ssh bulk-mode** コマンドを有効にすることをお勧めします。システムリソースが大量にロードされている場合は、このコマンドを使用しないでください。必要なファイル転送が完了したら、このコマンドをディセーブルにします。



- (注)
- 一括データ転送モードは、時間ベースまたはボリュームベースの SSH キー再生成機能をサポートしていません。
 - 一括データ転送モードは、SSH バージョン 1 ではサポートされていません。
 - **ip ssh bulk-mode** コマンドがイネーブルになっている場合、**ip ssh window-size** コマンドを設定しないでください。

例

次に、SSH サーバで一括データ転送モードを有効にする例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# ip ssh bulk-mode
Device(config)# exit
```

関連コマンド

コマンド	説明
ip ssh window-size	Secure Copy Protocol のウィンドウサイズを変更します。

l2 traceroute

レイヤ2 トレースルートサーバを有効にするには、グローバル コンフィギュレーション モードで **l2 traceroute** コマンドを使用します。レイヤ2 トレースルートサーバを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

l2 traceroute
no l2 traceroute

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション (config#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

レイヤ2 トレースルートはデフォルトでは有効になっており、ユーザ データグラム プロトコル (UDP) ポート 2228 でリスニングソケットが開きます。UDP ポート 2228 を閉じてレイヤ2 トレースルートが無効にするには、グローバルコンフィギュレーションモードで **no l2 traceroute** コマンドを使用します。

次に、**l2 traceroute** コマンドを使用してレイヤ2 トレースルートを設定する例を示します。

```
Device# configure terminal
Device(config)# l2 traceroute
```


license air level

Cisco Catalyst アクセス、コア、およびアグリゲーションスイッチに接続されているワイヤレスコントローラで AIR ライセンスを設定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **license air level** コマンドを入力します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
license air level { air-network-advantage [ addon air-dna-advantage ] | air-network-essentials [ addon air-dna-essentials ] }
```

```
no license air level
```

構文の説明

air-network-advantage AIR Network Advantage ライセンスレベルを設定します。

addon air-dna-advantage (任意) アドオンの AIR DNA の Advantage ライセンスレベルを設定します。

このアドオンオプションは AIR Network Advantage ライセンスで使用できる、デフォルトのライセンスです。

air-network-essentials AIR Network Essential ライセンスレベルを設定します。

addon air-dna-essentials (任意) アドオンの AIR DNA の Essential ライセンスレベルを設定します。

このアドオンオプションは AIR Network Essential ライセンスで使用できます。

コマンド デフォルト

AIR DNA Advantage がデフォルトのライセンスです

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (Device(config)#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Gibraltar 16.10.1	このコマンドが導入されました。
Cisco IOS XE Amsterdam 17.3.2a	このコマンドは、このリリースで導入されるポリシーを使用したスマートライセンスで、引き続き使用および適用することができます。詳細については、「使用上のガイドライン」セクションを参照してください。

使用上のガイドライン

ポリシーを使用したスマートライセンスの環境では、**license air level** コマンドを使用して、製品インスタンスで使用されているライセンスレベルを変更したり、製品インスタンスでアドオンライセンスを追加設定したりすることができます。変更はリロード後に有効になります。

設定できるライセンスは次のとおりです。

- AIR Network Essential

- AIR Network Advantage
- AIR DNA Essential
- AIR DNA Advantage

DNA ライセンスを更新しない場合は、AIR DNA Essential または AIR DNA Advantage ライセンスレベルを設定し、期限切れになった時点で Network Advantage または Network Essentials のライセンスレベルに移行することができます。

接続しているすべてのアクセスポイントにおいて、コントローラの一意的な値プロパティを利用するために、Cisco DNA Center ライセンスが必要です。

詳細については、「[Cisco Catalyst 9800 Series Wireless Controller Software Configuration Guide](#)」を参照してください。

例

次に、AIR DNA Essential ライセンスレベルを設定する例を示します。

```
Device# configure terminal
Device(config)# license air level network-essentials addon air-dna-essentials
```

次に、AIR DNA Advantage ライセンスレベルを設定する例を示します。

```
Device# configure terminal
Device(config)# license air level air-network-advantage addon air-dna-advantage
```

license boot level

デバイスで新しいソフトウェアライセンスを起動するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **license boot level** コマンドを使用します。すべてのソフトウェアライセンスをデバイスから削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

license boot level { **network-advantage** [**addon dna-advantage**] | **network-essentials** [**addon dna-essentials**] }

no license boot level

構文の説明

network-advantage [**addon dna-advantage**] Network Advantage ライセンスを設定します。オプションで、デジタルネットワークアーキテクチャ (DNA) Advantage ライセンスを設定することもできます。

network-essentials [**addon dna-essentials**] Network Essential ライセンスを設定します。オプションで、デジタルネットワークアーキテクチャ (DNA) Essential ライセンスを設定することもできます。

コマンド デフォルト

Network Essentials

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Fuji 16.9.1	このコマンドが導入されました。
Cisco IOS XE Amsterdam 17.3.2a	このコマンドは、このリリースで導入されるポリシーを使用したスマートライセンスで、引き続き使用および適用することができます。詳細については、「使用上のガイドライン」セクションを参照してください。

使用上のガイドライン

Cisco Catalyst 9000 シリーズ スイッチで使用可能なソフトウェア機能は、次のように、基本またはアドオンのライセンスレベルに分類されます。

基本ライセンス :

- Network Essentials
- Network Advantage : Network Essentials ライセンスで使用可能な機能と追加機能が含まれません。

アドオンライセンス :

- DNA Essentials
- DNA Advantage : Network Essentials ライセンスで使用可能な機能と追加機能が含まれます。

基本ライセンスは永続的または永久に効力を持つライセンスです。

アドオンライセンスはサブスクリプションまたは期間ライセンスであり、3年、5年、または7年の期間にわたって購入できます。基本ライセンスは、アドオンライセンスの前提条件です。詳細については、リリース ノートを参照してください。

以下のセクションでは、以前のスマートライセンス環境およびポリシーを使用したスマートライセンス環境での **license boot level** コマンドの使用について説明します。

ポリシーを使用したスマートライセンス : デバイス上のソフトウェアバージョン（製品インスタンスとも呼ばれる）が Cisco IOS XE Amsterdam 17.3.2a 以降のリリースの場合、ポリシーを使用したスマートライセンスはデフォルトで有効になっており、次の目的で **license boot level** コマンドを使用できます。

- 製品インスタンスで使用されている基本またはアドオンのライセンスレベルを変更します。
たとえば、Network Essentials を使用していて、次のリロードで Network Advantage を使用する場合や、DNA Advantage を使用して次のリロードで DNA Essentials を使用する場合があります。
- 製品インスタンスで使用されているアドオンのライセンスレベルを追加または削除します。
たとえば、Network Essentials のみを使用していて、次のリロードで DNA Essentials を使用する場合、または DNA Advantage を使用しており、次のリロード後にアドオンを使用しない場合です。

評価ライセンスまたは期限切れライセンスの概念は、ポリシーを使用したスマートライセンスには存在しません。

コマンドを設定すると、設定したライセンスは次のリロード後に有効になります。ライセンスの使用状況は引き続きデバイスに記録され、この変更されたライセンス設定情報は、次のリソース使用率測定レポート（RUMレポート）を介して CSSM に送信する必要があります。レポートの要件と頻度は、適用されるポリシーによって決まります。**show license status** コマンド出力の「使用状況レポート」の項を参照してください。ポリシーを使用したスマートライセンスの詳細については、必要なリリースのソフトウェア設定ガイドで、「*System Management*」 > 「*Smart Licensing Using Policy*」を参照してください。

スマートライセンス : デバイス上のソフトウェアバージョンが Cisco IOS XE Amsterdam 17.3.1 以前のリリースの場合、スマートライセンスはデフォルトで有効になっており、次の目的で **license boot level** コマンドを使用できます。

- ライセンスのダウングレードとアップグレード
- 評価ライセンスと拡張ライセンスの有効化と無効化
- アップグレードライセンスのクリア

このコマンドは、特定のモジュールのライセンスインフラストラクチャで保持されているライセンス階層ではなく、設定されたライセンスレベルで起動するようにライセンスインフラストラクチャを設定します。

- スイッチをリロードすると、ライセンスインフラストラクチャでスタートアップコンフィギュレーションの設定にライセンスがあるかどうかを確認されます。設定にライセンスがある場合、そのライセンスでスイッチが起動します。ライセンスがない場合、ライセンスインフラストラクチャでイメージ階層に従ってライセンスが確認されます。
- 強制ブート評価ライセンスが期限切れの場合、ライセンスインフラストラクチャで通常の階層に従ってライセンスが確認されます。
- 設定されたブートライセンスがすでに期限切れになっている場合、ライセンスインフラストラクチャで階層に従ってライセンスが確認されます。

次に、次回のリロード時に Network Essentials ライセンスを設定する例を示します。

```
Device# configure terminal
Device(config)# license boot level network-essentials
Device(config)# exit
Device# copy running-config startup-config
Device# reload
```

次に、次回のリロード時に DNA Essentials ライセンスを設定する例を示します。

```
Device# configure terminal
Device(config)# license boot level network-essentials add-on dna-essentials
Device(config)# exit
Device# copy running-config startup-config
Device# reload
```

license smart (グローバル コンフィギュレーション)

製品インスタンスが Cisco Smart Software Manager (CSSM) や Cisco Smart Licensing Utility (CSLU) 、または Smart Software Manager オンプレミス (SSM オンプレミス) との通信に使用するトランスポートモードや URL などのライセンス関連の設定を行い、使用状況レポートの間隔を設定し、ライセンス使用状況レポート (RUM レポート) に含めるか、または除外する必要がある情報を設定するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **license smart** コマンドを入力します。デフォルト値に戻すには、コマンドの **no** 形式を使用します。

```
license smart { custom_id ID | enable | privacy { all | hostname | version } | proxy { address
address_hostname | port port } | reservation | server-identity-check | transport { automatic |
callhome | cslu | off | smart } | url { url | cslu cslu_or_on-prem_url | default | smart smart_url |
utility secondary_url } | usage { customer-tags { tag1 | tag2 | tag3 | tag4 } tag_value | interval
interval_in_days } | utility [ customer_info { city city | country country | postalcode postalcode |
state state | street street } ] }
```

```
no license smart { custom_id | enable | privacy { all | hostname | version } | proxy { address
address_hostname | port port } | reservation | server-identity-check | transport | url { url | cslu
cslu_or_on-prem_url | default | smart smart_url | utility secondary_url } | usage { customer-tags {
tag1 | tag2 | tag3 | tag4 } tag_value | interval interval_in_days } | utility [ customer_info { city
city | country country | postalcode postalcode | state state | street street } ] }
```

構文の説明

custom_id ID	このオプションは CLI では使用できませんがサポートされていません。
enable	このキーワードは CLI には表示されますが、設定しても効果はありません。スマートライセンスは常に有効になっています。
privacy { all hostname version }	CSSMに送信される使用状況レポートから特定の情報を除外できます。次のオプションから選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • all : すべての通信で最小限のライセンス情報のみを送信します。 • hostname : 通信からホスト名を除外します。 • version : 通信から製品インスタンスのエージェントのバージョン情報を除外します。

proxy { address <i>address_hostname</i> port <i>port</i> }	<p>CSLUまたはCSSMとライセンス使用状況を同期するためにプロキシを設定します。つまり、トランスポートモードが license smart transport smart (CSSM) または license smart transport cslu (CSLU) の場合にのみ、このオプションを使用してプロキシを設定できます。</p> <p>ただし、トランスポートモードとして license smart transport cslu も使用する SSM オンプレミス展開では、ライセンス使用状況の同期にプロキシは設定できません。</p> <p>次のオプションを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none">• address <i>address_hostname</i> : プロキシアドレスを設定します。 <i>address_hostname</i> には、プロキシの IP アドレスまたはホスト名を入力します。• port <i>port</i> : プロキシポートを設定します。 <i>port</i> には、プロキシポート番号を入力します。
reservation	<p>ライセンス予約機能を有効または無効にします。</p> <p>(注) このオプションは、CLI で使用できますが、ライセンスの予約が適用されないため、ポリシーを使用したスマートライセンスニングの環境では適用されません。</p>
server-identity-check	<p>HTTP セキュアサーバの ID チェックを有効または無効にします。</p>

transport { automatic | callhome | cslu | off | smart } 製品インスタンスが CSSM との通信に使用する転送モードを設定します。次のオプションから選択します。

- **automatic** : 転送モード **cslu** を設定します。
- **callhome** : 転送モードとして Call Home を有効にします。
- **cslu** : 転送モードとして CSLU を有効にします。これがデフォルトの転送モードです。

CSLU と SSM オンプレミスの両方に同じキーワードが適用されますが、URL が異なります。次の行の **cslu***cslu_or_on-prem_url* を参照してください。

- **off** : 製品インスタンスからのすべての通信を無効にします。
 - **smart** : スマート転送を有効にします。
-

```
url { url | cslu cslu_url | default | smart  
smart_url | utility secondary_url }
```

設定された転送モードの URL を設定します。次のオプションから選択します。

- **url** : 転送モードとして **callhome** を設定している場合は、このオプションを設定します。
CSSM URL を次のように正確に入力します。

```
https://software.cisco.com/#module/SmartLicensing
```

no license smart url url コマンドは、デフォルトの URL に戻ります。

- **cslu cslu_or_on-prem_url** : トランスポートモードを **cslu** として設定している場合は、必要に応じて CSLU または SSM オンプレミスの URL を使用してこのオプションを設定します。

- CSLU を使用している場合は、次のように URL を入力します。

```
http://<cslu_ip_or_host>:8182/cslu/v1/pi
```

<cslu_ip_or_host> には、CSLU をインストールした Windows ホストのホスト名や IP アドレスを入力します。8182 はポート番号であり、CSLU が使用する唯一のポート番号です。

no license smart url cslu cslu_or_on-prem_url コマンドは

```
http://cslu-local:8182/cslu/v1/pi
```

に戻ります。

- SSM オンプレミスを使用している場合は、次のように URL を入力します。

```
http://<ip>/cslu/v1/pi/<tenant ID>
```

<ip> には、SSM オンプレミスをインストールしたサーバのホスト名または IP アドレスを入力します。<tenantID> はデフォルトのローカルバーチャルアカウント ID にする必要があります。

ヒント SSM オンプレミスから URL 全体を取得できます。該当するリリース (17.3.x 以降) のソフトウェア コンフィギュレーション ガイドで、「System Management」 > 「Smart Licensing Using Policy」 > 「Task Library for Smart Licensing Using Policy」 > 「Retrieving the

Transport URL (SSM On-Prem UI)」を参照してください。

no license smart url cslu cslu_or_on-prem_url コマンドは

<http://cslu-local:8182/cslu/v1/pi> に戻ります。

- **default** : 設定されている転送モードによって異なります。このオプションでは、**smart**および**cslu** 転送モードのみがサポートされます。

転送モードが **cslu** に設定されている場合、**license smart url default** を設定すると、CSLU URL は自動的に設定されます

(<https://cslu-local:8182/cslu/v1/pi>)。

転送モードが **smart** に設定されている場合、**license smart url default** を設定すると、スマート URL は自動的に設定されます

(<https://smartreceiver.cisco.com/licservice/license>)。

- **smart smart_url** : 転送タイプとして **smart** を設定している場合は、このオプションを設定します。URL を次のように正確に入力します。

<https://smartreceiver.cisco.com/licservice/license>

このオプションを設定すると、システムは **license smart url url** で自動的に URL の複製を作成します。重複するエントリは無視できません。これ以上の操作は必要ありません。

no license smart url smart smart_url コマンドは、デフォルトの URL に戻ります。

- **utility smart_url** : このオプションは CLI では使用できませんがサポートされていません。

usage { **customer-tags** { **tag1** | **tag2** | **tag3** | **tag4** } *tag_value* | **interval** *interval_in_days* }
 } 使用状況レポートの設定を構成します。次のオプションを設定できます。

- **customer-tags** { **tag1** | **tag2** | **tag3** | **tag4** } *tag_value* : テレメトリ用のデータモデルに含める文字列を定義します。最大4つの文字列 (またはタグ) を定義できます。

tag_value には、定義する各タグの文字列値を入力します。

- **interval** *interval_in_days* : レポート間隔の日数を設定します。デフォルトでは、RUM レポートは 30 日ごとに送信されます。有効な値の範囲は 1 ~ 3650 です。

この値をゼロに設定すると、適用されるポリシーの指定内容に関係なく、RUM レポートは送信されません。これは、CSLU または CSSM が受信側にある可能性があるトポロジに適用されます。

ゼロより大きい値を設定し、通信タイプがオフに設定されている場合、*interval_in_days* と Ongoing reporting frequency (days) : のポリシー値の間で、値の小さい方が適用されます。たとえば、*interval_in_days* が 100 に設定され、ポリシーの値が Ongoing reporting frequency (days) : 90 の場合、RUM レポートは 90 日ごとに送信されます。

間隔を設定せず、デフォルトが有効な場合、レポート間隔は完全にポリシー値によって決定されます。たとえば、デフォルト値が有効で、不適用ライセンスのみが使用されている場合、ポリシーでレポートが不要と記述されていると、RUM レポートは送信されません。

utility [**customer_info** { **city** *city* | **country** *country* | **postalcode** *postalcode* | **state** *state* | **street** *street* }] このオプションは CLI には表示されますが、サポートされていません。

コマンド デフォルト

Cisco IOS XE Amsterdam 17.3.1 以前 : スマートライセンスがデフォルトで有効になっていません。

Cisco IOS XE Amsterdam 17.3.2a 以降 : ポリシーを使用したスマートライセンシングはデフォルトで有効になっています。

コマンドモード	Global config (Device(config)#)	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Fuji 16.9.1	このコマンドが導入されました。
	Cisco IOS XE Amsterdam 17.3.2a	<p>ポリシーを使用したスマートライセンスで、次のキーワードと変数が導入されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • url キーワードの下に、次のオプションが導入されました。 <pre>{ cslu <i>cslu_url</i> smart <i>smart_url</i> }</pre> • transport キーワードの下に、次のオプションが導入されました。 <pre>{ cslu off }</pre> <p>さらに、デフォルトの通信タイプが callhome から cslu に変更されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • usage { customer-tags { tag1 tag2 tag3 tag4 } <i>tag_value</i> interval <i>interval_in_days</i> } <p>license smart global コマンドの次のキーワードと変数は廃止され、CLI では使用できなくなりました：enable、conversion automatic。</p>
	Cisco IOS XE Amsterdam 17.3.3	<p>SSM オンプレミスサポートが導入されました。SSM オンプレミス展開での製品インスタンス開始型通信の場合、既存の [no]license smart url cslucaclu_or_on-prem_url コマンドは SSM オンプレミスの URL の設定もサポートします。ただし、SSM オンプレミスに必要な URL 形式は <code>http://<ip>/cslu/v1/pi/<tenant ID></code> です。</p> <p>設定する必要がある対応するトランスポートモードも、既存のコマンド (license smart transport cslu) です。</p>

使用上のガイドライン

設定したレポート間隔 (**license smart usage interval interval_in_days** コマンド) によって、製品インスタンスが RUM レポートを送信する日時が決まります。スケジュールされた間隔が通信障害と一致する場合、製品インスタンスは、スケジュールされた時間が経過した後、最大 4 時間 RUM レポートの送信を試みます。(通信障害が続くために) それでもレポートを送信できない場合、システムは間隔を 15 分にリセットします。通信障害が解消されると、レポート間隔はユーザが最後に設定した値に戻ります。

通信障害の場合に表示される可能性があるシステムメッセージ

は、**%SMART_LIC-3-COMM_FAILED** です。このエラーを解決し、レポート間隔の値を復元する方法については、該当するリリース (17.3.x 以降) のソフトウェア設定ガイドで、「*System Management*」 > 「*Smart Licensing Using Policy*」 > 「*Troubleshooting Smart Licensing Using Policy*」を参照してください。

- [データプライバシーの例 \(54 ページ\)](#)

- 転送タイプと URL の例 (54 ページ)
- 使用状況レポートのオプションの例 (55 ページ)

データプライバシーの例

次に、グローバル コンフィギュレーション モードで **license smart privacy** コマンドを使用してデータプライバシー関連情報を設定する例を示します。 **show license status** 出力には、設定された情報が表示されます。

プライベート情報は送信されません。

```
Device# configure terminal
Device(config)# license smart privacy all
Device(config)# license smart transport callhome
Device(config)# license smart url
https://tools.cisco.com/its/service/oddce/services/DDCEService
Device(config)# exit
Device# show license status
<output truncated>
Data Privacy:
  Sending Hostname: no
  Callhome hostname privacy: ENABLED
  Smart Licensing hostname privacy: ENABLED
  Version privacy: ENABLED

Transport:
  Type: Callhome
<output truncated>
```

製品インスタンスのエージェントのバージョンは送信されません。

```
Device# configure terminal
Device(config)# license smart privacy version
Device(config)# license smart transport callhome
Device(config)# license smart url
https://tools.cisco.com/its/service/oddce/services/DDCEService
Device(config)# exit
Device# show license status
<output truncated>
Data Privacy:
  Sending Hostname: yes
  Callhome hostname privacy: DISABLED
  Smart Licensing hostname privacy: DISABLED
  Version privacy: ENABLED

Transport:
  Type: Callhome
<output truncated>
```

転送タイプと URL の例

次に、グローバル コンフィギュレーション モードで **license smart transport** および **license smart url** コマンドを使用して、転送タイプの一部を設定する例を示します。 **show license all** 出力には、設定された情報が表示されます。

トランスポート : **cslu** :

```
Device# configure terminal
Device(config)# license smart transport cslu
Device(config)# license smart url default
Device(config)# exit
Device# show license all
<output truncated>
Transport:
  Type: cslu
  Cslu address: http://192.168.0.1:8182/cslu/v1/pi
  Proxy:
    Not Configured
<output truncated>
```

トランスポート : **smart** :

```
Device# configure terminal
Device(config)# license smart transport smart
Device(config)# license smart url smart https://smartreceiver.cisco.com/licservice/license
Device(config)# exit
Device# show license all
<output truncated>
Transport:
  Type: Smart
  URL: https://smartreceiver-stage.cisco.com/licservice/license
  Proxy:
    Not Configured
<output truncated>
```

使用状況レポートのオプションの例

次に、グローバル コンフィギュレーション モードで **license smart usage** コマンドを使用して、使用状況レポートの一部を設定する例を示します。**show running-config** 出力には、設定された情報が表示されます。

customer-tag オプションの設定 :

```
Device# configure terminal
Device(config)# license smart usage customer-tags tag1 SA/VA:01
Device(config)# exit
Device# show running-config | include tag1
license smart usage customer-tags tag1 SA/VA:01
```

現在適用されているポリシーよりも絞り込んだレポート間隔の設定 :

```
Device# show license status
<output truncated>
Usage Reporting:
Last ACK received: Sep 22 13:49:38 2020 PST
Next ACK deadline: Dec 21 12:02:21 2020 PST
Reporting push interval: 30 days
Next ACK push check: Sep 22 12:20:34 2020 PST
Next report push: Oct 22 12:05:43 2020 PST
Last report push: Sep 22 12:05:43 2020 PST
Last report file write: <none>
<output truncated>
```

```
Device# configure terminal
Device(config)# license smart usage interval 20
Device(config)# exit
Device# show license status
<output truncated>
```

Usage Reporting:

```
Last ACK received: Sep 22 13:49:38 2020 PST
Next ACK deadline: Nov 22 12:02:21 2020 PST
Reporting push interval: 20 days
Next ACK push check: Sep 22 12:20:34 2020 PST
Next report push: Oct 12 12:05:43 2020 PST
Last report push: Sep 22 12:05:43 2020 PST
Last report file write: <none>
<output truncated>
```


license smart (特権 EXEC)

承認コードの要求または返却、リソース使用状況測定レポート (RUM レポート) の保存、製品インスタンスへのファイルのインポート、Cisco Smart Software Manager (CSSM) との信頼の確立、CSSM または Cisco Smart License Utility (CSLU)、あるいは Smart Software Manager オンプレミス (SSM オンプレミス) との製品インスタンスの同期、製品インスタンスからのライセンス情報の削除などのライセンス機能を設定するには、対応するキーワードまたは引数を指定して特権 EXEC モードで **license smart** コマンドを入力します。

```
license smart { authorization { request { add | replace } feature_name { all | local } | return { all | local } { offline [ path ] | online } } | clear eventlog | export return { all | local } feature_name | factory reset | import file_path | save { trust-request filepath_filename | usage { all | days days | rum-id rum-ID | unreported } { file file_path } } | sync { all | local } | trust idtoken id_token_value { local | all } [{ force }]}
```

構文の説明

smart	スマートライセンスのオプションを提供します。
authorization	承認コードを要求する、または承認コードを返すオプションを提供します。 認証コードは、輸出規制または輸出規制の適用タイプのライセンスを使用する場合にのみ必要です。
request	承認コードを CSSM、CSLU (CSLU は CSSM から承認コードを取得)、または SSM オンプレミスから要求し、そのコードを製品インスタンスにインストールします。
add	要求されたライセンスを既存の承認コードに追加します。新しい承認コードには、既存の承認コードのすべてのライセンスと要求されたライセンスが含まれます。
replace	既存の承認コードを置き換えます。新しい承認コードには、要求されたライセンスのみが含まれます。現在の承認コードのすべてのライセンスが返されます。 このオプションを入力すると、製品インスタンスは、削除される承認コードに対応するライセンスが使用中であるかどうかを確認します。ライセンスが使用されている場合は、対応する機能を最初に無効にするようにエラーメッセージが表示されます。
<i>feature_name</i>	承認コードを要求するライセンスの名前。
all	高可用性セットアップですべての製品インスタンスに対してアクションを実行します。
local	アクティブな製品インスタンスに対してアクションを実行します。これがデフォルトのオプションです。

return	CSSM のライセンスプールに承認コードを返します。
offline <i>file_path</i>	<p>製品インスタンスが CSSM に接続されていないことを意味します。承認コードはオフラインで返されます。このオプションでは、戻りコードをファイルに出力する必要があります。</p> <p>ファイルを保存するパスを指定することもできます。ファイル形式は、.txt などの読み取り可能な任意の形式にすることができます。</p> <p>オフラインオプションを選択する場合は、CLI や保存したファイルから戻りコードをコピーして CSSM に入力する、という追加の手順を実行する必要があります。</p>
online	製品インスタンスが接続モードであることを意味します。承認コードは、CSLU や CSSM に直接返されます。
clear eventlog	製品インスタンスからすべてのイベントログファイルをクリアします。
export return	輸出規制ライセンスの承認キーを返します。
factory reset	製品インスタンスから保存されているすべてのライセンス情報をクリアします。
import <i>filepath_filename</i>	<p>製品インスタンスにファイルをインポートします。ファイルは、承認コード、信頼コード、またはポリシーのファイルである場合があります。</p> <p><i>filepath_filename</i> には、場所（ファイル名を含む）を指定します。</p>
save	RUM レポートや信頼コード要求を保存するオプションを提供します。
trust-request <i>filepath_filename</i>	<p>アクティブな製品インスタンスの信頼コード要求を指定した場所に保存します。</p> <p><i>filepath_filename</i> には、ファイルの絶対パス（ファイル名を含む）を指定します。</p>

usage { all days <i>days</i> rum-id <i>rum-ID</i> unreported } { file <i>file_path</i> }	<p>RUM レポート (ライセンス使用状況情報) を指定した場所に保存します。次のいずれかのオプションを指定する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • all : すべての RUM レポートを保存します。 • days <i>days</i> : 過去 <i>n</i> 日間 (現在の日を除く) の RUM レポートを保存します。番号を入力します。有効範囲は 0 ~ 4294967295 です。 たとえば、3 と入力すると、過去 3 日間の RUM レポートが保存されます。 • rum-Id <i>rum-ID</i> : 指定した RUM ID を保存します。値の有効な範囲は 0 ~ 18446744073709551615 です。 • unreported : すべての未報告の RUM レポートを保存します。 <p>file <i>filepath_filename</i> : 指定した使用状況情報をファイルに保存します。ファイルの絶対パス (ファイル名を含む) を指定します。</p>
sync { all local }	<p>CSSM または CSLU、あるいは SSM オンプレミスと同期して、保留中のデータを送受信します。これには、保留中の RUM レポートのアップロード、ACK 応答のダウンロード、および製品インスタンスの保留中の承認コード、信頼コード、ポリシーが含まれます。</p> <p>次のいずれかのオプションを入力して、製品インスタンスを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • all : 高可用性セットアップですべての製品インスタンスに対して同期を実行します。このオプションを選択すると、製品インスタンスは同期要求内にあるすべての UDI のリストも送信します。 • local : 要求を送信するアクティブな製品インスタンス、つまり自身の UDI に対してのみ同期を実行します。これがデフォルトのオプションです。
trust idtoken <i>id_token_value</i>	<p>CSSM との信頼できる接続を確立します。</p> <p>このオプションを使用するには、最初に CSSM ポータルでトークンを生成する必要があります。<i>id_token_value</i> に生成されたトークン値を指定します。</p>
force	<p>信頼コードが製品インスタンスにすでに存在する場合でも、信頼コード要求を送信します。</p> <p>信頼コードは、製品インスタンスの UDI にノードロックされます。UDI がすでに登録されている場合、CSSM は同じ UDI の新規登録を許可しません。 force キーワードを入力すると、この動作が上書きされます。</p>

コマンド デフォルト

Cisco IOS XE Amsterdam 17.3.1 以前 : スマートライセンスがデフォルトで有効になっていません。

Cisco IOS XE Amsterdam 17.3.2a 以降：ポリシーを使用したスマートライセンスはデフォルトで有効になっています。

コマンドモード	特権 EXEC (Device#)	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Fuji 16.9.1	このコマンドが導入されました。
	Cisco IOS XE Amsterdam 17.3.2a	<p>ポリシーを使用したスマートライセンスで、次のキーワードと変数が導入されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • authorization { request { add replace } <i>feature_name</i> { all local } return { all local } { offline [<i>path</i>] online } } • import <i>file_path</i> • save { trust-request <i>filepath_filename</i> usage { all days <i>days</i> rum-id <i>rum-ID</i> unreported } { file <i>file_path</i> } } • sync { all local } • trust idtoken <i>id_token_value</i> { local all } [force] <p>license smart コマンドの次のキーワードと変数は廃止され、CLI では使用できなくなりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • register idtoken <i>token_id</i> [force] • deregister • renew id { ID auth } • debug { error debug trace all } • mfg reservation { request install install file cancel } • conversion { start stop }
	Cisco IOS XE Amsterdam 17.3.3	SSM オンプレミスのサポートが導入されました。リソース使用状況測定レポート (RUM レポート) の保存、製品インスタンスへのファイルのインポート、製品インスタンスの同期、認証コードの返却、SSM オンプレミス展開での製品インスタンスからのライセンス情報の削除など、ライセンス関連のタスクを実行できます。

使用上のガイドライン 信頼コードの上書き

license smart trust idtoken コマンドを設定する際の **force** オプションのユースケース：1つのバーチャルアカウントに含まれているすべての製品インスタンスに同じトークンを使用できます。製品インスタンスが1つのアカウントから別のアカウントに移動した場合（たとえば、別のバーチャルアカウントの一部である高可用性設定に追加されたため）、既存の信頼コードを上書きすることが必要になる場合があります。

ライセンス情報の削除

license smart factory reset コマンドを入力すると、承認コード、RUM レポートなど、すべてのライセンス情報（使用中のライセンスを除く）が製品インスタンスから削除されます。そのため、このコマンドは、製品インスタンスを返却する場合（Return Material Authorization (RMA)）、または永続的にデコミットする場合にのみ使用することを推奨します。また、製品インスタンスからライセンス情報を削除する前に CSSM に RUM レポートを送信します。これは、CSSM に最新の使用状況情報が含まれていることを確認するためです。

認証コードとライセンス予約：

認証コードとライセンス予約に関連するオプション：

- Cisco Catalyst アクセス、コア、およびアグリゲーションスイッチのいずれにも輸出制御ライセンスまたは適用ライセンスがないため、次のコマンドは適用されません。
 - **license smart authorization request { add | replace } feature_name { all | local }**
 - **license smart export return**
- 返すことも可能な SLR 承認コードの場合は、次のオプションが適用可能になっている必要があります。

license smart authorization return { all | local } { offline [path] | online }

例

- [ライセンス使用状況情報の保存例 \(61 ページ\)](#)
- [信頼コードのインストールの例 \(62 ページ\)](#)
- [SLR 承認コードを返す例 \(62 ページ\)](#)

ライセンス使用状況情報の保存例

次の例は、製品インスタンスのライセンス使用状況情報を保存する方法を示しています。このオプションを使用して、エアギャップネットワークのレポート要件を満たすことができます。この例では、ファイルはまずフラッシュメモリに保存され、次に TFTP の場所にコピーされます。

```
Device> enable
Device# license smart save usage unreported file flash:RUM-unrep.txt
Device# copy flash:RUM-unrep.txt tftp://192.168.0.1//auto/tftp-user/user01/
Address or name of remote host [192.168.0.1]?
Destination filename [//auto/tftp-user/user01/RUM-unrep.txt]?
!!
15128 bytes copied in 0.161 secs (93963 bytes/sec)
```

RUM レポートをファイルに保存した後、（インターネットに接続しているワークステーションや Cisco から）CSSM にアップロードする必要があります。

信頼コードのインストールの例

次の例は、信頼コードがすでに製品インスタンスにインストールされている場合に、信頼コードをインストールする方法を示しています。これには、CSSMへの接続が必要です。正常なインストール後の **show license status** 出力例を次に示します。

信頼コードをインストールする前に、トークンを生成し、CSSMから対応するファイルをダウンロードする必要があります。

結果を確認するには、**show license status** コマンド (Trust Code Installed:) を使用します。

```
Device> enable
Device# license smart trust idtoken
NGMwMjks5mYtNZaxMS00NzMZmtgWm local force
Device# show license status
<output truncated>
Trust Code Installed:
  Active: PID:C9500-24Y4C,SN:CAT2344L4GH
          INSTALLED on Sep 04 01:01:46 2020 EDT
  Standby: PID:C9500-24Y4C,SN:CAT2344L4GJ
           INSTALLED on Sep 04 01:01:46 2020 EDT
<output truncated>
```

SLR 承認コードを返す例

次の例は、SLR 承認コードを削除して返す方法を示しています。ここでは、コードがオフラインで返されます (CSSM への接続なし)。正常に返された後の **show license all** 出力例を次に示します。

```
Device> enable
Device# license smart authorization return local online
Enter this return code in Cisco Smart Software Manager portal:
UDI: PID:C9500-16X,SN:FCW2233A5ZV
Return code: Cr9JHx-L1x5Rj-ftwzgl-h9QZAU-LE5DT1-babWeL-FABPt9-Wr1Dn7-Rp7
Device# configure terminal
Device(config)# no license smart reservation

Device# show license all
<output truncated>
License Authorizations
=====
Overall status:
  Active: UDI: PID:C9500-16X,SN:FCW2233A5ZV
          Status: NOT INSTALLED
          Last return code: Cr9JHx-L1x5Rj-ftwzgl-h9QZAU-LE5DT1-babWeL-FABPt9-Wr1Dn7-Rp7
<output truncated>
```

CLIや保存したファイルから戻りコードをコピーしてCSSMに入力する、という追加の手順を実行する必要があります。

line auto-consolidation

同じサブモードの複数回線の設定を単一回線に統合するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **line auto-consolidation** コマンドを使用します。回線設定の自動統合はデフォルトで有効になっています。Cisco IOS XE Bengaluru 17.4.1 からこのコマンドの **no** 形式を使用して自動統合を無効化できます。

line auto-consolidation
no line auto-consolidation

構文の説明	auto-consolidation	同じサブモードの複数回線の設定を単一回線に統合します。
コマンド デフォルト	自動統合はデフォルトで有効になっています。	
コマンド モード	グローバル コンフィギュレーション モード (config)	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Bengaluru 17.4.1	このコマンドが追加されました。

次に、**line auto-consolidation** を設定した場合の不揮発性生成 (NVGEN) プロセスの出力例を示します。

```
Device# show run | sec line
line con 0
stopbits 1
line vty 0 4
transport input ssh
line vty 5 9
transport input all
Device# configure terminal
Device(config)# line vty 10 15
Device(config-line)# transport input all
Device(config-line)# end
Device# show run | sec line
line con 0
stopbits 1
line vty 0 4
transport input ssh
line vty 5 15
transport input all
```

次に、**no line auto-consolidation** を設定した場合の不揮発性生成 (NVGEN) プロセスの出力例を示します。

```
Device# show run | sec line
line con 0
stopbits 1
line vty 0 4
transport input ssh
line vty 5 9
```

```
transport input all
Device# configure terminal
Device(config)#no line auto-consolidation
Device(config)# line vty 10 15
Device(config-line)# transport input all
Device(config-line)# end
Device# show run | sec line
no line auto-consolidation
line con 0
stopbits 1
line vty 0 4
transport input ssh
line vty 5 9
transport input all
line vty 10 15
transport input all
```


location

エンドポイントのロケーション情報を設定するには、グローバルコンフィギュレーションモードで **location** コマンドを使用します。ロケーション情報を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
location {admin-tag string | civic-location identifier {hostid} | civic-location identifier {hostid} |
elin-location {string | identifier id} | geo-location identifier {hostid} | prefer {cdp weight
priority-value | lldp-med weight priority-value | static config weight priority-value}
no location {admin-tag string | civic-location identifier {hostid} | civic-location identifier {hostid} |
elin-location {string | identifier id} | geo-location identifier {hostid} | prefer {cdp weight
priority-value | lldp-med weight priority-value | static config weight priority-value}
```

構文の説明

admin-tag <i>string</i>	管理タグまたはサイト情報を設定します。英数字形式のサイト情報またはロケーション情報。
civic-location	都市ロケーション情報を設定します。
identifier	都市ロケーション、緊急ロケーション、地理的な場所の名前を指定します。
host	ホストの都市ロケーションや地理空間的な場所を定義します。
id	都市ロケーション、緊急ロケーション、地理的な場所の名前。 (注) LLDP-MED スイッチ TLV での都市ロケーションの ID は 250 バイト以下に制限されます。スイッチ設定中に使用できるバッファ スペースに関するエラー メッセージを回避するには、各都市ロケーション ID に指定されたすべての都市ロケーション情報の全体の長さが 250 バイトを超えないようにします。
elin-location	緊急ロケーション情報 (ELIN) を設定します。
geo-location	地理空間的なロケーション情報を設定します。
prefer	ロケーション情報のソースのプライオリティを設定します。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

location civic-location identifier グローバル コンフィギュレーション コマンドを入力後、都市ロケーション コンフィギュレーション モードが開始されます。**location geo-location identifier** グローバル コンフィギュレーション コマンドを入力後、ジオロケーション コンフィギュレーション モードが開始されます。

都市ロケーション ID は 250 バイトを超えてはなりません。

ホスト ID はホストの都市ロケーションや地理空間的な場所を設定します。ID がホストではない場合、ID はインターフェイスで参照できる地理空間的なテンプレートまたは都市ロケーションだけを定義します。

host キーワードは、デバイスの場所を定義します。**identifier** と **host** キーワードを使用して設定可能な都市ロケーション オプションは同じです。都市ロケーション コンフィギュレーション モードで次の都市ロケーション オプションを指定できます。

- **additional-code** : 追加都市ロケーション コードを設定します。
- **additional-location-information** : 追加都市ロケーション情報を設定します。
- **branch-road-name** : ブランチのロード名を設定します。
- **building** : 建物の情報を設定します。
- **city** : 都市名を設定します。
- **country** : 2 文字の ISO 3166 の国コードを設定します。
- **county** : 郡名を設定します。
- **default** : コマンドをデフォルト値に設定します。
- **division** : 市の地区の名前を設定します。
- **exit** : 都市ロケーション コンフィギュレーション モードを終了します。
- **floor** : 階数を設定します。
- **landmark** : 目印となる建物の情報を設定します。
- **leading-street-dir** : 町名番地に付与される方角を設定します。
- **name** : 居住者名を設定します。
- **neighborhood** : ネイバーフッド情報を設定します。
- **no** : 指定された都市ロケーション データを拒否し、デフォルト値を設定します。
- **number** : 町名番地を設定します。
- **post-office-box** : 私書箱を設定します。
- **postal-code** : 郵便番号を設定します。
- **postal-community-name** : 郵便コミュニティ名を設定します。
- **primary-road-name** : 主要道路の名前を設定します。
- **road-section** : 道路の区間を設定します。
- **room** : 部屋の情報を設定します。
- **seat** : 座席の情報を設定します。
- **state** : 州の名前を設定します。

- **street-group** : 町名番地のグループを設定します。
- **street-name-postmodifier** : 町名番地の名前のポストモディファイアを設定します。
- **street-name-premodifier** : 町名番地の名前のプレモディファイアを設定します。
- **street-number-suffix** : 町名番地の番号のサフィックスを設定します。
- **street-suffix** : 町名番地のサフィックスを設定します。
- **sub-branch-road-name** : 支線からさらに分岐した道路名を設定します。
- **trailing-street-suffix** : 後に続く町名番地のサフィックスを設定します。
- **type-of-place** : 場所のタイプを設定します。
- **unit** : 単位を設定します。

地理的ロケーション コンフィギュレーション モードで次の地理空間的なロケーション情報を指定できます。

- **altitude** : 高さの情報を階数、メートル、またはフィート単位で設定します。
- **latitude** : 度、分、秒の緯度情報を設定します。範囲は -90 ~ 90 度です。正の値は、赤道より北側の位置を示します。
- **longitude** : 度、分、秒の経度の情報を設定します。範囲は -180 ~ 180 度です。正の値は、グリニッジ子午線の東側の位置を示します。
- **resolution** : 緯度と経度の分解能を設定します。分解能値を指定しない場合、10mのデフォルト値が緯度と経度の分解能パラメータに適用されます。緯度と経度の場合、分解能の単位はメートルで測定されます。分解能の値は小数単位でも指定できます。
- **default** : デフォルトの属性によって、地理的位置を設定します。
- **exit** : 地理的ロケーション コンフィギュレーション モードを終了します。
- **no** : 指定された地理的パラメータを拒否し、デフォルト値を設定します。

ロケーション TLV をディセーブルにするには、**no lldp med-tlv-select location information** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用します。デフォルトでは、ロケーション TLV はイネーブルに設定されています。

次の例では、スイッチに都市ロケーション情報を設定する方法を示します。

```
Device(config)# location civic-location identifier 1
Device(config-civic)# number 3550
Device(config-civic)# primary-road-name "Cisco Way"
Device(config-civic)# city "San Jose"
Device(config-civic)# state CA
Device(config-civic)# building 19
Device(config-civic)# room C6
Device(config-civic)# county "Santa Clara"
Device(config-civic)# country US
Device(config-civic)# end
```

設定を確認するには、**show location civic-location** 特権 EXEC コマンドを入力します。

次の例では、スイッチ上で緊急ロケーション情報を設定する方法を示します。

```
Device(config)# location elin-location 14085553881 identifier 1
```

設定を確認するには、**show location elin** 特権 EXEC コマンドを入力します。

次に、スイッチに、地理空間ロケーション情報を設定する例を示します。

```
Device(config)# location geo-location identifier host
Device(config-geo)# latitude 12.34
Device(config-geo)# longitude 37.23
Device(config-geo)# altitude 5 floor
Device(config-geo)# resolution 12.34
```

設定された地理空間的な場所の詳細を表示するには、**show location geo-location identifier** コマンドを使用します。

location plm calibrating

調整クライアントのパス損失測定 (CCXS60) 要求を設定するには、グローバルコンフィギュレーション モードで **location plm calibrating** コマンドを使用します。

location plm calibrating {multiband | uniband}

構文の説明

multiband	関連付けられた 802.11a または 802.11b/g 無線での調整クライアントのパス損失測定要求を指定します。
uniband	関連付けられた 802.11a/b/g 無線での調整クライアントのパス損失測定要求を指定します。

コマンドデフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

単一の無線クライアントには、（無線がデュアルバンドで、2.4 GHz と 5 GHz の両方の帯域でも動作できるとしても）**uniband** が役立ちます。複数の無線クライアントには、**multiband** が役立ちます。

次に、関連付けられた 802.11a/b/g 無線での調整クライアントのパス損失測定要求を設定する例を示します。

```
Device# configure terminal
Device(config)# location plm calibrating uniband
Device(config)# end
```

mac address-table move update

MAC アドレステーブル移行更新機能を有効にするには、スイッチスタックまたはスタンドアロンスイッチのグローバル コンフィギュレーション モードで **mac address-table move update** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
mac address-table move update {receive | transmit}
no mac address-table move update {receive | transmit}
```

構文の説明

receive	スイッチが MAC アドレス テーブル移行更新メッセージを処理するように指定します。
transmit	プライマリ リンクがダウンし、スタンバイ リンクが起動した場合、スイッチが MAC アドレステーブル移行更新メッセージをネットワークの他のスイッチに送信するように指定します。

コマンド デフォルト

デフォルトでは、MAC アドレステーブル移行更新機能はディセーブルです。

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

MAC アドレステーブル移行更新機能により、プライマリ（フォワーディング）リンクがダウンし、スタンバイリンクがトラフィックのフォワーディングを開始した場合、スイッチは高速双方向コンバージェンスを提供できます。

プライマリリンクがダウンし、スタンバイリンクが起動した場合、アクセススイッチが MAC アドレステーブル移行更新メッセージを送信するように設定できます。アップリンクスイッチが、MAC アドレステーブル移行更新メッセージを受信および処理するように設定できます。

例

次の例では、アクセススイッチが MAC アドレス テーブル移行更新メッセージを送信するように設定する方法を示します。

```
Device# configure terminal
Device(config)# mac address-table move update transmit
Device(config)# end
```

次の例では、アップリンクスイッチが MAC アドレス テーブル移行更新メッセージを取得および処理するように設定する方法を示します。

```
Device# configure terminal  
Device(config)# mac address-table move update receive  
Device(config)# end
```

設定を確認するには、**show mac address-table move update** 特権 EXEC コマンドを入力します。

mgmt_init

イーサネット管理ポートを初期化するには、ブートローダモードで `mgmt_init` コマンドを使用します。

`mgmt_init`

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

ブートローダ

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

イーサネット管理ポートのデバッグ中にのみ、`mgmt_init` コマンドを使用します。

例

次の例では、イーサネット管理ポートを初期化する方法を示します。

```
Device: mgmt_init
```


mkdir

指定されたファイルシステムに1つ以上のディレクトリを作成するには、ブートローダモードで **mkdir** コマンドを使用します。

mkdir *filesystem:/directory-url...*

構文の説明

filesystem: ファイルシステムのエイリアス。USB メモリ スティックの場合は、**usbflash0:** を使用します。

/directory-url... 作成するディレクトリの名前です。ディレクトリ名はスペースで区切ります。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

ブートローダ

コマンド履歴

リリース	変更内容
------	------

Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。
------------------------------	-----------------

使用上のガイドライン

ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。

スラッシュ (/) 間に指定できるディレクトリ名は最大 127 文字です。ディレクトリ名には制御文字、スペース、削除文字、スラッシュ、引用符、セミコロン、コロンは使用できません。

例

次の例では、ディレクトリ **Saved_Configs** を作成する方法を示します。

```
Device: mkdir usbflash0:Saved_Configs  
Directory "usbflash0:Saved_Configs" created
```

more

1 つ以上のファイルの内容を表示するには、ブートローダモードで **more** コマンドを使用します。

more *filesystem:/file-url...*

構文の説明

filesystem: ファイルシステムのエイリアス。システム ボード フラッシュ デバイスには **flash:** を使用します。

/file-url... 表示するファイルのパス（ディレクトリ）および名前です。ファイル名はスペースで区切ります。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

ブートローダ

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ファイル名およびディレクトリ名は、大文字と小文字を区別します。

ファイルのリストを指定した場合は、各ファイルの内容が順に表示されます。

例

次に、ファイルの内容を表示する例を示します。

```
Device: more flash:image_file_name
version_suffix: universal-122-xx.SEx
version_directory: image_file_name
image_system_type_id: 0x00000002
image_name: image_file_name.bin
ios_image_file_size: 8919552
total_image_file_size: 11592192
image_feature: IP|LAYER_3|PLUS|MIN_DRAM_MEG=128
image_family: family
stacking_number: 1.34
board_ids: 0x00000068 0x00000069 0x0000006a 0x0000006b
info_end:
```

no debug all

スイッチのデバッグを無効にするには、特権 EXEC モードで **no debug all** コマンドを使用します。

no debug all

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード 特権 EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE リリース 16.1	このコマンドが導入されました。

例

次に、スイッチでデバッグを無効にする例を示します。

```
Device: no debug all
All possible debugging has been turned off.
```

rename

ファイルの名前を変更するには、ブートコンフィギュレーションモードで **rename** コマンドを使用します。

```
rename filesystem:/source-file-url filesystem:/destination-file-url
```

構文の説明

filesystem: ファイルシステムのエイリアス。USB メモリ スティックの場合は、**usbflash0:** を使用します。

/source-file-url 元のパス（ディレクトリ）およびファイル名です。

/destination-file-url 新しいパス（ディレクトリ）およびファイル名です。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

ブートローダ

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ファイル名およびディレクトリ名は、大文字と小文字を区別します。

スラッシュ (/) 間に指定できるディレクトリ名は最大 127 文字です。ディレクトリ名には制御文字、スペース、削除文字、スラッシュ、引用符、セミコロン、コロンは使用できません。

指定できるファイル名は最大 127 文字です。ファイル名には制御文字、スペース、削除文字、スラッシュ、引用符、セミコロン、コロンは使用できません。

例

次の例では、ファイル *config.text* の名前を *config1.text* に変更します。

```
Device: rename usbflash0:config.text usbflash0:config1.text
```

ファイルの名前が変更されたかどうかを確認するには、**dir filesystem:** ブートローダコマンドを入力します。

request consent-token accept-response shell-access

以前に生成されたチャレンジに対する同意トークン応答を送信するには、**request consent-token accept-response shell-access** コマンドを使用します。

request consent-token accept-response shell-access *response-string*

構文の説明

構文	説明
<i>response-string</i>	応答を表す文字列を指定します。

コマンドモード 特権 EXEC モード (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Gibraltar 16.11.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン 応答文字列は、チャレンジの生成から30分以内に入力する必要があります。入力しないとチャレンジが期限切れになり、新しいチャレンジの要求が必要になります。

例

次に、**request consent-token accept-response shell-access** *response-string* コマンドの出力例を示します。

```
Device# request consent-token accept-response shell-access
% Consent token authorization success
*Jan 18 02:51:37.807: %CTOKEN-6-AUTH_UPDATE: Consent Token Update (authentication success: Shell access 0).
```


request consent-token terminate-auth

システムシェルに対する同意トークンベースの承認を終了するには、**request consent-token terminate-auth** コマンドを使用します。

request consent-token terminate-auth

コマンドモード 特権 EXEC モード (#)

コマンド履歴 リリース 変更内容

Cisco IOS XE Gibraltar 16.11.1 このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン システムシェルアクセスのシナリオでは、シェルを終了しても、承認タイムアウトが発生するまで承認は終了しません。

システムシェルアクセスの目的を達成したら、**request consent-token terminate-auth** コマンドを明示的に発行することによって、システムシェルの承認を強制終了することを推奨します。

request consent-token terminate-auth コマンドを使用して現在の認証を終了した場合、ユーザがシステムシェルにアクセスする際に再度認証プロセスが必要になります。

例

次に、**request consent-token terminate-auth** コマンドの出力例を示します。

```
Device# request consent-token terminate-auth shell-access
% Consent token authorization termination success
```

```
Device#
*Mar 13 01:45:39.197: %CTOKEN-6-AUTH_UPDATE: Consent Token Update (terminate
authentication: Shell access 0).
Device#
```

request platform software console attach switch

メンバスイッチでセッションを開始するには、特権 EXEC モードで **request platform software console attach switch** コマンドを使用します。



- (注) スタッキングスイッチ (Catalyst 3650/3850/9200/9300 スイッチ) では、このコマンドはスタンバイコンソールでセッションを開始する場合にのみ使用できます。Catalyst 9500 スイッチでは、このコマンドは Stackwise Virtual セットアップでのみサポートされます。メンバスイッチでセッションを開始することはできません。デフォルトでは、すべてのコンソールはすでにアクティブであるため、アクティブなコンソールでセッションを開始する要求はエラーになります。

request platform software console attach switch { switch-number | active | standby } { 0/0 | R0 }

構文の説明

switch-number スイッチ番号を指定します。指定できる範囲は 1 ~ 9 です。

active アクティブスイッチを指定します。

(注) この引数は、Catalyst 9500 スイッチではサポートされていません。

standby スタンバイスイッチを指定します。

0/0 SPA-Inter-Processor スロットが 0 で、ベイが 0 であることを指定します。

(注) このオプションをスタッキングスイッチとともに使用しないでください。それはエラーになります。

R0 ルートプロセッサ スロットが 0 であることを指定します。

コマンド デフォルト

デフォルトでは、スタック内のすべてのスイッチはアクティブです。

コマンド モード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

スタンバイスイッチでセッションを開始するには、最初に設定で有効にする必要があります。

例

次に、スタンバイスイッチとのセッションを行う例を示します。

```
Device# configure terminal
```



```
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Device(config)# redundancy
Device(config-red)# main-cpu
Device(config-r-mc)# standby console enable
Device(config-r-mc)# end
Device# request platform software console attach switch standby R0
#
# Connecting to the IOS console on the route-processor in slot 0.
# Enter Control-C to exit.
#
Device-stby> enable
Device-stby#
```

reset

システムでハードリセットを実行するには、ブートローダモードで **reset** コマンドを実行します。ハードリセットを行うと、デバイスの電源切断後に電源を投入する手順と同様に、プロセッサ、レジスタ、およびメモリの内容が消去されます。

reset

構文の説明 このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード ブートローダ

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

例

次の例では、システムをリセットする方法を示します。

```
Device: reset
Are you sure you want to reset the system (y/n)? y
System resetting...
```

rmdir

指定されたファイルシステムから1つ以上の空のディレクトリを削除するには、ブートローダモードで **rmdir** コマンドを使用します。

rmdir *filesystem:/directory-url...*

構文の説明

filesystem: ファイルシステムのエイリアス。USB メモリ スティックの場合は、**usbflash0:** を使用します。

/directory-url... 削除する空のディレクトリのパス（ディレクトリ）および名前です。ディレクトリ名はスペースで区切ります。

コマンドデフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

ブートローダ

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

スラッシュ (/) 間に指定できるディレクトリ名は最大 45 文字で、大文字と小文字の区別があります。ディレクトリ名には制御文字、スペース、削除文字、スラッシュ、引用符、セミコロン、およびコロンは使用できません。

ディレクトリを削除する前に、まずディレクトリ内のファイルをすべて削除する必要があります。

デバイスは、各ディレクトリを削除する前に、確認を求めるプロンプトを出します。

例

次の例では、ディレクトリを 1 つ削除する方法を示します。

```
Device: rmdir usbflash0:Test
```

ディレクトリが削除されたかどうかを確認するには、**dir filesystem:** ブートローダコマンドを入力します。

sdm prefer

スイッチで使用する SDM テンプレートを指定するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **sdm prefer** コマンドを使用します。

sdm prefer
{ **advanced** }

構文の説明	advanced NetFlow などの高度な機能をサポートします。
-------	---

コマンド デフォルト	デフォルトの動作や値はありません。
------------	-------------------

コマンド モード	グローバル コンフィギュレーション
----------	-------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン device スタックでは、すべてのスタック メンバが、アクティブな device に保存された同一の SDM テンプレートを使用する必要があります。

新規 device がスタックに追加されると、アクティブ device に保存された SDM コンフィギュレーションは、個々の device に設定されているテンプレートを上書きします。

例

次に、高度なテンプレートを設定する例を示します。

```
Device(config)# sdm prefer advanced
Device(config)# exit
Device# reload
```

service private-config-encryption

プライベート設定ファイルの暗号化を有効にするには、**service private-config-encryption** コマンドを使用します。この機能を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

service private-config-encryption
no service private-config-encryption

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション (config)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Fuji 16.8.1a	このコマンドが導入されました。

例

次に、プライベート設定ファイルの暗号化を有効にする例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# service private-config-encryption
```

関連コマンド

コマンド	説明
show parser encrypt file status	プライベート設定の暗号化ステータスを表示します。

set

環境変数を設定または表示するには、ブートローダモードで **set** コマンドを使用します。環境変数は、ブートローダまたはデバイスで稼働している他のソフトウェアを制御するために使用できます。

set *variable value*

構文の説明

変数 値	<p><i>variable</i> および <i>value</i> の適切な値には、次のいずれかのキーワードを使用します。</p> <p>MANUAL_BOOT : デバイスの起動を自動で行うか手動で行うかを決定します。有効な値は 1/Yes と 0/No です。0 または No に設定されている場合、ブートローダはシステムを自動的に起動します。他の値に設定されている場合は、ブートローダモードから手動でデバイスを起動する必要があります。</p> <hr/> <p>BOOT filesystem:/file-url : 自動起動時にロードおよび実行される実行可能ファイルのセミコロン区切りリストを識別します。</p> <p>BOOT 環境変数が設定されていない場合、システムは、フラッシュファイルシステム全体に再帰的な縦型検索を行って、最初に検出された実行可能イメージをロードして実行を試みます。BOOT 変数が設定されていても、指定されたイメージをロードできなかった場合、システムはフラッシュファイルシステムで最初に検出した起動可能なファイルを起動しようとします。</p> <hr/> <p>ENABLE_BREAK : ユーザがコンソールの Break キーを押すと自動起動プロセスを中断できるようになります。</p> <p>有効な値は 1、Yes、On、0、No、および Off です。1、Yes、または On に設定されている場合は、フラッシュファイルシステムの初期化後にコンソール上で Break キーを押すことで、自動起動プロセスを中断できます。</p> <hr/> <p>HELPER filesystem:/file-url : ブートローダの初期化中に動的にロードされるロード可能ファイルのセミコロン区切りリストを識別します。ヘルパーファイルは、ブートローダの機能を拡張したり、パッチを当てたりします。</p> <hr/> <p>PS1 prompt : ブートローダモードの場合に、コマンドラインプロンプトとして使用する文字列を指定します。</p> <hr/> <p>CONFIG_FILE flash:/file-url : Cisco IOS がシステム設定の不揮発性コピーの読み書きに使用するファイル名を指定します。</p>
------	--

BAUD rate : コンソールのボーレートに使用するビット数/秒 (b/s) を指定します。コンフィギュレーションファイルに別の設定が指定されていない限り、Cisco IOS ソフトウェアはブートローダからボーレート設定を継承し、この値を引き続き使用します。指定できる範囲は 0 ~ 128000 b/s です。有効値は、50、75、110、150、300、600、1200、1800、2000、2400、3600、4800、7200、9600、14400、19200、28800、38400、56000、57600、115200、および 128000 です。

最も一般的な値は、300、1200、2400、9600、19200、57600、および 115200 です。

SWITCH_NUMBER *stack-member-number* : スタックメンバのメンバ番号を変更します。

SWITCH_PRIORITY *priority-number* : スタックメンバのプライオリティ値を変更します。

コマンドデフォルト

環境変数のデフォルト値は、次のとおりです。

MANUAL_BOOT: No (0)

BOOT : ヌルストリング

ENABLE_BREAK : No (Off または 0) (コンソール上で Break キーを押して自動起動プロセスを中断することはできません)。

HELPER: デフォルト値はありません (ヘルパーファイルは自動的にロードされません)。

PS1 デバイス :

CONFIG_FILE: config.text

BAUD : 9600 b/s

SWITCH_NUMBER: 1

SWITCH_PRIORITY: 1



- (注) 値が設定された環境変数は、各ファイルのフラッシュファイルシステムに保管されません。ファイルの各行には、環境変数名と等号に続いて、その変数の値が指定されます。このファイルに表示されていない変数には値がありません。表示されていればヌルストリングであっても値があります。ヌルストリング (たとえば “”) が設定されている変数は、値が設定された変数です。

多くの環境変数は事前に定義されており、デフォルト値が設定されています。

コマンドモード

ブートローダ

コマンド履歴

リリース 変更内容

Cisco IOS XE Everest 16.5.1a このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン 環境変数は大文字と小文字の区別があり、指定どおりに入力する必要があります。

値を持つ環境変数は、フラッシュ ファイル システムの外にあるフラッシュ メモリに保管されます。

通常的环境では、環境変数の設定を変更する必要はありません。

MANUAL_BOOT 環境変数は、**boot manual** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して設定することもできます。

BOOT 環境変数は、**boot system filesystem:/file-url** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して設定することもできます。

ENABLE_BREAK 環境変数は、**boot enable-break** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して設定することもできます。

HELPER 環境変数は、**boot helper filesystem: /file-url** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して設定することもできます。

CONFIG_FILE 環境変数は、**boot config-file flash: /file-url** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して設定することもできます。

SWITCH_NUMBER 環境変数は、**switch current-stack-member-number renumber new-stack-member-number** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して設定することもできます。

SWITCH_PRIORITY 環境変数は、**device stack-member-number priority priority-number** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用して設定することもできます。

ブート ロードアのプロンプト スtring (PS1) には、等号 (=) を除く、出力可能な文字列を 120 文字まで指定できます。

例

次に、SWITCH_PRIORITY 環境変数を設定する例を示します。

```
Device: set SWITCH_PRIORITY 2
```

設定を確認するには、**set** ブートローダコマンドを使用します。

show avc client

上位アプリケーションの数に関する情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show avc client** コマンドを使用します。

show avc client *client-mac* **top** *n* **application** [**aggregate** | **upstream** | **downstream**]

構文の説明

client *client-mac* クライアントの MAC アドレスを指定します。

top *n* **application** 特定のクライアントの上位「N」個のアプリケーションの数を指定します。

コマンドデフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

特権 EXEC

コマンド履歴

リリース 変更内容
ス

このコマンドが導入されました。

次に、**show avc client** コマンドの出力例を示します。

デバイス# **sh avc client 0040.96ae.65ec top 10 application aggregate**

Cumulative Stats:

No.	AppName	Packet-Count	Byte-Count	AvgPkt-Size	usage%
1	skinny	7343	449860	61	94
2	unknown	99	13631	137	3
3	dhcp	18	8752	486	2
4	http	18	3264	181	1
5	tftp	9	534	59	0
6	dns	2	224	112	0

Last Interval(90 seconds) Stats:

No.	AppName	Packet-Count	Byte-Count	AvgPkt-Size	usage%
1	skinny	9	540	60	100

show bootflash:

ファイルシステムに関する情報を表示するには、ユーザ EXEC または特権 EXEC モードで **show bootflash:** コマンドを使用します。

show bootflash: [{**all** | **filesys** | **namesort** | **sizesort** | **timesort** }]

構文の説明	all	(任意) 可能なすべてのフラッシュ情報を表示します。
	filesys	(任意) フラッシュシステム情報を表示します。
	namesort	(任意) 出力をファイル名でソートします。
	sizesort	(任意) 出力をファイルサイズでソートします。
	timesort	(任意) 出力をタイムスタンプでソートします。
コマンド デフォルト	ユーザ EXEC (>) 特権 EXEC (#)	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。
	Cisco IOS XE Amsterdam 17.3.1	次のキーワードが導入されました。 <ul style="list-style-type: none"> • namesort • sizesort • timesort

例 :

次に、**show bootflash: all** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show bootflash: all
-#- --length-- -----date/time----- path
2      4096 May 11 2020 16:49:01.0000000000 +00:00 .installer
3      4096 Feb 27 2020 15:03:50.0000000000 +00:00 .installer/issu_crash
4          12 May 05 2020 22:06:48.0000000000 +00:00 .installer/issu_crash/fru_crash
5          50 May 11 2020 16:40:40.0000000000 +00:00 .installer/last_pkgconf_shasum
```

```
6          6 Feb 27 2020 16:33:59.0000000000 +00:00 .installer/install_issu_pid
7          13 Feb 27 2020 21:05:35.0000000000 +00:00 .installer/install_issu_prev_state
8          17 Feb 27 2020 21:05:36.0000000000 +00:00 .installer/install_issu_state
9          13 May 11 2020 16:41:12.0000000000 +00:00 .installer/watchlist
10         8 Feb 28 2020 18:04:31.0000000000 +00:00 .installer/crdu_frus
11         0 Mar 01 2020 18:01:09.0000000000 +00:00
.installer/.install_add_pkg_list.prev.txt
12        1729 Mar 01 2020 18:02:54.0000000000 +00:00 .installer/install_add_oper.log
13         5 May 11 2020 16:40:40.0000000000 +00:00 .installer/install_global_trans_lock
14        10 May 11 2020 16:40:40.0000000000 +00:00 .installer/install_state
15 33554432 May 11 2020 16:42:37.0000000000 +00:00 nvram_config
16        396 May 11 2020 16:41:02.0000000000 +00:00 boothelper.log
17       4096 May 11 2020 16:40:42.0000000000 +00:00 rpr
18        80 May 11 2020 16:40:42.0000000000 +00:00 rpr/RPR_log.txt
19        80 May 05 2020 22:10:45.0000000000 +00:00 rpr/RPR_log_prev.txt
20       2183 May 11 2020 16:40:42.0000000000 +00:00 bootloader_evt_handle.log
21       4096 Mar 06 2020 21:00:51.0000000000 +00:00 .ssh
22        965 Dec 24 2019 15:23:55.0000000000 +00:00 .ssh/ssh_host_key
23        630 Dec 24 2019 15:23:55.0000000000 +00:00 .ssh/ssh_host_key.pub
24       1675 Dec 24 2019 15:23:56.0000000000 +00:00 .ssh/ssh_host_rsa_key
25        382 Dec 24 2019 15:23:56.0000000000 +00:00 .ssh/ssh_host_rsa_key.pub
26        668 Dec 24 2019 15:23:56.0000000000 +00:00 .ssh/ssh_host_dsa_key
27        590 Dec 24 2019 15:23:56.0000000000 +00:00 .ssh/ssh_host_dsa_key.pub
28        492 Mar 06 2020 21:00:51.0000000000 +00:00 .ssh/ssh_host_ecdsa_key
29        162 Mar 06 2020 21:00:51.0000000000 +00:00 .ssh/ssh_host_ecdsa_key.pub
30        387 Mar 06 2020 21:00:51.0000000000 +00:00 .ssh/ssh_host_ed25519_key
31         82 Mar 06 2020 21:00:51.0000000000 +00:00 .ssh/ssh_host_ed25519_key.pub
32       4096 Dec 24 2019 15:24:41.0000000000 +00:00 core
33       4096 May 11 2020 16:41:29.0000000000 +00:00 core/modules
34       4096 May 05 2020 22:11:47.0000000000 +00:00 .prst_sync
35       4096 Mar 01 2020 18:17:15.0000000000 +00:00 .rollback_timer
36       4096 Mar 06 2020 21:01:11.0000000000 +00:00 gs_script
37       4096 Mar 06 2020 21:01:11.0000000000 +00:00 gs_script/sss
```

show bootflash:

```

38      4096 Apr 24 2020 18:56:40.0000000000 +00:00 tech_support
39      15305 May 11 2020 16:41:01.0000000000 +00:00 tech_support/igmp-snooping.tcl
40      1612 May 11 2020 16:41:01.0000000000 +00:00 tech_support/igmpsn_dump.tcl
.
.
.

```

次に、**show bootflash: sizesort** コマンドの出力例を示します。

```

Device# show bootflash: sizesort

-#- --length-- -----date/time----- path
126 968337890 Mar 27 2020 18:06:17.0000000000 +00:00 cat9k_iosxe.CSCvt37598.bin
136 967769293 May 05 2020 21:50:33.0000000000 +00:00 cat9k_iosxe.CSCvu05574
124 967321806 Mar 23 2020 18:48:45.0000000000 +00:00 cat9k_ts_2103.bin
133 951680494 Apr 13 2020 19:46:35.0000000000 +00:00
cat9k_iosxe.2020-04-13_17.34_rakoppak.SSA.bin
130 950434163 Apr 09 2020 09:03:47.0000000000 +00:00
cat9k_iosxe.2020-04-09_13.49_rakoppak.SSA.bin
132 950410332 Apr 09 2020 07:29:57.0000000000 +00:00
cat9k_iosxe.2020-04-09_12.28_rakoppak.SSA.bin
134 948402972 Apr 17 2020 23:02:04.0000000000 +00:00 cat9k_iosxe.tla.bin

77 810146146 Feb 27 2020 15:41:42.0000000000 +00:00 cat9k_iosxe.16.12.01c.SPA.bin
88 701945494 Feb 27 2020 16:23:55.0000000000 +00:00 cat9k_iosxe.16.09.03.SPA.bin
101 535442436 Mar 01 2020 18:01:41.0000000000 +00:00 cat9k-rpbase.16.12.01c.SPA.pkg
86 88884228 Mar 01 2020 18:01:41.0000000000 +00:00 cat9k-esppbase.16.12.01c.SPA.pkg
104 60167172 Mar 01 2020 18:01:41.0000000000 +00:00 cat9k-sipspa.16.12.01c.SPA.pkg
102 43111770 Mar 01 2020 18:02:07.0000000000 +00:00 cat9k-rpboot.16.12.01c.SPA.pkg
15 33554432 May 11 2020 16:42:37.0000000000 +00:00 nvram_config
131 33554432 May 11 2020 16:42:39.0000000000 +00:00 nvram_config_bkup
103 31413252 Mar 01 2020 18:01:41.0000000000 +00:00 cat9k-sipbase.16.12.01c.SPA.pkg
105 22676484 Mar 01 2020 18:01:41.0000000000 +00:00 cat9k-srdriver.16.12.01c.SPA.pkg
85 14226440 Mar 01 2020 18:01:41.0000000000 +00:00 cat9k-cc_srdriver.16.12.01c.SPA.pkg
.
.
.

```

show debug

スイッチで使用できるすべての debug コマンドを表示するには、特権 EXEC モードで **show debug** コマンドを使用します。

show debug

show debug condition *Condition identifier* | *All conditions*

構文の説明

Condition identifier 使用される条件識別子の値を設定します。範囲は、1～1000です。

All conditions 使用可能なすべての条件付きデバッグ オプションを表示します。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

特権 EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE リリース 16.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

デバッグ出力は CPU プロセスで高プライオリティが割り当てられているため、デバッグ出力を行うとシステムが使用できなくなることがあります。したがって、**debug** コマンドを使用するのは、特定の問題のトラブルシューティング時、またはシスコのテクニカルサポート担当者とともにトラブルシューティングを行う場合に限定してください。さらに、**debug** コマンドは、ネットワークトラフィックが少なく、ユーザも少ないときに使用するのが最良です。このような時間帯を選んでデバッグを実行すると、**debug** コマンドの処理の負担によってシステム利用が影響を受ける可能性が少なくなります。

例

次に、**show debug** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show debug condition all
```

デバッグを無効にするには、**no debug all** コマンドを使用します。

show env

スイッチ（スタンドアロンスイッチ、スタックのアクティブスイッチ、またはスタックメンバー）のファン、温度、および電源情報を表示するには、EXEC モードで **show env** コマンドを使用します。

```
show env { all | fan | power [all | switch [switch-number]] | stack [stack-number] |
temperature [status] }
```

構文の説明	all	ファン、温度、および電源環境のステータスを表示します。
	fan	スイッチのファンの状態を表示します。
	power	電源装置のステータスを表示します。
	all	(任意) すべての電源装置のステータスを表示します。
	switch switch-number	(任意) 特定のスイッチの電源装置のステータスを表示します。
	stack switch-number	(任意) スタックの各スイッチまたは指定されたスイッチのすべての環境ステータスを表示します。指定できる範囲は、スタック内のスイッチメンバ番号に従って1～9です。
	temperature	スイッチの温度ステータスを表示します。
	status	(任意) 温度ステータスとしきい値を表示します。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード ユーザ EXEC
特権 EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン 任意のメンバスイッチからスタック内のスイッチに関する情報を表示するには、**show env stack** [switch-number] コマンドを使用します。

スイッチの温度ステータスとしきい値レベルを表示するには、**show env temperature status** コマンドを使用します。

例

次の例では、マスタースイッチからスタックメンバ1に関する情報を表示する方法を示します。

```
Device> show env stack 1
Device 1:
Device Fan 1 is OK
Device Fan 2 is OK
Device Fan 3 is OK
FAN-PS1 is OK
FAN-PS2 is NOT PRESENT
Device 1: SYSTEM TEMPERATURE is OK
Temperature Value: 32 Degree Celsius
Temperature State: GREEN
Yellow Threshold : 41 Degree Celsius
Red Threshold : 56 Degree Celsius

Device>
```

次に、温度値、状態、およびしきい値を表示する例を示します。

```
Device> show env temperature status
Temperature Value: 32 Degree Celsius
Temperature State: GREEN
Yellow Threshold : 41 Degree Celsius
Red Threshold : 56 Degree Celsius

Device>
```

表 2: `show env temperature status` コマンド出力のステート

状態	説明
グリーン	スイッチの温度が正常な動作範囲にあります。
イエロー	温度が警告範囲にあります。スイッチの外の周辺温度を確認する必要があります。
レッド	温度がクリティカル範囲にあります。温度がこの範囲にある場合、スイッチが正常に実行されない可能性があります。

show env xps

Cisco eXpandable Power System (XPS) 2200 のバジェット配分、設定、電力、およびシステム電源情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show env xps** コマンドを使用します。

```
show env xps { budgeting | configuration | port [ all | number ] | power | system
| thermal | upgrade | version }
```

構文の説明		
	budgeting	XPS 電力バジェットの配分（電源スタックに含まれるすべてのスイッチに対する電力の割り当て量とバジェット量）を表示します。
	configuration	power xps 特権 EXEC コマンドを実行した結果の設定を表示します。XPS 設定は XPS に保存されます。show env xps configuration コマンドを入力すると、デフォルト以外の設定が取得されます。
	port [all number]	すべてのポートまたは指定の XPS ポートの設定とステータスを表示します。ポート番号は、1～9 です。
	power	XPS 電源装置のステータスを表示します。
	system	XPS システム ステータスを表示します。
	thermal	XPS 温度ステータスを表示します。
	upgrade	XPS アップグレード ステータスを表示します。
	version	XPS バージョンの詳細を表示します。

コマンドモード 特権 EXEC

コマンド履歴 リリース 変更内容
12.2(55)SE1 このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン XPS 2200 の情報を表示するには、**show env xps** 特権 EXEC コマンドを使用します。

例 次に、show env xps budgeting コマンドの出力例を示します。

```
Switch#
=====

XPS 0101.0100.0000 :
=====
```



```

Data          Current   Power   Power Port  Switch #  PS A  PS B  Role-State
Committed
Budget
-----  -----  -----  -----  -----  -    -    715  SP-PS
      223
      1543
2      -      -      -      SP-PS      223      223
3      -      -      -      -          -          -
4      -      -      -      -          -          -
5      -      -      -      -          -          -
6      -      -      -      -          -          -
7      -      -      -      -          -          -
8      -      -      -      -          -          -
9      1      1100  -      RPS-NB     223      070
XPS   -      -      1100  -          -          -

```

次に、show env xps configuration コマンドの出力例を示します。

```

Switch# show env xps configuration
=====
XPS 0101.0100.0000 :
=====
power xps port 4 priority 5
power xps port 5 mode disable
power xps port 5 priority 6
power xps port 6 priority 7
power xps port 7 priority 8
power xps port 8 priority 9
power xps port 9 priority 4

```

次に、show env xps port all コマンドの出力例を示します。

```

Switch#
XPS 010

-----
Port name      : -
Connected      : Yes
Mode           : Enabled (On)
Priority       : 1
Data stack switch # : - Configured role      : Auto-SP
Run mode       : SP-PS : Stack Power Power-Sharing Mode
Cable faults   : 0x0 XPS 0101.0100.0000 Port 2
-----
Port name      : -
Connected      : Yes
Mode           : Enabled (On)
Priority       : 2
Data stack switch # : - Configured role      : Auto-SP
Run mode       : SP-PS : Stack Power Power-Sharing Mode
Cable faults   : 0x0 XPS 0101.0100.0000 Port 3
-----
Port name      : -
Connected      : No
Mode           : Enabled (On)
Priority       : 3
Data stack switch # : - Configured role      : Auto-SP Run mode          : -
Cable faults   :
<output truncated>

```

次に、show env xps power コマンドの出力例を示します。

```

=====
XPS 0101.0100.0000 :
=====
Port-Supply SW PID                               Serial#    Status    Mode Watts
-----
XPS-A                Not present
XPS-B                NG3K-PWR-1100WAC  LIT13320NTV OK          SP   1100
1-A                  - -              -          -
1-B                  - -              -          -          SP   715
2-A                  - -              -          -
2-B                  - -              -          -
9-A                  100WAC          LIT141307RK OK          RPS  1100
9-B                  esent

```

次に、show env xps system コマンドの出力例を示します。

```

Switch#
=====

XPS 0101.0100.0000 :
=====
XPS                Cfg Cfg      RPS Switch Current  Data Port  XPS Port Name
-----
Mode Role      Pri Conn  Role-State Switch #
-----
1    -                On  Auto-SP  1    Yes    SP-PS    -
2    -                On  Auto-SP  2    Yes    SP-PS    -
3    -                On  Auto-SP  3    No     -        -
4    none            On  Auto-SP  5    No     -        -
5    -                Off Auto-SP  6    No     -        -
6    -                On  Auto-SP  7    No     -        -
7    -                On  Auto-SP  8    No     -        -
8    -                On  Auto-SP  9    No     -        -
9    test            On  Auto-SP  4    Yes    RPS-NB

```

次に、show env xps thermal コマンドの出力例を示します。

```

Switch#
=====

XPS 0101.0100.0000 :
=====
Fan  Status
----  -----
1    OK
2    OK
3    NOT PRESENT PS-1  NOT PRESENT PS-2  OK Temperature is OK

```

次に、アップグレードが実行されていない場合の show env xps upgrade コマンドの出力例を示します。

```

Switch# show env xps upgrade
No XPS is connected and upgrading.

```

次に、アップグレードが進行中の場合の show env xps upgrade コマンドの出力例を示します。

```

Switch# show env xps upgrade
XPS Upgrade Xfer

SW Status Prog
--  -----  ----

```

```

1 Waiting 0%
Switch#
*Mar 22 03:12:46.723: %PLATFORM_XPS-6-UPGRADE_START: XPS 0022.bdd7.9b14 upgrade has
started through the Service Port.
Switch# show env xps upgrade
XPS Upgrade Xfer
SW Status Prog
-- -----
1 Receiving 1%
Switch# show env xps upgrade
XPS Upgrade Xfer
SW Status Prog
-- -----
1 Receiving 5%
Switch# show env xps upgrade
XPS Upgrade Xfer
SW Status Prog
-- -----
1 Reloading 100%
Switch#
*Mar 22 03:16:01.733: %PLATFORM_XPS-6-UPGRADE_DONE: XPS 0022.bdd7.9b14 upgrade has
completed and the XPS is reloading.

```

次に、show env xps version コマンドの出力例を示します。

```

Switch# show env xps version
=====
XPS 0022.bdd7.9b14:
=====
Serial Number: FDO13490KUT
Hardware Version: 8
Bootloader Version: 7
Software Version: 18

```

表 3: 関連コマンド

コマンド	説明
power xps (グローバル コンフィギュレーション コマンド)	XPS と XPS ポートの名前を設定します。
power xps (特権 EXEC コマンド)	XPS ポートとシステムを設定します。

show flow monitor

フローモニタのステータスと統計情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show flow monitor** コマンドを使用します。

構文の説明

name	(任意) フローモニタの名前を指定します。
monitor-name	(任意) 事前に設定されたフローモニタの名前。
cache	(任意) フローモニタのキャッシュの内容を表示します。
format	(任意) ディスプレイ出力のフォーマットオプションのいずれかを使用することを指定します。
csv	(任意) フローモニタのキャッシュの内容をカンマ区切り値 (CSV) 形式で表示します。
record	(任意) フローモニタのキャッシュの内容をレコード形式で表示します。
table	(任意) フローモニタのキャッシュの内容を表形式で表示します。
statistics	(任意) フローモニタの統計情報を表示します。

コマンドモード

特権 EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

cache キーワードでは、デフォルトでレコード形式が使用されます。

show flowmonitor monitor-name cache コマンドのディスプレイ出力に含まれる大文字のフィールド名は、フローの識別に使用するキーフィールドです。**show flow monitor monitor-name cache** コマンドのディスプレイ出力に含まれる小文字のフィールド名は、がキャッシュの追加データとして値を収集する非キーフィールドです。

例

次の例では、フローモニタのステータスを表示します。

```

デバイス# show flow monitor FLOW-MONITOR-1

Flow Monitor FLOW-MONITOR-1:
  Description:      Used for basic traffic analysis
  Flow Record:      flow-record-1
  Flow Exporter:    flow-exporter-1
                   flow-exporter-2
  Cache:
    Type:           normal
    Status:         allocated
    Size:           4096 entries / 311316 bytes
    Inactive Timeout: 15 secs

```

```
Active Timeout: 1800 secs
```

次の表で、この出力に表示される重要なフィールドを説明します。

表 4: *show flow monitor monitor-name* フィールドの説明

フィールド	説明
Flow Monitor	設定したフロー モニタの名前。
Description	モニタに設定した説明、またはユーザ定義のデフォルトの説明。
Flow Record	フロー モニタに割り当てられたフロー レコード。
Flow Exporter	フロー モニタに割り当てられたエクスポータ。
Cache	フロー モニタのキャッシュに関する情報。
Type	フロー モニタのキャッシュ タイプ。この値は常に normal となります。これが唯一サポートされているキャッシュ タイプです。
Status	フロー モニタのキャッシュのステータス。 次の値が可能です。 <ul style="list-style-type: none"> • allocated : キャッシュが割り当てられています。 • being deleted : キャッシュが削除されています。 • not allocated : キャッシュが割り当てられていません。
Size	現在のキャッシュ サイズ。
Inactive Timeout	非アクティブ タイムアウトの現在の値 (秒単位)。
Active Timeout	アクティブ タイムアウトの現在の値 (秒単位)。

次の例では、**FLOW-MONITOR-1** という名前のフロー モニタのステータス、統計情報、およびデータを表示します。

次の表で、この出力に表示される重要なフィールドを説明します。

次の例では、**FLOW-MONITOR-1** という名前のフロー モニタのステータス、統計情報、およびデータを表形式で表示します。

次の例では、**FLOW-MONITOR-IPv6** という名前のフロー モニタ (キャッシュに IPv6 データを格納) のステータス、統計情報、およびデータをレコード形式で表示します。

次の例では、フロー モニタのステータスと統計情報を表示します。

show install

インストールパッケージに関する情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show install** コマンドを使用します。

show install {**active** | **committed** | **inactive** | **log** | **package** {**bootflash:** | **flash:** | **webui:**} | **rollback** | **summary** | **uncommitted**}

構文の説明	active	アクティブなパッケージに関する情報を表示します。
	committed	永続的なパッケージのアクティベーションを表示します。
	inactive	非アクティブなパッケージを表示します。
	log	ログインストレーションバッファに格納されているエントリを表示します。
	package	説明、再起動情報、パッケージ内のコンポーネントなど、パッケージに関するメタデータ情報を表示します。
	{ bootflash: flash: harddisk: webui: }	インストールパッケージのロケーションを指定します。
	rollback	保存されているインストレーションに関連付けられたソフトウェアセットを表示します。
	summary	アクティブ、非アクティブ、コミット済み、廃止されたパッケージのリストに関する情報を表示します。
	uncommitted	非永続的なパッケージのアクティベーションを表示します。
コマンドモード	特権 EXEC (#)	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.6.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン インストールパッケージのステータスを表示するには、**show** コマンドを使用します。

例

次に、**show install package** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show install package bootflash:cat3k-universalk9.2017-01-10_13.15.1.
CSCxxx.SSA.dmp.bin
Name: cat3k-universalk9.2017-01-10_13.15.1.CSCxxx.SS
Version: 16.6.1.0.199.1484082952..Everest
Platform: Catalyst3k
Package Type: dmp
Defect ID: CSCxxx
Package State: Added
Supersedes List: {}
Smu ID: 1
```

次に、**show install summary** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show install summary

Active Packages:
  bootflash:cat3k-universalk9.2017-01-10_13.15.1.CSCxxx.SSA.dmp.bin
Inactive Packages:
  No packages
Committed Packages:
  bootflash:cat3k-universalk9.2017-01-10_13.15.1.CSCxxx.SSA.dmp.bin
Uncommitted Packages:
  No packages
Device#
```

下の表に、ディスプレイ内に表示される重要なフィールドのリストを示します。

表 5: *show install summary* フィールドの説明

フィールド	説明
Active Packages	アクティブなインストールパッケージの名前。
Inactive Packages	非アクティブなパッケージのリスト。
Committed Packages	変更がリロード以降も存続するように、ハードディスクに変更を保存またはコミットしたインストールパッケージ。
Uncommitted Packages	非永続的なインストールパッケージのアクティベーション。

次に、**show install log** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show install log

[0|install_op_boot]: START Fri Feb 24 19:20:19 Universal 2017
[0|install_op_boot]: END SUCCESS Fri Feb 24 19:20:23 Universal 2017
[3|install_add]: START Sun Feb 26 05:55:31 UTC 2017
[3|install_add( FATAL)]: File path (scp) is not yet supported for this command
[4|install_add]: START Sun Feb 26 05:57:04 UTC 2017
[4|install_add]: END SUCCESS
/bootflash/cat3k-universalk9.2017-01-10_13.15.1.CSCvb12345.SSA.dmp.bin
Sun Feb 26 05:57:22 UTC 2017
```

show install

```
[5|install_activate]: START Sun Feb 26 05:58:41 UTC 2017
```

関連コマンド

コマンド	説明
install	SMUパッケージをインストールします。

show license all

すべてのライセンス情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show license all** コマンドを入力します。このコマンドは、ステータス、承認、UDI、および使用状況の情報をすべて組み合わせて表示します。

show license all

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Fuji 16.9.1	このコマンドが導入されました。
Cisco IOS XE Amsterdam 17.3.2a	コマンド出力が更新され、ポリシーを使用したスマートライセンスに関する情報が表示されるようになりました。 コマンド出力にスマートアカウントとバーチャルアカウントの情報が表示されなくなりました。

使用上のガイドライン

ポリシーを使用したスマートライセンス：デバイス上のソフトウェアバージョン（製品インスタンスとも呼ばれる）が Cisco IOS XE Amsterdam 17.3.2a 以降のリリースの場合、コマンド出力にはポリシーを使用したスマートライセンスに関連するフィールドが表示されます。

スマートライセンス：デバイス上のソフトウェアバージョンが Cisco IOS XE Amsterdam 17.3.1 以前のリリースの場合、コマンド出力にはスマートライセンスに関連するフィールドが表示されます（スマートライセンスが有効になっているかどうか、関連するすべてのライセンス証明書、コンプライアンスステータスなど）。

例

[ポリシーを使用したスマートライセンスの show license all \(105 ページ\)](#)

[スマートライセンスの show license all \(108 ページ\)](#)

ポリシーを使用したスマートライセンスの show license all

次に、Cisco Catalyst 9500 スイッチでの **show license all** コマンドの出力例を示します。同様の出力が、サポートされているすべての Cisco Catalyst アクセス、コア、およびアグリゲーションスイッチで表示されます。

```
Device# show license all
```

```
Smart Licensing Status
=====
```

```

Smart Licensing is ENABLED
License Reservation is ENABLED
Export Authorization Key:
  Features Authorized:
    <none>
Utility:
  Status: DISABLED
Smart Licensing Using Policy:
  Status: ENABLED
Data Privacy:
  Sending Hostname: yes
  Callhome hostname privacy: DISABLED
  Smart Licensing hostname privacy: DISABLED
  Version privacy: DISABLED
Transport:
  Type: Transport Off
Miscellaneous:
  Custom Id: <empty>
Policy:
  Policy in use: Merged from multiple sources.
  Reporting ACK required: yes (CISCO default)
  Unenforced/Non-Export Perpetual Attributes:
    First report requirement (days): 365 (CISCO default)
    Reporting frequency (days): 0 (CISCO default)
    Report on change (days): 90 (CISCO default)
  Unenforced/Non-Export Subscription Attributes:
    First report requirement (days): 90 (CISCO default)
    Reporting frequency (days): 90 (CISCO default)
    Report on change (days): 90 (CISCO default)
  Enforced (Perpetual/Subscription) License Attributes:
    First report requirement (days): 0 (CISCO default)
    Reporting frequency (days): 0 (CISCO default)
    Report on change (days): 0 (CISCO default)
  Export (Perpetual/Subscription) License Attributes:
    First report requirement (days): 0 (CISCO default)
    Reporting frequency (days): 0 (CISCO default)
    Report on change (days): 0 (CISCO default)
Usage Reporting:
  Last ACK received: <none>
  Next ACK deadline: Nov 29 10:50:05 2020 PDT
  Reporting Interval: 30
  Next ACK push check: <none>
  Next report push: Aug 31 10:52:05 2020 PDT
  Last report push: <none>
  Last report file write: <none>
Trust Code Installed: <none>
License Usage
=====
network-advantage (C9500 Network Advantage):
  Description: network-advantage
  Count: 2
  Version: 1.0
  Status: IN USE
  Export status: NOT RESTRICTED
  Feature Name: network-advantage
  Feature Description: network-advantage
  Enforcement type: NOT ENFORCED
  License type: Perpetual
  Reservation:
    Reservation status: SPECIFIC INSTALLED
    Total reserved count: 2
dna-advantage (C9500-16X DNA Advantage):
  Description: C9500-16X DNA Advantage
  Count: 2

```

```
Version: 1.0
Status: IN USE
Export status: NOT RESTRICTED
Feature Name: dna-advantage
Feature Description: C9500-16X DNA Advantage
Enforcement type: NOT ENFORCED
License type: Subscription
Reservation:
  Reservation status: SPECIFIC INSTALLED
  Total reserved count: 2
Product Information
=====
UDI: PID:C9500-16X,SN:FCW2233A5ZV
HA UDI List:
  Active:PID:C9500-16X,SN:FCW2233A5ZV
  Standby:PID:C9500-16X,SN:FCW2233A5ZY
Agent Version
=====
Smart Agent for Licensing: 5.0.5_rel/42
License Authorizations
=====
Overall status:
  Active: PID:C9500-16X,SN:FCW2233A5ZV
    Status: SPECIFIC INSTALLED on Aug 31 10:15:01 2020 PDT
    Last Confirmation code: 4bfbea7f
  Standby: PID:C9500-16X,SN:FCW2233A5ZY
    Status: SPECIFIC INSTALLED on Aug 31 10:15:01 2020 PDT
    Last Confirmation code: 9394f196
Specified license reservations:
  C9500 Network Advantage (C9500 Network Advantage):
    Description: C9500 Network Advantage
    Total reserved count: 2
    Enforcement type: NOT ENFORCED
    Term information:
      Active: PID:C9500-16X,SN:FCW2233A5ZV
        Authorization type: SPECIFIC INSTALLED on Aug 31 10:15:01 2020 PDT
        License type: PERPETUAL
        Term Count: 1
      Standby: PID:C9500-16X,SN:FCW2233A5ZY
        Authorization type: SPECIFIC INSTALLED on Aug 31 10:15:01 2020 PDT
        License type: PERPETUAL
        Term Count: 1
  C9500-DNA-16X-A (C9500-16X DNA Advantage):
    Description: C9500-DNA-16X-A
    Total reserved count: 2
    Enforcement type: NOT ENFORCED
    Term information:
      Active: PID:C9500-16X,SN:FCW2233A5ZV
        Authorization type: SPECIFIC INSTALLED on Aug 31 10:15:01 2020 PDT
        License type: PERPETUAL
        Term Count: 1
      Standby: PID:C9500-16X,SN:FCW2233A5ZY
        Authorization type: SPECIFIC INSTALLED on Aug 31 10:15:01 2020 PDT
        License type: PERPETUAL
        Term Count: 1
Purchased Licenses:
  No Purchase Information Available
Derived Licenses:
  Entitlement Tag:
  regid.2017-03.com.cisco.advantagek9-Nyquist-C9500,1.0_f1563759-2e03-4a4c-bec5-5feec525a12c
  Entitlement Tag:
  regid.2017-07.com.cisco.C9500-DNA-16X-A,1.0_ef3574d1-156b-486a-864f-9f779ff3ee49
```

スマートライセンスの show license all

次に、**show license all** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show license all
Smart Licensing Status
=====

Smart Licensing is ENABLED

Registration:
  Status: REGISTERED
  Smart Account: CISCO Systems
  Virtual Account: NPR
  Export-Controlled Functionality: Allowed
  Initial Registration: SUCCEEDED on Jul 16 09:44:50 2018 IST
  Last Renewal Attempt: None
  Next Renewal Attempt: Jan 12 09:44:49 2019 IST
  Registration Expires: Jul 16 09:39:05 2019 IST

License Authorization:
  Status: AUTHORIZED on Jul 31 17:30:02 2018 IST
  Last Communication Attempt: SUCCEEDED on Jul 31 17:30:02 2018 IST
  Next Communication Attempt: Aug 30 17:30:01 2018 IST
  Communication Deadline: Oct 29 17:24:12 2018 IST

Export Authorization Key:
  Features Authorized:
    <none>

Utility:
  Status: DISABLED

Data Privacy:
  Sending Hostname: yes
    Callhome hostname privacy: DISABLED
    Smart Licensing hostname privacy: DISABLED
  Version privacy: DISABLED

Transport:
  Type: Callhome

License Usage
=====

C9500 48Y4C DNA Advantage (C9500-DNA-48Y4C-A):
  Description: C9500 48Y4C DNA Advantage
  Count: 1
  Version: 1.0
  Status: AUTHORIZED
  Export status: NOT RESTRICTED

C9500 48Y4C NW Advantage (C9500-48Y4C-A):
  Description: C9500 48Y4C NW Advantage
  Count: 1
  Version: 1.0
  Status: AUTHORIZED
  Export status: NOT RESTRICTED

Product Information
=====
UDI: PID:C9500-48Y4C,SN:CAT2150L5HK

Agent Version
```

```

=====
Smart Agent for Licensing: 4.5.2_rel/32
Component Versions: SA:(1_3_dev)1.0.15, SI:(dev22)1.2.1, CH:(rel15)1.0.3, PK:(dev18)1.0.3

Reservation Info
=====
License reservation: DISABLED

```

関連コマンド

コマンド	説明
show license status	ライセンスのコンプライアンスステータスを表示します。
show license authorization	許可コード関連情報を表示します。
show license summary	すべてのアクティブなライセンスの要約を表示します。
show license udi	UDI を表示します。
show license usage	ライセンス使用情報を表示します。
show license tech support	デバッグ出力を表示します。

show license authorization

ライセンス（輸出規制および適用）の承認関連情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show license authorization** コマンドを入力します。

show license authorization

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード	特権 EXEC (Device#)
---------	-------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Amsterdam 17.3.2a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン	Cisco Catalyst アクセス、コア、およびアグリゲーションスイッチには、輸出制御または強制されたライセンスはありませんが、このコマンドを使用して、移行された SLR 承認コードを表示できます。
------------	---

例

ディスプレイに表示されるフィールドについては、[表 6 : show license authorization のフィールドの説明 \(111 ページ\)](#) を参照してください。

出力例については、[show license authorization の移行された SLR 認証コードの表示 \(114 ページ\)](#) を参照してください。

表 6 : show license authorization のフィールドの説明

フィールド	説明
Overall Status	設定内にあるすべての製品インスタンスの UDI 情報のヘッダー、インストールされている承認のタイプ、および設定エラー（存在する場合）。高可用性設定では、設定内にあるすべての UDI がリストされます。
Active: ステータス :	アクティブ製品インスタンス UDI と、それに続いてこの UDI の承認コードインストールのステータス。 承認コードがインストールされていることを示すステータスであり、確認コードがある場合は、これも表示されます。
Standby: ステータス :	スタンバイ製品インスタンス UDI と、それに続いてこの UDI の承認コードインストールのステータス。 承認コードがインストールされていることを示すステータスであり、確認コードがある場合は、これも表示されます。
Member: ステータス :	メンバー製品インスタンス UDI と、それに続いてこの UDI の承認コードインストールのステータス。 承認コードがインストールされていることを示すステータスであり、確認コードがある場合は、これも表示されます。
ERROR:	高可用性設定の設定エラーまたは不一致（存在する場合）。

フィールド	説明
承認	<p>詳細なライセンス承認情報のヘッダー。すべてのライセンス、その適用タイプ、および有効期間が表示されます。承認またはモードがアクティブにインストールされているものと一致しない場合、製品インスタンスごとにエラーが表示されます。</p> <p>このセクションは、製品インスタンスが承認コードを必要とするライセンスを使用している場合にのみ表示されます。</p>
():	ライセンス名およびライセンス名の短縮形。
説明	ライセンスの説明。
Total available count:	<p>使用可能なライセンスの合計数。</p> <p>これには、高可用性設定のすべての製品インスタンスに関して、期限切れのサブスクリプション ライセンスを含む、すべての期間のライセンス（永久ライセンスおよびサブスクリプション）が含まれます。</p>
Enforcement type	<p>ライセンスの適用タイプ。これは、次のいずれかです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 適用 • 非適用 • 輸出規制
Term information:	

フィールド	説明												
	<p>ライセンス期間情報を提供するヘッダー。このヘッダーには、次のフィールドが含まれることがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Active : アクティブ製品インスタンス UDI と、それに続いてこの UDI の承認コードインストールのステータス。 • Authorization type : インストールされている承認コードのタイプとインストール日。タイプは、SLAC、UNIVERSAL、SPECIFIED、PAK、RTU です。 • Start Date : ライセンスが特定の期間または時間の場合に、有効期間の開始日を表示します。 • Start Date : ライセンスが特定の期間または時間の場合に、有効期間の終了日を表示します。 • Term Count : ライセンス数。 • Subscription ID : ライセンスが特定の期間または時間の場合に、ID を表示します。 • License type : ライセンス継続期間。これは、SUBSCRIPTION または PERPETUAL です。 • Standby : スタンバイ製品インスタンス UDI と、それに続いてこの UDI の承認コードインストールのステータス。 • Member : メンバー製品インスタンス UDI と、それに続いてこの UDI の承認コードインストールのステータス。 												
Purchased Licenses	<p>ライセンス購入情報のヘッダー。</p> <table border="1" data-bbox="639 1423 1515 1814"> <tbody> <tr> <td data-bbox="639 1423 862 1484">Active:</td> <td data-bbox="862 1423 1515 1484">アクティブ製品インスタンスとその UDI。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="639 1484 862 1545">Count:</td> <td data-bbox="862 1484 1515 1545">ライセンス数。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="639 1545 862 1606">Description:</td> <td data-bbox="862 1545 1515 1606">ライセンスの説明。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="639 1606 862 1707">License type:</td> <td data-bbox="862 1606 1515 1707">ライセンス継続期間。これは、SUBSCRIPTION または PERPETUAL です。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="639 1707 862 1768">Standby:</td> <td data-bbox="862 1707 1515 1768">スタンバイ製品インスタンスの UDI。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="639 1768 862 1814">Member:</td> <td data-bbox="862 1768 1515 1814">メンバー製品インスタンスの UDI。</td> </tr> </tbody> </table>	Active:	アクティブ製品インスタンスとその UDI。	Count:	ライセンス数。	Description:	ライセンスの説明。	License type:	ライセンス継続期間。これは、SUBSCRIPTION または PERPETUAL です。	Standby:	スタンバイ製品インスタンスの UDI。	Member:	メンバー製品インスタンスの UDI。
Active:	アクティブ製品インスタンスとその UDI。												
Count:	ライセンス数。												
Description:	ライセンスの説明。												
License type:	ライセンス継続期間。これは、SUBSCRIPTION または PERPETUAL です。												
Standby:	スタンバイ製品インスタンスの UDI。												
Member:	メンバー製品インスタンスの UDI。												

show license authorization の移行されたSLR認証コードの表示

次に、ポリシーを使用してスマートライセンスに移行されたSLR承認コード（最終確認コード:）を示す **show license authorization** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show license authorization

Overall status:
  Active: PID:C9500-16X,SN:FCW2233A5ZV
    Status: SPECIFIC INSTALLED on Oct 29 09:44:06 2020 PST
    Last Confirmation code: 184ba6d6
  Standby: PID:C9500-16X,SN:FCW2233A5ZY
    Status: SPECIFIC INSTALLED on Oct 29 09:44:06 2020 PST
    Last Confirmation code: 961d598f

Specified license reservations:
  C9500 Network Advantage (C9500 Network Advantage):
    Description: C9500 Network Advantage
    Total reserved count: 2
    Enforcement type: NOT ENFORCED
    Term information:
      Active: PID:C9500-16X,SN:FCW2233A5ZV
        Authorization type: SPECIFIC INSTALLED on Oct 29 09:44:06 2020 PST
        License type: PERPETUAL
        Term Count: 1
      Standby: PID:C9500-16X,SN:FCW2233A5ZY
        Authorization type: SPECIFIC INSTALLED on Oct 29 09:44:06 2020 PST
        License type: PERPETUAL
        Term Count: 1
  C9500-DNA-16X-A (C9500-16X DNA Advantage):
    Description: C9500-DNA-16X-A
    Total reserved count: 2
    Enforcement type: NOT ENFORCED
    Term information:
      Active: PID:C9500-16X,SN:FCW2233A5ZV
        Authorization type: SPECIFIC INSTALLED on Oct 29 09:44:06 2020 PST
        License type: PERPETUAL
        Term Count: 1
      Standby: PID:C9500-16X,SN:FCW2233A5ZY
        Authorization type: SPECIFIC INSTALLED on Oct 29 09:44:06 2020 PST
        License type: PERPETUAL
        Term Count: 1

Purchased Licenses:
  No Purchase Information Available

Derived Licenses:
  Entitlement Tag:
  regid.2017-03.com.cisco.advantagek9-Nyquist-C9500,1.0_f1563759-2e03-4a4c-bec5-5feec525a12c

  Entitlement Tag:
  regid.2017-07.com.cisco.C9500-DNA-16X-A,1.0_ef3574d1-156b-486a-864f-9f779ff3ee49
```

show license data translation

ライセンスデータ転換情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show license data** コマンドを入力します。

show license data conversion

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

特権 EXEC (Device#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Fuji 16.9.1	このコマンドが導入されました。
Cisco IOS XE Amsterdam 17.3.2a	コマンド出力が更新され、ポリシーを使用したスマートライセンスに関する情報が表示されるようになりました。 コマンド出力にスマートアカウントとバーチャルアカウントの情報が表示されなくなりました。

使用上のガイドライン

ポリシーを使用したスマートライセンス：デバイス上のソフトウェアバージョン（製品インスタンスとも呼ばれる）が Cisco IOS XE Amsterdam 17.3.2a 以降のリリースの場合、コマンド出力にはポリシーを使用したスマートライセンスに関連するフィールドが表示されます。

デバイス主導の変換は、Cisco Catalyst アクセス、コア、およびアグリゲーションスイッチではサポートされていません。

スマートライセンス：デバイス上のソフトウェアバージョンが Cisco IOS XE Amsterdam 17.3.1 以前のリリースの場合、コマンド出力にはスマートライセンスに関連するフィールドが表示されます。

show license eventlog

ポリシーを使用したスマートライセンスに関連するイベントログを表示するには、特権 EXEC モードで **show license eventlog** コマンドを入力します。

show license eventlog [*days*]

構文の説明	<i>days</i> イベントログを表示する日数を入力します。0 ~ 2147483647 の範囲の値を指定できません。						
コマンドモード	特権 EXEC (Device#)						
コマンド履歴	<table border="1"> <thead> <tr> <th>リリース</th> <th>変更内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Cisco IOS XE Fuji 16.9.1</td> <td>このコマンドが導入されました。</td> </tr> <tr> <td>Cisco IOS XE Amsterdam 17.3.2a</td> <td> <p>ポリシーを使用したスマートライセンスの導入により、次のイベントが追加されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ポリシーのインストールと削除 • 承認コードの要求、インストール、および削除。 • 信頼コードのインストールと削除。 • ライセンス使用状況に関する承認ソース情報の追加。 </td> </tr> </tbody> </table>	リリース	変更内容	Cisco IOS XE Fuji 16.9.1	このコマンドが導入されました。	Cisco IOS XE Amsterdam 17.3.2a	<p>ポリシーを使用したスマートライセンスの導入により、次のイベントが追加されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ポリシーのインストールと削除 • 承認コードの要求、インストール、および削除。 • 信頼コードのインストールと削除。 • ライセンス使用状況に関する承認ソース情報の追加。
リリース	変更内容						
Cisco IOS XE Fuji 16.9.1	このコマンドが導入されました。						
Cisco IOS XE Amsterdam 17.3.2a	<p>ポリシーを使用したスマートライセンスの導入により、次のイベントが追加されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ポリシーのインストールと削除 • 承認コードの要求、インストール、および削除。 • 信頼コードのインストールと削除。 • ライセンス使用状況に関する承認ソース情報の追加。 						

使用上のガイドライン **ポリシーを使用したスマートライセンス**：デバイス上のソフトウェアバージョン（製品インスタンスとも呼ばれる）が Cisco IOS XE Amsterdam 17.3.2a 以降のリリースの場合、コマンド出力にはポリシーを使用したスマートライセンスに関連するフィールドが表示されます。

スマートライセンス：デバイス上のソフトウェアバージョンが Cisco IOS XE Amsterdam 17.3.1 以前のリリースの場合、コマンド出力にはスマートライセンスに関連するフィールドが表示されます。

例

ポリシーを使用したスマートライセンスの [show license eventlog for One Day](#) (116 ページ)

ポリシーを使用したスマートライセンスの [show license eventlog for All Events](#) (117 ページ)

ポリシーを使用したスマートライセンスの **show license eventlog for One Day**

次に、Cisco Catalyst 9500 スイッチでの **show license eventlog** コマンドの出力例を示します。同様の出力が、サポートされているすべての Cisco Catalyst アクセス、コア、およびアグリゲーションスイッチで表示されます。このコマンドは、1 日分のイベントを表示するように設定されています。

```

Device# show license eventlog 1
**** Event Log ****

2020-09-11 00:50:17.693 EDT SAEVT_PLATFORM eventSource="INFRA_SL"
eventName="INFRA_SL_EVLOG_ERM_RESET" MSG="ERM-Reset: Client 0, AP-GROUP group, 2 features
  air-network-advantage,air-dna-advantage"
2020-09-11 00:50:17.695 EDT SAEVT_ENDPOINT_USAGE count="0"
entitlementTag="regid.2018-06.com.cisco.DNA_NWStack,1.0_e7244e71-3ad5-4608-8bf0-d12f67c80896"
2020-09-11 00:50:17.695 EDT SAEVT_ENDPOINT_USAGE count="0"
entitlementTag="regid.2017-08.com.cisco.AIR-DNA-A,1.0_b6308627-3ab0-4a11-a3d9-586911a0d790"
2020-09-11 00:50:50.175 EDT SAEVT_POLL_MESSAGE messageType="LICENSE_USAGE"
2020-09-11 08:50:17.694 EDT SAEVT_PLATFORM eventSource="INFRA_SL"
eventName="INFRA_SL_EVLOG_ERM_RESET" MSG="ERM-Reset: Client 0, AP-GROUP group, 2 features
  air-network-advantage,air-dna-advantage"
2020-09-11 08:50:17.696 EDT SAEVT_ENDPOINT_USAGE count="0"
entitlementTag="regid.2018-06.com.cisco.DNA_NWStack,1.0_e7244e71-3ad5-4608-8bf0-d12f67c80896"
2020-09-11 08:50:17.696 EDT SAEVT_ENDPOINT_USAGE count="0"
entitlementTag="regid.2017-08.com.cisco.AIR-DNA-A,1.0_b6308627-3ab0-4a11-a3d9-586911a0d790"
2020-09-11 08:50:52.804 EDT SAEVT_POLL_MESSAGE messageType="LICENSE_USAGE"

```

ポリシーを使用したスマートライセンスの show license eventlog for All Events

次に、Cisco Catalyst 9500 スイッチでの **show license eventlog** コマンドの出力例を示します。同様の出力が、サポートされているすべての Cisco Catalyst アクセス、コア、およびアグリゲーションスイッチで表示されます。このコマンドは、すべてのイベントを表示するように設定されています。

```

Device# show license eventlog
**** Event Log ****

2020-09-01 15:43:42.300 UTC SAEVT_INIT_START version="4.13.14_rel/41"
2020-09-01 15:43:42.301 UTC SAEVT_INIT_CRYPTO success="False" error="Crypto Initialization
  has not been completed"
2020-09-01 15:43:42.301 UTC SAEVT_HA_EVENT eventType="SmartAgentEvtHArmfRegister"
2020-09-01 15:43:45.055 UTC SAEVT_READY
2020-09-01 15:43:45.055 UTC SAEVT_ENABLED
2020-09-01 15:43:45.088 UTC SAEVT_PLATFORM eventSource="INFRA_SL"
eventName="INFRA_SL_EVLOG_SYSDATA_FAIL" MSG="Get-SDL: not the active switch"
2020-09-01 15:43:45.089 UTC SAEVT_PLATFORM eventSource="INFRA_SL"
eventName="INFRA_SL_EVLOG_SYSDATA_FAIL" MSG="Get-SDL: not the active switch"
2020-09-01 15:43:45.089 UTC SAEVT_PLATFORM eventSource="INFRA_SL"
eventName="INFRA_SL_EVLOG_SYSDATA_FAIL" MSG="Get-SDL: not the active switch"
2020-09-01 15:43:45.089 UTC SAEVT_LICENSE_USAGE count="0" type="destroy"
entitlementTag="regid.2018-01.com.cisco.C9500-24Y4C-A,1.0_6b065611-6552-472a-8859-ab3339550166"
2020-09-01 15:43:45.098 UTC SAEVT_PLATFORM eventSource="INFRA_SL"
eventName="INFRA_SL_EVLOG_SYSDATA_FAIL" MSG="Get-SDL: not the active switch"

```

show license history message

製品インスタンスと CSSM または CSLU（該当する場合）の間の通信履歴を表示するには、特権 EXEC モードで **show license history message** コマンドを入力します。このコマンドの出力は、テクニカルサポートチームがトラブルシューティングに使用します。

show license history message

構文の説明	このコマンドにはキーワードまたは引数はありません。	
コマンドモード	特権 EXEC (Device#)	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Amsterdam 17.3.2a このコマンドが導入されました。	
使用上のガイドライン	解決できないエラーメッセージが表示された場合は、コンソールまたはシステムログに表示されるメッセージともに、シスコのテクニカルサポート担当者に show license tech support 、 show license history message 、および show platform software sl-infra all 特権 EXEC コマンドの出力例を提供してください。	

show license reservation

ライセンス予約情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show license reservation** コマンドを入力します。

show license reservation

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

特権 EXEC (Device#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Fuji 16.9.1	このコマンドが導入されました。
Cisco IOS XE Amsterdam 17.3.2a	コマンドは CLI で引き続き使用できますが、予約の概念がポリシーを使用したスマートライセンス環境に存在しないため、適用できません。

使用上のガイドライン

コマンドは CLI で引き続き使用可能であり、対応する出力が表示されますが、ポリシーを使用したスマートライセンシングの導入により、予約の概念は適用されなくなりました。代わりに、特権 EXEC モードで **show license all** コマンドを使用して、移行された SLR ライセンスを表示します (SLR 承認コードはポリシーを使用してスマートライセンスに移行されます)。

show license status

データプライバシー、ポリシー、転送、使用状況レポート、信頼コードなどのライセンス設定に関する情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show license status** コマンドを入力します。

show license status

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Fuji 16.9.1	このコマンドが導入されました。
Cisco IOS XE Amsterdam 17.3.2a	コマンド出力が更新され、ポリシーを使用したスマートライセンスに適用可能な新しいフィールドが反映されました。これには、Trust code installed:、Policy in use、Policy name: 、ポリシーと同様のレポート要件、および使用状況レポートに関連するフィールドが含まれます。 コマンド出力にスマートアカウントとバーチャルアカウントの情報が表示されなくなりました。

使用上のガイドライン

ポリシーを使用したスマートライセンス：デバイス上のソフトウェアバージョン（製品インスタンスとも呼ばれる）が Cisco IOS XE Amsterdam 17.3.2a 以降のリリースの場合、コマンド出力にはポリシーを使用したスマートライセンスに関連するフィールドが表示されます。

スマートライセンス：デバイス上のソフトウェアバージョンが Cisco IOS XE Amsterdam 17.3.1 以前のリリースの場合、コマンド出力にはスマートライセンスに関連するフィールドが表示されます。

例

ディスプレイに表示されるフィールドについては、[表 7: ポリシーを使用したスマートライセンスの show license status のフィールドの説明](#)（121 ページ）を参照してください。

[ポリシーを使用したスマートライセンスの show license status](#)（126 ページ）

[スマートライセンスの show license status](#)（127 ページ）

表 7: ポリシーを使用したスマートライセンスの *show license status* のフィールドの説明

フィールド	説明	
ユーティリティ	製品インスタンスで設定されているユーティリティ設定のヘッダー。	
	ステータス :	Status
	ユーティリティレポート :	最後の試行結果 :
	顧客情報 :	次のフィールドが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> • ID: • Name: • Street • City: • State: • Country: • Postal Code:
ポリシーを使用したスマートライセンス	製品インスタンスのポリシー設定のヘッダー。	
	ステータス :	<p>ポリシーを使用したスマートライセンスが有効になっているかどうかを示します。</p> <p>ポリシーを使用したスマートライセンスは、Cisco IOS XE Amsterdam 17.3.2 以降でサポートされ、サポートされているソフトウェアイメージでは常に有効になっています。</p>

フィールド	説明
データプライバシー :	製品インスタンスで設定されているプライバシー設定のヘッダー。
	送信ホスト名 : ホスト名が使用状況レポートで送信されるかどうかを示す <i>yes</i> または <i>no</i> の値。
	Callhome ホスト名のプライバシー : Call Home 機能がレポートの転送モードとして設定されているかどうかを示します。設定されている場合、次のいずれかの値が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> • ENABLED • DISABLED
	スマートライセンスホスト名のプライバシー : 次のいずれかの値が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> • ENABLED • DISABLED
	バージョンプライバシー : 次のいずれかの値が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> • ENABLED • DISABLED
トランスポート :	製品インスタンスで設定されているトランスポート設定のヘッダー。
	Type: 使用中の転送モード。 特定の転送モードでは、追加のフィールドが表示されます。たとえば、通信タイプが CSLU に設定されている場合、CSLU アドレスも表示されます。

フィールド	説明
ポリシー :	製品インスタンスに適用されるポリシー情報のヘッダー。
使用中のポリシー :	適用されるポリシー これは、Cisco default、Product default、Permanent License Reservation、Specific License Reservation、PAK license、Installed on <date>、Controller のいずれかです。
ポリシー名 :	ポリシーの名前
レポートの ACK が必要 :	この製品インスタンスのレポートに CSSM 確認応答 (ACK) が必要かどうかを指定する <i>yes</i> または <i>no</i> の値。デフォルトポリシーは常に「 <i>yes</i> 」に設定されます。
Unenforced/Non-Export Perpetual 属性	永久ライセンスのポリシー値を表示します。 <ul style="list-style-type: none">• 最初のレポート要件 (日) : 最初のレポートを送信するまでに使用可能な最大時間。その後にポリシー名が続きます。• レポート頻度 (日) : 次のレポートを送信するまでに使用可能な最大時間。その後にポリシー名が続きます。• 変化レポート (日) : ライセンスの使用状況が変化した場合にレポートを送信できる最大時間。その後にポリシー名が続きます
Unenforced/Non-Export Subscription 属性	サブスクリプション ライセンスのポリシー値を表示します。 <ul style="list-style-type: none">• 最初のレポート要件 (日) : 最初のレポートを送信するまでに使用可能な最大時間。その後にポリシー名が続きます。• レポート頻度 (日) : 次のレポートを送信するまでに使用可能な最大時間。その後にポリシー名が続きます。• 変化レポート (日) : ライセンスの使用状況が変化した場合にレポートを送信できる最大時間。その後にポリシー名が続きます
Enforced (Perpetual/Subscription) ライセンス属性	

フィールド		説明
		<p>適用されたライセンスのポリシー値を表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 最初のレポート要件（日）：最初のレポートを送信するまでに使用可能な最大時間。その後にポリシー名が続きます。 レポート頻度（日）：次のレポートを送信するまでに使用可能な最大時間。その後にポリシー名が続きます。 変化レポート（日）：ライセンスの使用状況が変化した場合にレポートを送信できる最大時間。その後にポリシー名が続きます。
	Export (PerpetualSubscription) ライセンス属性	<p>輸出規制ライセンスのポリシー値を表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 最初のレポート要件（日）：最初のレポートを送信するまでに使用可能な最大時間。その後にポリシー名が続きます。 レポート頻度（日）：次のレポートを送信するまでに使用可能な最大時間。その後にポリシー名が続きます。 変化レポート（日）：ライセンスの使用状況が変化した場合にレポートを送信できる最大時間。その後にポリシー名が続きます。
その他	カスタム ID のヘッダー。	
	カスタム ID :	ID

フィールド	説明
使用状況レポート:	使用状況レポート (RUM レポート) 情報のヘッダー。
最後に受信した ACK:	最後に受信した ACK の日時 (ローカルタイムゾーン)。
次の ACK 期限:	次の ACK の日時。ACK が不要であることがポリシーで示されている場合、このフィールドには <code>none</code> と表示されます。 (注) ACKが必要で、この期限までに受信されない場合、 <code>syslog</code> が表示されます。
レポート間隔:	日単位のレポート間隔 ここに表示される値は、 license smart usage intervalinterval_in_days とポリシー値の設定によって異なります。詳細については、 表 7: ポリシーを使用したスマートライセンスの show license status のフィールドの説明 (121 ページ) で対応する構文の説明を参照してください。
次の ACK プッシュチェック:	製品インスタンスが ACK の次のポーリング要求を送信する日時。日時はローカルタイムゾーンで表示されます。 これは、CSSM または CSLU への製品インスタンスによって開始された通信にのみ適用されます。レポート間隔がゼロの場合、または ACK ポーリングが保留されていない場合、このフィールドには <code>none</code> と表示されます。
次のレポートプッシュ:	製品インスタンスが次の RUM レポートを送信する日時。日時はローカルタイムゾーンで表示されます。レポート間隔がゼロの場合、または保留中の RUM レポートがない場合、このフィールドには <code>none</code> と表示されます。
最後のレポートプッシュ:	製品インスタンスが最後の RUM レポートを送信した日時。日時はローカルタイムゾーンで表示されます。
最後のレポートファイル書き込み:	製品インスタンスが最後にオフライン RUM レポートを保存した日時。日時はローカルタイムゾーンで表示されます。
最後のレポートプル:	データモデルを使用して使用状況レポート情報が取得された日時。日時はローカルタイムゾーンで表示されます。

フィールド	説明
インストール済み の信頼コード:	信頼コード関連情報のヘッダー。 信頼コードがインストールされている場合は、日時が表示されます。日時はローカルタイムゾーンで表示されます。 信頼コードがインストールされていない場合、このフィールドには none と表示されます。
Active:	アクティブ製品インスタンス。 高可用性セットアップでは、セットアップ内のすべての製品インスタンスの UDI と、対応する信頼コードのインストール日時が表示されます。
Standby:	スタンバイ製品インスタンス。
Member:	メンバー製品インスタンス。

ポリシーを使用したスマートライセンスの show license status

次に、**show license status** コマンドの出力例を示します。（複数のソースからマージされた）シスコのデフォルトポリシーが、Cisco Catalyst 9500 スイッチに適用されます。同様の出力が、サポートされているすべての Cisco Catalyst アクセス、コア、およびアグリゲーションスイッチで表示されます。

```
Device# show license status
Utility:
  Status: DISABLED
License Reservation is ENABLED
Data Privacy:
  Sending Hostname: yes
  Callhome hostname privacy: DISABLED
  Smart Licensing hostname privacy: DISABLED
  Version privacy: DISABLED
Transport:
  Type: Transport Off
Policy:
  Policy in use: Merged from multiple sources.
  Reporting ACK required: yes (CISCO default)
  Unenforced/Non-Export Perpetual Attributes:
    First report requirement (days): 365 (CISCO default)
    Reporting frequency (days): 0 (CISCO default)
    Report on change (days): 90 (CISCO default)
  Unenforced/Non-Export Subscription Attributes:
    First report requirement (days): 90 (CISCO default)
    Reporting frequency (days): 90 (CISCO default)
    Report on change (days): 90 (CISCO default)
  Enforced (Perpetual/Subscription) License Attributes:
    First report requirement (days): 0 (CISCO default)
    Reporting frequency (days): 0 (CISCO default)
    Report on change (days): 0 (CISCO default)
  Export (Perpetual/Subscription) License Attributes:
    First report requirement (days): 0 (CISCO default)
    Reporting frequency (days): 0 (CISCO default)
    Report on change (days): 0 (CISCO default)
```

```
Miscellaneous:
  Custom Id: <empty>
Usage Reporting:
  Last ACK received: <none>
  Next ACK deadline: Nov 29 10:50:05 2020 PDT
  Reporting Interval: 30
  Next ACK push check: <none>
  Next report push: Aug 31 10:52:05 2020 PDT
  Last report push: <none>
  Last report file write: <none>
Trust Code Installed: <none>
```

スマートライセンスの show license status

次に、**show license status** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show license status

Smart Licensing is ENABLED

Utility:
  Status: DISABLED

Data Privacy:
  Sending Hostname: yes
  Callhome hostname privacy: DISABLED
  Smart Licensing hostname privacy: DISABLED
  Version privacy: DISABLED

Transport:
  Type: Callhome

Registration:
  Status: REGISTERED
  Smart Account: Cisco Systems
  Virtual Account: NPR
  Export-Controlled Functionality: Allowed
  Initial Registration: First Attempt Pending
  Last Renewal Attempt: SUCCEEDED on Jul 19 14:49:49 2018 IST
  Next Renewal Attempt: Jan 15 14:49:47 2019 IST
  Registration Expires: Jul 19 14:43:47 2019 IST

License Authorization:
  Status: AUTHORIZED on Jul 28 07:02:56 2018 IST
  Last Communication Attempt: SUCCEEDED on Jul 28 07:02:56 2018 IST
  Next Communication Attempt: Aug 27 07:02:56 2018 IST
  Communication Deadline: Oct 26 06:57:50 2018 IST
```

関連コマンド

コマンド	説明
show license all	権限付与情報を表示します。
show license authorization	許可コード関連情報を表示します。
show license summary	すべてのアクティブなライセンスの要約を表示します。
show license udi	UDI を表示します。
show license usage	ライセンス使用情報を表示します。

コマンド	説明
show tech-support license	デバッグ出力を表示します。

show license summary

使用されているライセンス、カウント、およびステータスに関する情報を含む、ライセンス使用状況の概要を表示するには、特権 EXEC モードで **show license summary** コマンドを使用します。

show license summary

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Fuji 16.9.1	このコマンドが導入されました。
Cisco IOS XE Amsterdam 17.3.2a	<p>コマンド出力が更新され、ポリシーを使用したスマートライセンスの有効なライセンスステータスが反映されました。有効なライセンスステータスは、IN USE、NOT IN USE、NOT AUTHORIZED のみにになりました。</p> <p>コマンド出力が更新され、登録および承認情報が削除されました。</p> <p>コマンド出力にスマートアカウントとバーチャルアカウントの情報が表示されなくなりました。</p>

使用上のガイドライン

ポリシーを使用したスマートライセンス：デバイス上のソフトウェアバージョン（製品インスタンスとも呼ばれる）が Cisco IOS XE Amsterdam 17.3.2a 以降のリリースの場合、コマンド出力にはポリシーを使用したスマートライセンスに関連するフィールドが表示されます。

Cisco Catalyst アクセス、コア、およびアグリゲーションスイッチのライセンスは、いずれも輸出規制または強制されていないため、NOT AUTHORIZED や NOT IN USE になることはありません（これらのライセンスのみ、使用する前に許可が必要です）。

スマートライセンス：デバイス上のソフトウェアバージョンが Cisco IOS XE Amsterdam 17.3.1 以前のリリースの場合、コマンド出力にはスマートライセンスに関連するフィールド（すべてのアクティブなライセンスの概要）が表示されます。

例

ディスプレイに表示されるフィールドについては、[表 8: ポリシーを使用したスマートライセンスの show license summary のフィールドの説明 \(130 ページ\)](#) を参照してください。

ポリシーを使用したスマートライセンスの [show license summary \(Cisco Catalyst 9300 シリーズスイッチ\) \(130 ページ\)](#)

ポリシーを使用したスマートライセンスの `show license summary` (Cisco Catalyst 9500 シリーズスイッチ) (130 ページ)

`show license summary for Smart Licensing` (131 ページ)

表 8: ポリシーを使用したスマートライセンスの `show license summary` のフィールドの説明

フィールド	説明
License	使用中のライセンスの名前
Entitlement Tag	ライセンスの短縮名
Count	ライセンス数
Status	ライセンスのステータスは次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> • In-Use : 有効なライセンスかつ使用中。 • Not In-Use • Not Authorized : ライセンスを使用する前に Smart Licensing Authorization Code のインストールが必要であることを意味します。(Cisco Catalyst アクセス、コア、およびアグリゲーションスイッチには適用されません)

ポリシーを使用したスマートライセンスの `show license summary` (Cisco Catalyst 9300 シリーズスイッチ)

次に、Cisco Catalyst 9300 スイッチでの `show license summary` コマンドの出力例を示します。同様の出力が、サポートされているすべての Cisco Catalyst アクセス、コア、およびアグリゲーションスイッチで表示されます。

```
Device# show license summary
```

```
License Usage:
License           Entitlement Tag           Count Status
-----
network-essentials (C9300-24 Network Essen...) 2 IN USE
dna-essentials    (C9300-24 DNA Essentials) 2 IN USE
network-essentials (C9300-48 Network Essen...) 1 IN USE
dna-essentials    (C9300-48 DNA Essentials) 1 IN USE
```

ポリシーを使用したスマートライセンスの `show license summary` (Cisco Catalyst 9500 シリーズスイッチ)

次に、Cisco Catalyst 9500 スイッチでの `show license summary` コマンドの出力例を示します。同様の出力が、サポートされているすべての Cisco Catalyst アクセス、コア、およびアグリゲーションスイッチで表示されます。

```
Device# show license summary
```

```
License Usage:
License           Entitlement tag           Count Status
```

```
-----
network-advantage (C9500 Network Advantage)      2 IN USE
dna-advantage      (C9500-16X DNA Advantage)      2 IN USE
```

show license summary for Smart Licensing

次に、**show license summary** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show license summary Smart Licensing is ENABLED
```

Registration:

```
Status: REGISTERED
Smart Account: CISCO Systems
Virtual Account: NPR
Export-Controlled Functionality: Allowed
Last Renewal Attempt: None
Next Renewal Attempt: Jan 12 09:44:49 2019 IST
```

License Authorization:

```
Status: AUTHORIZED
Last Communication Attempt: SUCCEEDED
Next Communication Attempt: Aug 30 17:30:02 2018 IST
```

License Usage:

```
License                               Entitlement tag                Count Status
-----
C9500 48Y4C DNA Adva... (C9500-DNA-48Y4C-A)          1 AUTHORIZED
C9500 48Y4C NW Advan... (C9500-48Y4C-A)            1 AUTHORIZED
```

関連コマンド

コマンド	説明
show license all	権限付与情報を表示します。
show license status	ライセンスのコンプライアンスステータスを表示します。
show license udi	UDI を表示します。
show license usage	ライセンス使用情報を表示します。
show tech-support license	デバッグ出力を表示します。

show license tech

テクニカルサポートチームが問題をトラブルシューティングするのに役立つライセンス情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show license tech** コマンドを入力します。このコマンドの出力には、他のいくつかの **show license** コマンドの出力などが含まれます。

```
show license tech { data conversion | eventlog [ days ] | reservation | support }
```

構文の説明

data conversion ライセンスデータ変換情報を表示します。

eventlog [days] ポリシーを使用したスマートライセンスに関連するイベントログを表示します。

days には、イベントログを表示する日数を入力します。0 ~ 2147483647 の範囲の値を指定できます。

このオプションの出力は、**show license eventlog** コマンドと同じです。

reservation ライセンス予約情報を表示します。

support テクニカルサポートチームが問題をデバッグするのに役立つライセンス情報を表示します。

コマンドモード

特権 EXEC (Device#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Fuji 16.9.1	このコマンドが導入されました。
Cisco IOS XE Amsterdam 17.3.2a	コマンド出力が更新され、ポリシーを使用したスマートライセンスに適用可能な新しいフィールドが反映されました。

使用上のガイドライン

ポリシーを使用したスマートライセンス：デバイス上のソフトウェアバージョン（製品インスタンスとも呼ばれる）が Cisco IOS XE Amsterdam 17.3.2a 以降のリリースの場合、コマンド出力にはポリシーを使用したスマートライセンスに関連するフィールドが表示されます。

解決できないエラーメッセージが表示された場合は、コンソールまたはシステムログに表示されるメッセージとともに、シスコのテクニカルサポート担当者に **show license tech support**、**show license history message**、および **show platform software sl-infra all** 特権 EXEC コマンドの出力例を提供してください。

スマートライセンス：デバイス上のソフトウェアバージョンが Cisco IOS XE Amsterdam 17.3.1 以前のリリースの場合、コマンド出力にはスマートライセンスに関連するフィールドが表示されます（スマートライセンスが有効になっているかどうか、関連するすべてのライセンス証明書、コンプライアンスステータスなど）。

ポリシーを使用したスマートライセンスの show license tech support

次に、Cisco Catalyst 9500 スイッチでの **show license tech support** コマンドの出力例を示します。同様の出力が、サポートされているすべての Cisco Catalyst アクセス、コア、およびアグリゲーションスイッチで表示されます。

```
Device# show license tech support
Smart Licensing Tech Support info

Smart Licensing Status
=====

Smart Licensing is ENABLED
License Reservation is ENABLED

Export Authorization Key:
  Features Authorized:
    <none>

Utility:
  Status: DISABLED

Smart Licensing Using Policy:
  Status: ENABLED

Data Privacy:
  Sending Hostname: yes
  Callhome hostname privacy: DISABLED
  Smart Licensing hostname privacy: DISABLED
  Version privacy: DISABLED

Transport:
  Type: Transport Off

Miscellaneous:
  Custom Id: <empty>

Policy:
  Policy in use: Merged from multiple sources.
  Reporting ACK required: yes (CISCO default)
  Unenforced/Non-Export Perpetual Attributes:
    First report requirement (days): 365 (CISCO default)
    Reporting frequency (days): 0 (CISCO default)
    Report on change (days): 90 (CISCO default)
  Unenforced/Non-Export Subscription Attributes:
    First report requirement (days): 90 (CISCO default)
    Reporting frequency (days): 90 (CISCO default)
    Report on change (days): 90 (CISCO default)
  Enforced (Perpetual/Subscription) License Attributes:
    First report requirement (days): 0 (CISCO default)
    Reporting frequency (days): 0 (CISCO default)
    Report on change (days): 0 (CISCO default)
  Export (Perpetual/Subscription) License Attributes:
    First report requirement (days): 0 (CISCO default)
    Reporting frequency (days): 0 (CISCO default)
    Report on change (days): 0 (CISCO default)

Usage Reporting:
  Last ACK received: <none>
  Next ACK deadline: Jan 27 09:49:33 2021 PST
  Reporting push interval: 30 days State(2) InPolicy(90)
  Next ACK push check: <none>
```

```
Next report push: Oct 29 09:51:33 2020 PST
Last report push: <none>
Last report file write: <none>
```

```
License Usage
=====
```

```
Handle: 1
  License: network-advantage
  Entitlement Tag:
  regid.2017-03.com.cisco.advantagek9-Nyquist-C9500,1.0_f1563759-2e03-4a4c-bec5-5feec525a12c
```

```
  Description: network-advantage
  Count: 2
  Version: 1.0
  Status: IN USE(15)
  Status time: Oct 29 09:48:54 2020 PST
  Request Time: Oct 29 09:49:18 2020 PST
  Export status: NOT RESTRICTED
  Feature Name: network-advantage
  Feature Description: network-advantage
  Measurements:
    ENTITLEMENT:
      Interval: 00:15:00
      Current Value: 2
  Soft Enforced: True
```

```
Handle: 2
  License: dna-advantage
  Entitlement Tag:
  regid.2017-07.com.cisco.C9500-DNA-16X-A,1.0_ef3574d1-156b-486a-864f-9f779ff3ee49
  Description: C9500-16X DNA Advantage
  Count: 2
  Version: 1.0
  Status: IN USE(15)
  Status time: Oct 29 09:48:54 2020 PST
  Request Time: Oct 29 09:49:18 2020 PST
  Export status: NOT RESTRICTED
  Feature Name: dna-advantage
  Feature Description: C9500-16X DNA Advantage
  Measurements:
    ENTITLEMENT:
      Interval: 00:15:00
      Current Value: 2
  Soft Enforced: True
```

```
Handle: 7
  License: air-network-advantage
  Entitlement Tag:
  regid.2018-06.com.cisco.DNA_NWStack,1.0_e7244e71-3ad5-4608-8bf0-d12f67c80896
  Description: air-network-advantage
  Count: 0
  Version: 1.0
  Status: IN USE(15)
  Status time: Oct 29 10:49:09 2020 PST
  Request Time: None
  Export status: NOT RESTRICTED
  Feature Name: air-network-advantage
  Feature Description: air-network-advantage
  Measurements:
    ENTITLEMENT:
      Interval: 00:15:00
      Current Value: 0
  Soft Enforced: True
```

```
Handle: 8
  License: air-dna-advantage
  Entitlement Tag:
  regid.2017-08.com.cisco.AIR-DNA-A,1.0_b6308627-3ab0-4a11-a3d9-586911a0d790
  Description: air-dna-advantage
  Count: 0
  Version: 1.0
  Status: IN USE(15)
  Status time: Oct 29 10:49:09 2020 PST
  Request Time: None
  Export status: NOT RESTRICTED
  Feature Name: air-dna-advantage
  Feature Description: air-dna-advantage
  Measurements:
    ENTITLEMENT:
      Interval: 00:15:00
      Current Value: 0
    Soft Enforced: True

Product Information
=====
UDI: PID:C9500-16X,SN:FCW2233A5ZV

HA UDI List:
  Active:PID:C9500-16X,SN:FCW2233A5ZV
  Standby:PID:C9500-16X,SN:FCW2233A5ZY

Agent Version
=====
Smart Agent for Licensing: 5.0.5_rel/42

Upcoming Scheduled Jobs
=====
Current time: Oct 29 11:04:46 2020 PST
Daily: Oct 30 09:48:56 2020 PST (22 hours, 44 minutes, 10 seconds remaining)
Init Flag Check: Expired Not Rescheduled
Reservation configuration mismatch between nodes in HA mode: Nov 05 09:52:25 2020 PST
(6 days, 22 hours, 47 minutes, 39 seconds remaining)
Start Utility Measurements: Oct 29 11:19:09 2020 PST (14 minutes, 23 seconds remaining)
Send Utility RUM reports: Oct 30 09:53:10 2020 PST (22 hours, 48 minutes, 24 seconds
remaining)
Save unreported RUM Reports: Oct 29 12:04:19 2020 PST (59 minutes, 33 seconds remaining)
Process Utility RUM reports: Oct 30 09:49:33 2020 PST (22 hours, 44 minutes, 47 seconds
remaining)
Data Synchronization: Expired Not Rescheduled
External Event: Nov 28 09:49:33 2020 PST (29 days, 22 hours, 44 minutes, 47 seconds
remaining)
Operational Model: Expired Not Rescheduled

Communication Statistics:
=====
Communication Level Allowed: INDIRECT
Overall State: <empty>
Trust Establishment:
  Attempts: Total=0, Success=0, Fail=0  Ongoing Failure: Overall=0 Communication=0
  Last Response: <none>
  Failure Reason: <none>
  Last Success Time: <none>
  Last Failure Time: <none>
Trust Acknowledgement:
  Attempts: Total=0, Success=0, Fail=0  Ongoing Failure: Overall=0 Communication=0
  Last Response: <none>
  Failure Reason: <none>
  Last Success Time: <none>
```

```

    Last Failure Time: <none>
Usage Reporting:
    Attempts: Total=0, Success=0, Fail=0 Ongoing Failure: Overall=0 Communication=0
    Last Response: <none>
        Failure Reason: <none>
    Last Success Time: <none>
    Last Failure Time: <none>
Result Polling:
    Attempts: Total=0, Success=0, Fail=0 Ongoing Failure: Overall=0 Communication=0
    Last Response: <none>
        Failure Reason: <none>
    Last Success Time: <none>
    Last Failure Time: <none>
Authorization Request:
    Attempts: Total=0, Success=0, Fail=0 Ongoing Failure: Overall=0 Communication=0
    Last Response: <none>
        Failure Reason: <none>
    Last Success Time: <none>
    Last Failure Time: <none>
Authorization Confirmation:
    Attempts: Total=0, Success=0, Fail=0 Ongoing Failure: Overall=0 Communication=0
    Last Response: <none>
        Failure Reason: <none>
    Last Success Time: <none>
    Last Failure Time: <none>
Authorization Return:
    Attempts: Total=0, Success=0, Fail=0 Ongoing Failure: Overall=0 Communication=0
    Last Response: <none>
        Failure Reason: <none>
    Last Success Time: <none>
    Last Failure Time: <none>
Trust Sync:
    Attempts: Total=0, Success=0, Fail=0 Ongoing Failure: Overall=0 Communication=0
    Last Response: <none>
        Failure Reason: <none>
    Last Success Time: <none>
    Last Failure Time: <none>
Hello Message:
    Attempts: Total=0, Success=0, Fail=0 Ongoing Failure: Overall=0 Communication=0
    Last Response: <none>
        Failure Reason: <none>
    Last Success Time: <none>
    Last Failure Time: <none>

License Certificates
=====
Production Cert: True
Not registered. No certificates installed

HA Info
=====
RP Role: Active
Chassis Role: Active
Behavior Role: Active
RMF: True
CF: True
CF State: Stateless
Message Flow Allowed: False

Reservation Info
=====
License reservation: ENABLED

Overall status:

```



```

Active: PID:C9500-16X,SN:FCW2233A5ZV
  Reservation status: SPECIFIC INSTALLED on Oct 29 09:44:06 2020 PST
  Request code: <none>
  Last return code: <none>
  Last Confirmation code: 184ba6d6
  Reservation authorization code:
Network Advantage</displayName><tagDescription>C9500 Network
Network Advantage</displayName><tagDescription>C9500 Network

Standby: PID:C9500-16X,SN:FCW2233A5ZY
  Reservation status: SPECIFIC INSTALLED on Oct 29 09:44:06 2020 PST
  Request code: <none>
  Last return code: <none>
  Last Confirmation code: 961d598f
  Reservation authorization code:
Network Advantage</displayName><tagDescription>C9500 Network
Network Advantage</displayName><tagDescription>C9500 Network

Specified license reservations:
  C9500 Network Advantage (C9500 Network Advantage):
    Description: C9500 Network Advantage
    Total reserved count: 2
    Enforcement type: NOT ENFORCED
    Term information:
      Active: PID:C9500-16X,SN:FCW2233A5ZV
        Authorization type: SPECIFIC INSTALLED on Oct 29 09:44:06 2020 PST
        License type: PERPETUAL
        Start Date: <none>
        End Date: <none>
        Term Count: 1
        Subscription ID: <none>
      Standby: PID:C9500-16X,SN:FCW2233A5ZY
        Authorization type: SPECIFIC INSTALLED on Oct 29 09:44:06 2020 PST
        License type: PERPETUAL
        Start Date: <none>
        End Date: <none>
        Term Count: 1
        Subscription ID: <none>
  C9500-DNA-16X-A (C9500-16X DNA Advantage):
    Description: C9500-DNA-16X-A
    Total reserved count: 2
    Enforcement type: NOT ENFORCED
    Term information:
      Active: PID:C9500-16X,SN:FCW2233A5ZV
        Authorization type: SPECIFIC INSTALLED on Oct 29 09:44:06 2020 PST
        License type: PERPETUAL
        Start Date: <none>
        End Date: <none>
        Term Count: 1
        Subscription ID: <none>
      Standby: PID:C9500-16X,SN:FCW2233A5ZY
        Authorization type: SPECIFIC INSTALLED on Oct 29 09:44:06 2020 PST
        License type: PERPETUAL
        Start Date: <none>
        End Date: <none>
        Term Count: 1
        Subscription ID: <none>

Purchased Licenses:
  No Purchase Information Available

```

```
Other Info
=====
Software ID: regid.2017-05.com.cisco.C9500,v1_7435cf27-0075-4bfb-b67c-b42f3054e82a
Agent State: authorized
TS enable: True
Transport: Transport Off
Locale: en_US.UTF-8
Debug flags: 0x7
Privacy Send Hostname: True
Privacy Send IP: True
Build type:: Production
sizeof(char) : 1
sizeof(int) : 4
sizeof(long) : 4
sizeof(char *): 8
sizeof(time_t): 4
sizeof(size_t): 8
Endian: Big
Write Erase Occurred: False
XOS version: 0.12.0.0
Config Persist Received: False
Message Version: 1.3
connect_info.name: <empty>
connect_info.version: <empty>
connect_info.additional: <empty>
connect_info.prod: False
connect_info.capabilities: <empty>
agent.capabilities: UTILITY, DLC, AppHA, MULTITIER, EXPORT_2, OK_TRY_AGAIN, POLICY_USAGE
Check Point Interface: True
Config Management Interface: False
License Map Interface: True
HA Interface: True
Trusted Store Interface: True
Platform Data Interface: True
Crypto Version 2 Interface: False
SAPluginMgmtInterfaceMutex: True
SAPluginMgmtIPDomainName: True
SmartAgentClientWaitForServer: 2000
SmartAgentCmReTrySend: True
SmartAgentClientIsUnified: True
SmartAgentCmClient: True
SmartAgentClientName: UnifiedClient
builtInEncryption: True
enableOnInit: True
routingReadyByEvent: True
systemInitByEvent: True
SmartTransportServerIdCheck: False
SmartTransportProxySupport: False
SmartAgentMaxRumMemory: 50
SmartAgentConcurrentThreadMax: 10
SmartAgentPolicyControllerModel: False
SmartAgentPolicyModel: True
SmartAgentFederalLicense: True
SmartAgentMultiTenant: False
attr365DayEvalSyslog: True
checkPointWriteOnly: False
SmartAgentDelayCertValidation: False
enableByDefault: False
conversionAutomatic: False
conversionAllowed: False
storageEncryptDisable: False
storageLoadUnencryptedDisable: False
TSPluginDisable: False
```

```
bypassUDICheck: False
loggingAddTStamp: False
loggingAddTid: True
HighAvailabilityOverrideEvent: UnknownPlatformEvent
platformIndependentOverrideEvent: UnknownPlatformEvent
platformOverrideEvent: SmartAgentSystemDataListChanged
WaitForHaRole: False
standbyIsHot: True
chkPtType: 2
delayCommInit: False
roleByEvent: True
maxTraceLength: 150
traceAlwaysOn: True
debugFlags: 0
Event log max size: 5120 KB
Event log current size: 109 KB
P:C9500-16X,S:FCW2233A5ZV: No Trust Data
P:C9500-16X,S:FCW2233A5ZY: No Trust Data
Overall Trust: No ID
```

Platform Provided Mapping Table

```
=====
C9500-16X: Total licenses found: 143
Enforced Licenses:
P:C9500-16X,S:FCW2233A5ZV:
  No PD enforced licenses
P:C9500-16X,S:FCW2233A5ZY:
  No PD enforced licenses
```

show license udi

製品インスタンスの Unique Device Identifier (UDI) 情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show license udi** コマンドを入力します。高可用性セットアップでは、接続されたすべての製品インスタンスの UDI 情報が出力に表示されます。

show license udi

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Fuji 16.9.1	このコマンドが導入されました。
Cisco IOS XE Amsterdam 17.3.2a	このコマンドは、ポリシーを使用したスマートライセンスの環境で引き続き使用できます。

使用上のガイドライン

ポリシーを使用したスマートライセンス：デバイス上のソフトウェアバージョン（製品インスタンスとも呼ばれる）が Cisco IOS XE Amsterdam 17.3.2a 以降のリリースの場合、コマンド出力にはポリシーを使用したスマートライセンスに関連するフィールドが表示されます。

スマートライセンス：デバイス上のソフトウェアバージョンが Cisco IOS XE Amsterdam 17.3.1 以前のリリースの場合、コマンド出力にはスマートライセンスに関連するフィールドが表示されます。

例

[ポリシーを使用したスマートライセンスの show licensing udi \(140 ページ\)](#)

[スマートライセンスの show license udi \(140 ページ\)](#)

ポリシーを使用したスマートライセンスの show licensing udi

次に、Catalyst 9500 スイッチでのハイアベイラビリティ設定の **show license udi** コマンドの出力例を示します。同様の出力が、サポートされているすべての Cisco Catalyst アクセス、コア、およびアグリゲーションスイッチで表示されます。

```
Device# show license udi

UDI: PID:C9500-16X,SN:FCW2233A5ZV
HA UDI List:
Active:PID:C9500-16X,SN:FCW2233A5ZV
Standby:PID:C9500-16X,SN:FCW2233A5ZY
```

スマートライセンスの show license udi

次に、**show license udi** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show license udi
UDI: PID:C9500-48Y4C,SN:CAT2150L5HK
```

show license usage

ステータス、使用中のライセンス数、適用タイプなどのライセンス使用状況の情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show license usage** コマンドを入力します。

show license usage

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト 特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Fuji 16.9.1	このコマンドが導入されました。
Cisco IOS XE Amsterdam 17.3.2a	コマンド出力が更新され、ポリシーを使用したスマートライセンスに適用可能な新しいフィールドが反映されました。これには、 <code>Status</code> 、 <code>Enforcement type</code> フィールドが含まれます。 コマンド出力が更新され、予約関連情報、承認ステータス情報、および輸出ステータス情報が削除されました。

使用上のガイドライン

ポリシーを使用したスマートライセンス：デバイス上のソフトウェアバージョン（製品インスタンスとも呼ばれる）が Cisco IOS XE Amsterdam 17.3.2a 以降のリリースの場合、コマンド出力にはポリシーを使用したスマートライセンスに関連するフィールドが表示されます。

スマートライセンス：デバイス上のソフトウェアバージョンが Cisco IOS XE Amsterdam 17.3.1 以前のリリースの場合、コマンド出力にはスマートライセンスに関連するフィールドが表示されます。

例

ディスプレイに表示されるフィールドについては、[表 9: ポリシーを使用したスマートライセンス用 show license usage のフィールドの説明 \(142 ページ\)](#) を参照してください。

[ポリシーを使用したスマートライセンスの show license usage \(144 ページ\)](#)

[スマートライセンスの show license usage \(144 ページ\)](#)

表 9: ポリシーを使用したスマートライセンス用 *show license usage* のフィールドの説明

フィールド	説明
License Authorization: Status:	全体的な承認ステータスを表示します。

フィールド	説明
():	CSSM におけるようなライセンスの名前。 このライセンスが承認コードを必要とする場合、ライセンスの名前はコードから取得されます。
説明	CSSM におけるようなライセンスの説明。
Count	ライセンス数。ライセンスが使用中でない場合、カウントはゼロとして反映されます。
Version	バージョン。
Status	ライセンスのステータスは次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> • In-Use : 有効なライセンスかつ使用中。 • Not In-Use • Not Authorized : ライセンスを使用する前に SLAC のインストールが必要であることを意味します。詳細については、次を参照してください。
Export Status:	このライセンスが輸出規制されているかどうかを示します。それに応じて次のステータスのいずれかが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> • RESTRICTED - ALLOWED • RESTRICTED - NOT ALLOWED • NOT RESTRICTED
Feature name	このライセンスを使用する機能の名前。
Feature Description:	このライセンスを使用する機能の説明。
ユーティリティのサブスクリプション ID :	ID 対応する設定オプションがサポートされていないため、該当しません。

フィールド	説明
Enforcement type	<p>ライセンスの適用タイプのステータス。これは、次のいずれかです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ENFORCED • NOT ENFORCED • EXPORT RESTRICTED - ALLOWED • EXPORT RESTRICTED - NOT ALLOWED <p>適用タイプの詳細については、次を参照してください。 <link tbd></p>

ポリシーを使用したスマートライセンスの show license usage

次に、Cisco Catalyst 9500 スイッチでの **show license usage** コマンドの出力例を示します。ここでは、不適用ライセンスを使用中です。同様の出力が、サポートされているすべての Cisco Catalyst アクセス、コア、およびアグリゲーションスイッチで表示されます。

```
Device# show license usage
License Authorization:
  Status: Not Applicable
network-advantage (C9500 Network Advantage):
  Description: network-advantage
  Count: 2
  Version: 1.0
  Status: IN USE
  Export status: NOT RESTRICTED
  Feature Name: network-advantage
  Feature Description: network-advantage
  Enforcement type: NOT ENFORCED
  License type: Perpetual
dna-advantage (C9500-16X DNA Advantage):
  Description: C9500-16X DNA Advantage
  Count: 2
  Version: 1.0
  Status: IN USE
  Export status: NOT RESTRICTED
  Feature Name: dna-advantage
  Feature Description: C9500-16X DNA Advantage
  Enforcement type: NOT ENFORCED
  License type: Subscription
```

スマートライセンスの show license usage

次に、**show license usage** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show license usage
License Authorization:
  Status: AUTHORIZED on Jul 31 17:30:02 2018 IST

C9500 48Y4C DNA Advantage (C9500-DNA-48Y4C-A):
  Description: C9500 48Y4C DNA Advantage
  Count: 1
  Version: 1.0
  Status: AUTHORIZED
```



```
Export status: NOT RESTRICTED

C9500 48Y4C NW Advantage (C9500-48Y4C-A):
Description: C9500 48Y4C NW Advantage
Count: 1
Version: 1.0
Status: AUTHORIZED
Export status: NOT RESTRICTED
```

関連コマンド

コマンド	説明
show license all	権限付与情報を表示します。
show license status	ライセンスのコンプライアンスステータスを表示します。
show license summary	すべてのアクティブなライセンスの要約を表示します。
show license udi	UDI を表示します。
show tech-support license	デバッグ出力を表示します。

show location

エンドポイントのロケーション情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show location** コマンドを使用します。

show location

```
[{admin-tag | civic-location{identifier identifier-string | interface type number | static} | custom-location{identifier identifier-string | interface type number | static} | elin-location{identifier identifier-string | interface type number | static} | geo-location{identifier identifier-string | interface type number | static} | host}]
```

構文の説明		
	admin-tag	管理タグまたはサイト情報を表示します。
	civic-location	都市ロケーション情報を指定します。
	identifier <i>identifier-string</i>	シビックロケーション、カスタムロケーション、または地理空間的なロケーションの情報識別子。
	interface <i>type number</i>	インターフェイスのタイプと番号 デバイスに対する番号付け構文については、疑問符 (?) のオンラインヘルプ機能を使用してください。
	static	設定されたシビック、カスタム、または地理空間的ロケーション情報を表示します。
	custom-location	カスタムロケーション情報を指定します。
	elin-location	緊急ロケーション情報 (ELIN) を指定します。
	geo-location	地理空間的なロケーション情報を指定します。
	host	シビック、カスタム、または地理空間的なホストロケーション情報を指定します。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード 特権 EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

次の **show location civic-location** コマンドの出力例は、指定された識別子 (*identifier* 1) のシビックロケーション情報を表示します。

```
Device# show location civic-location identifier 1
Civic location information
-----
Identifier           : 1
County              : Santa Clara
Street number       : 3550
Building            : 19
Room                : C6
Primary road name   : Example
City                : San Jose
State               : CA
Country             : US
```

関連コマンド

コマンド	説明
location	エンドポイントにロケーション情報を設定します。

show logging onboard switch uptime

システム内のすべてのモジュールまたはスイッチのすべてのリセット理由の履歴を表示するには、**show logging onboard switch uptime** コマンドを使用します。

show logging onboard switch { *switch-number* | **active** | **standby** } **uptime** [[[**continuous** | **detail**] [**start** *hour day month* [*year*] [**end** *hour day month year*]]] | **summary**]

構文の説明	switch <i>switch-number</i>	スイッチを指定します。スイッチ番号を入力します。
	active	アクティブ インスタンスを指定します。
	standby	スタンバイ インスタンスを指定します。
	continuous	(任意) 連続データを表示します。
	detail	(任意) 詳細データを表示します。
	start <i>hour day month year</i>	(任意) データを表示する開始時刻を指定します。
	end <i>hour day month year</i>	(任意) データを表示する終了時刻を指定します。
	summary	(任意) 要約データを表示します。
コマンドモード	特権 EXEC (#)	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが以下に実装されました。 Cisco Catalyst 9500 シリーズ スイッチ
	Cisco IOS XE Gibraltar 16.10.1	このコマンドの出力が更新され、スタック内のメンバのリロード理由が表示されるようになりました。

次に例を示します。

次に、**show logging onboard switch active uptime continuous** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show logging onboard switch active uptime continuous
-----
UPTIME CONTINUOUS INFORMATION
-----
Time Stamp           | Reset                               | Uptime
MM/DD/YYYY HH:MM:SS | Reason                              | years weeks days hours minutes
-----
```

```

06/17/2018 19:42:56 Reload 0 0 0 0 5
06/17/2018 19:56:31 Reload 0 0 0 0 5
06/17/2018 20:10:46 Reload 0 0 0 0 5
06/17/2018 20:23:48 Reload 0 0 0 0 5
06/17/2018 20:37:20 Reload Command 0 0 0 0 5
06/18/2018 17:09:23 Reload Command 0 0 0 20 5
06/18/2018 17:18:39 redundancy force-switchover 0 0 0 0 5
06/18/2018 18:33:33 Reload 0 0 0 1 5
06/18/2018 19:03:05 Reload 0 0 0 0 5
06/18/2018 19:40:30 Reload 0 0 0 0 5
06/18/2018 20:37:47 Reload 0 0 0 0 5
06/18/2018 20:51:13 Reload 0 0 0 0 5
06/18/2018 21:04:08 Reload 0 0 0 0 5
06/18/2018 21:18:23 Reload 0 0 0 0 5
06/18/2018 21:31:25 Reload 0 0 0 0 5
06/18/2018 21:45:15 Reload 0 0 0 0 5
06/18/2018 21:59:02 Reload 0 0 0 0 5
06/18/2018 22:11:41 Reload 0 0 0 0 5
06/18/2018 22:24:27 Reload 0 0 0 0 5
06/18/2018 22:39:14 Reload Command 0 0 0 0 4
06/19/2018 00:01:59 Reload Command 0 0 0 1 5
06/19/2018 00:13:21 redundancy force-switchover 0 0 0 0 5
06/19/2018 01:05:42 redundancy force-switchover 0 0 0 0 5
06/20/2018 02:37:16 redundancy force-switchover 0 0 1 1 5
06/20/2018 02:50:03 redundancy force-switchover 0 0 0 0 5
06/20/2018 03:02:13 redundancy force-switchover 0 0 0 0 5
06/20/2018 03:14:26 redundancy force-switchover 0 0 0 0 5
06/20/2018 03:26:44 redundancy force-switchover 0 0 0 0 5
06/20/2018 03:38:58 redundancy force-switchover 0 0 0 0 5
06/20/2018 03:52:43 redundancy force-switchover 0 0 0 0 5
06/20/2018 04:05:16 redundancy force-switchover 0 0 0 0 5
.
.
.

```

次に、**show logging onboard switch active uptime detail** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show logging onboard switch active uptime detail
```

```
-----
UPTIME SUMMARY INFORMATION
-----
```

```

First customer power on : 06/10/2017 09:28:22
Total uptime           : 0 years 50 weeks 4 days 13 hours 38 minutes
Total downtime        : 0 years 15 weeks 4 days 11 hours 52 minutes
Number of resets       : 75
Number of slot changes : 9
Current reset reason   : PowerOn
Current reset timestamp : 09/17/2018 10:59:57
Current slot           : 1
Chassis type           : 0
Current uptime         : 0 years 0 weeks 0 days 0 hours 0 minutes
-----

```

```
-----
UPTIME CONTINUOUS INFORMATION
-----
```

```

Time Stamp           | Reset           | Uptime
MM/DD/YYYY HH:MM:SS | Reason          | years weeks days hours minutes
-----
06/10/2017 09:28:22 | Reload         | 0 0 0 0 0
<snip>
09/17/2018 09:07:44 | PowerOn       | 0 0 3 15 5
09/17/2018 10:16:26 | Reload Command | 0 0 0 1 5

```

show logging onboard switch uptime

```
09/17/2018 10:59:57 PowerOn 0 0 0 0 5
```

次に、**show logging onboard switch standby uptime detail** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show logging onboard switch standby uptime detail
```

```
-----
UPTIME SUMMARY INFORMATION
-----
```

```
First customer power on : 06/10/2017 11:51:26
Total uptime           : 0 years 46 weeks 0 days 11 hours 44 minutes
Total downtime        : 0 years 20 weeks 1 days 10 hours 45 minutes
Number of resets      : 79
Number of slot changes : 13
Current reset reason   : PowerOn
Current reset timestamp : 09/17/2018 10:59:57
Current slot          : 2
Chassis type          : 0
Current uptime        : 0 years 0 weeks 0 days 0 hours 5 minutes
-----
```

```
-----
UPTIME CONTINUOUS INFORMATION
-----
```

Time Stamp MM/DD/YYYY HH:MM:SS	Reset Reason	Uptime years weeks days hours minutes
06/10/2017 11:51:26	Reload	0 0 0 0 0
<snip>		
08/10/2018 09:13:58	LocalSoft	0 0 2 5 4
08/28/2018 14:21:42	Reload Slot Command	0 0 0 3 5
08/28/2018 14:34:29	System requested reload	0 0 0 0 0
09/11/2018 09:08:15	Reload	0 0 1 8 5
09/11/2018 19:15:06	redundancy force-switchover	0 0 0 9 4
09/13/2018 16:50:18	Reload Command	0 0 1 21 6
09/17/2018 10:55:09	PowerOn	0 0 0 0 5

次に、**show logging onboard switch active uptime summary** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show logging onboard switch active uptime summary
```

```
-----
UPTIME SUMMARY INFORMATION
-----
```

```
First customer power on : 04/26/2018 21:45:39
Total uptime           : 0 years 20 weeks 2 days 12 hours 22 minutes
Total downtime        : 0 years 2 weeks 2 days 8 hours 40 minutes
Number of resets      : 1900
Number of slot changes : 18
Current reset reason   : Reload Command
Current reset timestamp : 09/26/2018 20:43:15
Current slot          : 1
Chassis type          : 91
Current uptime        : 0 years 0 weeks 5 days 22 hours 5 minutes
-----
```

show mac address-table

MAC アドレステーブルを表示するには、**show mac address-table** コマンドを特権 EXEC モードで使用します。

```
show mac address-table [{ address mac-addr [ interface type/number | vlan vlan-id ] | aging-time
[ routed-mac | vlan vlan-id ] | control-packet-learn | count [ summary | vlan vlan-id ] |
dynamic | secure | static } [ address mac-addr ] [ interface type/number | vlan vlan-id ] | interface
type/number | learning [ vlan vlan-id ] | multicast [ count ] [ igmp-snooping | mld-snooping |
user ] [ vlan vlan-id ] | notification { change [ interface [ type/number ] ] | mac-move |
threshold } | vlan vlan-id }
```

構文の説明

address mac-addr	(任意) 特定の MAC アドレスの MAC アドレス テーブルに関する情報を表示します。
interface type/number	(任意) 特定のインターフェイスのアドレスを表示します。
vlan vlan-id	(任意) 特定の VLAN のアドレスを表示します。
aging-time [routed-mac vlan vlan-id]	(任意) ルーテッド MAC または VLAN のエージングタイムを表示します。
control-packet-learn	(任意) 制御パケットの MAC 学習パラメータを表示します。
count	(任意) MAC アドレス テーブル内の現在のエントリ数を表示します。
dynamic	(任意) ダイナミックアドレスのみを表示します。
secure	(任意) セキュア アドレスだけを表示します。
static	(任意) スタティックアドレスのみを表示します。
learning	(任意) VLAN またはインターフェイスの学習を表示します。
multicast	(任意) マルチキャスト MAC アドレス テーブル エントリ だけに関する情報を表示します。
igmp-snooping	(任意) Internet Group Management Protocol (IGMP) スヌーピングによって学習されたアドレスを表示します。
mld-snooping	(任意) Multicast Listener Discover version 2 (MLDv2) スヌーピングによって学習されたアドレスを表示します。
user	(任意) 手動で入力した (スタティック) アドレスを表示します。
notification change	MAC 通知パラメータおよび履歴テーブルを表示します。

notification mac-move	MAC 移動通知ステータスを表示します。
notification threshold	連想メモリ (CAM) テーブル利用通知ステータスを表示します。

コマンドモード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。
	Cisco IOS XE Gibraltar 16.12.4	シスコのソフトウェアデファインドアクセス (SD-Access) ソリューションに使用される MAC アドレスを表示するように show mac address-table vlan <i>vlan-id</i> コマンドが更新されました。

使用上のガイドライン *mac-addr* の値は 48 ビットの MAC アドレスです。有効なフォーマットは H.H.H です。

interface-number 引数では、モジュールとポート番号を指定します。有効値は、指定されたインターフェイスタイプ、および使用されるシャーシとモジュールによって異なります。たとえば、13 スロットシャーシに 48 ポート 10/100BASE-T イーサネットモジュールが搭載されている場合に、ギガビットイーサネットインターフェイスを指定すると、モジュール番号の有効値は 1 ~ 13、ポート番号の有効値は 1 ~ 48 になります。

次に、**show mac address-table** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show mac address-table

          Mac Address Table
-----
Vlan      Mac Address      Type      Ports
----      -
All       0100.0ccc.cccc   STATIC    CPU
All       0100.0ccc.cccd   STATIC    CPU
All       0180.c200.0000   STATIC    CPU
All       0180.c200.0001   STATIC    CPU
All       0180.c200.0002   STATIC    CPU
All       0180.c200.0003   STATIC    CPU
All       0180.c200.0004   STATIC    CPU
All       0180.c200.0005   STATIC    CPU
All       0180.c200.0006   STATIC    CPU
All       0180.c200.0007   STATIC    CPU
All       0180.c200.0008   STATIC    CPU
All       0180.c200.0009   STATIC    CPU
All       0180.c200.000a   STATIC    CPU
All       0180.c200.000b   STATIC    CPU
All       0180.c200.000c   STATIC    CPU
All       0180.c200.000d   STATIC    CPU
All       0180.c200.000e   STATIC    CPU
All       0180.c200.000f   STATIC    CPU
All       0180.c200.0010   STATIC    CPU
All       0180.c200.0021   STATIC    CPU
All       ffff.ffff.ffff   STATIC    CPU
1         780c.f0e1.1dc3   STATIC    V11
51        0000.1111.2222   STATIC    V151
```



```

51      780c.f0e1.1dc6    STATIC    V151
1021   0000.0c9f.f45c    STATIC    V11021
1021   0002.02cc.0002    STATIC    Gi6/0/2
1021   0002.02cc.0003    STATIC    Gi6/0/3
1021   0002.02cc.0004    STATIC    Gi6/0/4
1021   0002.02cc.0005    STATIC    Gi6/0/5
1021   0002.02cc.0006    STATIC    Gi6/0/6
1021   0002.02cc.0007    STATIC    Gi6/0/7
1021   0002.02cc.0008    STATIC    Gi6/0/8
1021   0002.02cc.0009    STATIC    Gi6/0/9
1021   0002.02cc.000a    STATIC    Gi6/0/10

```

<output truncated>

次に、特定の MAC アドレスの MAC アドレステーブルを表示する例を示します。

```
Device# show mac address-table address fc58.9a02.7382
```

```

                Mac Address Table
-----
Vlan    Mac Address      Type        Ports
----    -
1       fc58.9a02.7382   DYNAMIC     Te1/0/1
Total Mac Addresses for this criterion: 1

```

次に、特定の VLAN に現在設定されているエージングタイムを表示する例を示します。

```
Device# show mac address-table aging-time vlan 1
```

```

Global Aging Time: 300
Vlan    Aging Time
----    -
1       300

```

次に、特定のインターフェイスの MAC アドレステーブルに関する情報を表示する例を示します。

```
Device# show mac address-table interface TenGigabitEthernet1/0/1
```

```

                Mac Address Table
-----
Vlan    Mac Address      Type        Ports
----    -
1       fc58.9a02.7382   DYNAMIC     Te1/0/1
Total Mac Addresses for this criterion: 1

```

次に、MAC 移動通知ステータスを表示する例を示します。

```
Device# show mac address-table notification mac-move
```

```
MAC Move Notification: Enabled
```

次に、CAM テーブル利用通知ステータスを表示する例を示します。

```
Device# show mac address-table notification threshold
```

```

                Status      limit      Interval
-----+-----+-----

```

show mac address-table

```
enabled          50          120
```

次に、特定のインターフェイスの MAC 通知パラメータと履歴テーブルを表示する例を示します。

```
Device# show mac address-table notification change interface tenGigabitEthernet1/0/1
```

```
MAC Notification Feature is Disabled on the switch
Interface                               MAC Added Trap MAC Removed Trap
-----
TenGigabitEthernet1/0/1                Disabled       Disabled
```

次に、特定の VLAN の MAC アドレステーブルに関する情報を表示する例を示します。



(注) シスコの SD-Access ソリューションを使用している場合は、CP_LEARN タイプの MAC アドレスが表示されます。

```
Device# show mac address-table vlan 1021
```

```
Mac Address Table
-----
Vlan    Mac Address      Type      Ports
----    -
1021    0000.0c9f.f45c   STATIC    Vl1021
1021    0002.02cc.0002   STATIC    Gi6/0/2
1021    0002.02cc.0003   STATIC    Gi6/0/3
1021    0002.02cc.0004   STATIC    Gi6/0/4
1021    0002.02cc.0005   STATIC    Gi6/0/5
1021    0002.02cc.0006   STATIC    Gi6/0/6
1021    0002.02cc.0007   STATIC    Gi6/0/7
1021    0002.02cc.0008   STATIC    Gi6/0/8
1021    0002.02cc.0009   STATIC    Gi6/0/9
1021    0002.02cc.000a   STATIC    Gi6/0/10
1021    0002.02cc.000b   STATIC    Gi6/0/11
1021    0002.02cc.000c   STATIC    Gi6/0/12
1021    0002.02cc.000d   STATIC    Gi6/0/13
1021    0002.02cc.000e   STATIC    Gi6/0/14
1021    0002.02cc.000f   STATIC    Gi6/0/15
1021    0002.02cc.0010   STATIC    Gi6/0/16
1021    0002.02cc.0011   STATIC    Gi6/0/17
1021    0002.02cc.0012   STATIC    Gi6/0/18
1021    0002.02cc.0013   STATIC    Gi6/0/19
1021    0002.02cc.0014   STATIC    Gi6/0/20
.
.
.
1021    0002.0100.0001   CP_LEARN  Tu0
1021    0002.0100.0002   CP_LEARN  Tu0
1021    0002.0100.0003   CP_LEARN  Tu0
1021    0002.0100.0004   CP_LEARN  Tu0
1021    0002.0100.0005   CP_LEARN  Tu0
1021    0002.0100.0006   CP_LEARN  Tu0
1021    0002.0100.0007   CP_LEARN  Tu0
1021    0002.0100.0008   CP_LEARN  Tu0
1021    0002.0100.0009   CP_LEARN  Tu0
```

```
1021    0002.0100.000a    CP_LEARN    Tu0
Total Mac Addresses for this criterion: 114
```

次の表で、**show mac address-table** の出力に表示される重要なフィールドを説明します。

表 10: **show mac address-table** フィールドの説明

フィールド	説明
VLAN	VLAN 番号。
Mac Address	エントリの MAC アドレス。
タイプ	アドレスのタイプ。
ポート	ポートタイプ。
Total MAC addresses	MAC アドレステーブルの合計MACアドレス数。

関連コマンド

コマンド	説明
clear mac address-table	MAC アドレス テーブルからダイナミック エントリを削除します。

show mac address-table move update

デバイス上の MAC アドレステーブル移動更新情報を表示するには、EXEC モードで **show mac address-table move update** コマンドを使用します。

show mac address-table move update

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

ユーザ EXEC

特権 EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

例

次に、**show mac address-table move update** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show mac address-table move update

Switch-ID : 010b.4630.1780
Dst mac-address : 0180.c200.0010
Vlans/Macs supported : 1023/8320
Default/Current settings: Rcv Off/On, Xmt Off/On
Max packets per min : Rcv 40, Xmt 60
Rcv packet count : 10
Rcv conforming packet count : 5
Rcv invalid packet count : 0
Rcv packet count this min : 0
Rcv threshold exceed count : 0
Rcv last sequence# this min : 0
Rcv last interface : Po2
Rcv last src-mac-address : 0003.fd6a.8701
Rcv last switch-ID : 0303.fd63.7600
Xmt packet count : 0
Xmt packet count this min : 0
Xmt threshold exceed count : 0
Xmt pak buf unavail cnt : 0
Xmt last interface : None
```

show parser encrypt file status

プライベート設定の暗号化ステータスを表示するには、**show parser encrypt file status** コマンドを使用します。

show parser encrypt file status

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

ユーザ EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Fuji 16.8.1a	このコマンドが導入されました。

例

次のコマンド出力は、機能が使用可能で、ファイルが暗号化されていることを示します。ファイルは「暗号テキスト」形式です。

```
Device> enable
Device# show parser encrypt file status
Feature:           Enabled
File Format:       Cipher text
Encryption Version: ver1
```

関連コマンド

コマンド	説明
service private-config-encryption	プライベート設定ファイルの暗号化を有効にします。

show platform hardware fpga

システムのフィールドプログラマブルゲートアレイ（FPGA）の設定を表示するには、特権 EXEC モードで **show platform hardware fpga** コマンドを使用します。

show platform hardware fpga

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Fuji 16.9.1	このコマンドが導入されました。

例

次に、Cisco Catalyst 9300 シリーズ スイッチでの **show platform hardware fpga** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show platform hardware fpga
```

```

Register Addr          FPGA Reg Description          Value
-----
0x00000000             Board ID                      0x00006053
0x00000004             FPGA Version                   0x00000206
0x00000008             Reset Reg1                     0x00010204
0x0000000c             Reset Reg2                     0x00000000
0x00000028             FRU LED DATA Reg1            0x00001008
0x0000002c             FRU LED DATA Reg2            0x00001008
0x00000030             FRU Control Reg               0x0000c015
0x00000034             Doppler Misc Reg              0x00000311
0x00000010             SBC Enable                    0x0000000f
<snip>

```

次に、Cisco Catalyst 9500 シリーズ スイッチでの **show platform hardware fpga** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show platform hardware fpga
```

```

Register Addr          FPGA Reg Description          Value
-----
0x00000000             FPGA Version                   0x00000110
0x00000040             FRU Power Cntrl Reg           0x00000112
0x00000020             System Reset Cntrl Reg        0x00000000
0x00000024             Beacon LED Cntrl Reg          0x00000000
0x00000044             1588 Sync Pulse Reg          0x00000000
0x00000048             Mainboard Misc Cntrl Reg      0x0000000a
0x00000038             DopplerD Misc Cntrl Reg       0x000000ff
<snip>

```

show platform integrity

起動段階のチェックサムレコードを表示するには、特権 EXEC モードで **show platform integrity** コマンドを使用します。

show platform integrity [**sign** [**nonce** <nonce>]]

構文の説明

sign (任意) 署名を表示します。

nonce (任意) ナンス値を入力します。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース 変更内容
ス

このコマンドが導入されました。

例

次に、起動段階のチェックサムレコードを表示する例を示します。

```
Device# show platform integrity sign
```

```
PCR0: EE47F8644C2887D9BD4DE3E468DD27EB93F4A606006A0B7006E2928C50C7C9AB
PCR8: E7B61EC32AFA43DA1FF4D77F108CA266848B32924834F5E41A9F6893A9CB7A38
Signature version: 1
Signature:
816C5A29741BBAC1961C109FFC36DA5459A44DBF211025F539AFB4868EF91834C05789
5DAFBC7474F301916B7D0D08ABE5E05E66598426A73E921024C21504383228B6787B74
8526A305B17DAD3CF8705BACFD51A2D55A333415CABC73DAFDEEFD8777AA77F482EC4B
731A09826A41FB3EFFC46DC02FBA666534DBEC7DCC0C029298DB8462A70DBA26833C2A
1472D1F08D721BA941CB94A418E43803699174572A5759445B3564D8EAE57D64AE304
EE1D2A9C53E93E05B24A92387E261199CED8D8A0CE7134596FF8D2D6E6DA773757C70C
D3BA91C43A591268C248DF32658999276FB972153ABE823F0ACFE9F3B6F0AD1A00E257
4A4CC41C954015A59FB8FE
Platform: WS-C3650-12X48UZ
```

show platform software audit

SE Linux 監査ログを表示するには、特権 EXEC モードで **show platform software audit** コマンドを使用します。

```
show platform software audit {all | summary | [switch {switch-number | active | standby}]
{0 | F0 | R0 | {FP | RP} {active}}}
```

構文の説明	all	すべてのスロットからの監査ログを表示します。
	summary	すべてのスロットからの監査ログの要約カウントを表示します。
	switch	特定のスイッチのスロットについての監査ログを表示します。
	switch-number	指定したスイッチ番号のスイッチを選択します。
	switch active	スイッチのアクティブインスタンスを選択します。
	standby	スイッチのスタンバイインスタンスを選択します。
	0	SPA インターフェイス プロセッサ スロット 0 の監査ログを表示します。
	F0	Embedded-Service-Processor スロット 0 の監査ログを表示します。
	R0	Route-Processor スロット 0 の監査ログを表示します。
	FP active	アクティブな Embedded-Service-Processor スロットの監査ログを表示します。
	RP active	アクティブな Route-Processor スロットの監査ログを表示します。
コマンドモード	特権 EXEC (#)	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Gibraltar 16.10.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、Cisco IOS XE Gibraltar 16.10.1 でSELinux 許可モード機能の一部として導入されました。**show platform software audit** コマンドは、アクセス違反イベントを含むシステムログを表示します。

Cisco IOS XE Gibraltar 16.10.1 では、許可モードでの操作は、IOS XE プラットフォームの特定のコンポーネント（プロセスまたはアプリケーション）を制限する目的で利用できます。許可モードでは、アクセス違反イベントが検出され、システムログが生成されますが、イベントまたは操作自体はブロックされません。このソリューションは、主にアクセス違反検出モードで動作します。

次に、**show software platform software audit summary** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show platform software audit summary
```

```
=====
AUDIT LOG ON switch 1
-----
AVC Denial count: 58
=====
```

次に、**show software platform software audit all** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show platform software audit all
```

```
=====
AUDIT LOG ON switch 1
-----
===== START =====
type=AVC msg=audit(1539222292.584:100): avc: denied { read } for pid=14017
comm="mcp_trace_filte" name="crashinfo" dev="rootfs" ino=13667
scontext=system_u:system_r:polaris_trace_filter_t:s0
tcontext=system_u:object_r:polaris_disk_crashinfo_t:s0 tclass=lnk_file permissive=1
type=AVC msg=audit(1539222292.584:100): avc: denied { getattr } for pid=14017
comm="mcp_trace_filte" path="/mnt/sd1" dev="sda1" ino=2
scontext=system_u:system_r:polaris_trace_filter_t:s0
tcontext=system_u:object_r:polaris_disk_crashinfo_t:s0 tclass=dir permissive=1
type=AVC msg=audit(1539222292.586:101): avc: denied { getattr } for pid=14028 comm="ls"
path="/tmp/ufs/crashinfo" dev="tmpfs" ino=58407
scontext=system_u:system_r:polaris_trace_filter_t:s0
tcontext=system_u:object_r:polaris_ncd_tmp_t:s0 tclass=dir permissive=1
type=AVC msg=audit(1539222292.586:102): avc: denied { read } for pid=14028 comm="ls"
name="crashinfo" dev="tmpfs" ino=58407
scontext=system_u:system_r:polaris_trace_filter_t:s0
tcontext=system_u:object_r:polaris_ncd_tmp_t:s0 tclass=dir permissive=1
type=AVC msg=audit(1539438600.896:119): avc: denied { execute } for pid=8300 comm="sh"
name="id" dev="loop0" ino=6982
scontext=system_u:system_r:polaris_auto_upgrade_server_rp_t:s0
tcontext=system_u:object_r:bin_t:s0 tclass=file permissive=1
type=AVC msg=audit(1539438600.897:120): avc: denied { execute_no_trans } for pid=8300
comm="sh"
path="/tmp/sw/mount/cat9k-rpbase.2018-10-02_00.13_mhungund.SSA.pkg/nyquist/usr/bin/id"
dev="loop0" ino=6982 scontext=system_u:system_r:polaris_auto_upgrade_server_rp_t:s0
tcontext=system_u:object_r:bin_t:s0 tclass=file permissive=1
type=AVC msg=audit(1539438615.535:121): avc: denied { name_connect } for pid=26421
comm="nginx" dest=8098 scontext=system_u:system_r:polaris_nginx_t:s0
tcontext=system_u:object_r:polaris_caf_api_port_t:s0 tclass=tcp_socket permissive=1
type=AVC msg=audit(1539438624.916:122): avc: denied { execute_no_trans } for pid=8600
comm="auto_upgrade_se" path="/bin/bash" dev="rootfs" ino=7276
scontext=system_u:system_r:polaris_auto_upgrade_server_rp_t:s0
tcontext=system_u:object_r:shell_exec_t:s0 tclass=file permissive=1
type=AVC msg=audit(1539438648.936:123): avc: denied { execute_no_trans } for pid=9307
```

```

comm="auto_upgrade_se" path="/bin/bash" dev="rootfs" ino=7276
scontext=system_u:system_r:polaris_auto_upgrade_server_rp_t:s0
tcontext=system_u:object_r:shell_exec_t:s0 tclass=file permissive=1
type=AVC msg=audit(1539438678.649:124): avc: denied { name_connect } for pid=26421
comm="nginx" dest=8098 scontext=system_u:system_r:polaris_nginx_t:s0
tcontext=system_u:object_r:polaris_caf_api_port_t:s0 tclass=tcp_socket permissive=1
type=AVC msg=audit(1539438696.969:125): avc: denied { execute_no_trans } for pid=10057
comm="auto_upgrade_se" path="/bin/bash" dev="rootfs" ino=7276
scontext=system_u:system_r:polaris_auto_upgrade_server_rp_t:s0
tcontext=system_u:object_r:shell_exec_t:s0 tclass=file permissive=1
type=AVC msg=audit(1539438732.973:126): avc: denied { execute_no_trans } for pid=10858
comm="auto_upgrade_se" path="/bin/bash" dev="rootfs" ino=7276
scontext=system_u:system_r:polaris_auto_upgrade_server_rp_t:s0
tcontext=system_u:object_r:shell_exec_t:s0 tclass=file permissive=1
type=AVC msg=audit(1539438778.008:127): avc: denied { execute_no_trans } for pid=11579
comm="auto_upgrade_se" path="/bin/bash" dev="rootfs" ino=7276
scontext=system_u:system_r:polaris_auto_upgrade_server_rp_t:s0
tcontext=system_u:object_r:shell_exec_t:s0 tclass=file permissive=1
type=AVC msg=audit(1539438800.156:128): avc: denied { name_connect } for pid=26421
comm="nginx" dest=8098 scontext=system_u:system_r:polaris_nginx_t:s0
tcontext=system_u:object_r:polaris_caf_api_port_t:s0 tclass=tcp_socket permissive=1
type=AVC msg=audit(1539438834.099:129): avc: denied { execute_no_trans } for pid=12451
comm="auto_upgrade_se" path="/bin/bash" dev="rootfs" ino=7276
scontext=system_u:system_r:polaris_auto_upgrade_server_rp_t:s0
tcontext=system_u:object_r:shell_exec_t:s0 tclass=file permissive=1
type=AVC msg=audit(1539440246.697:149): avc: denied { name_connect } for pid=26421
comm="nginx" dest=8098 scontext=system_u:system_r:polaris_nginx_t:s0
tcontext=system_u:object_r:polaris_caf_api_port_t:s0 tclass=tcp_socket permissive=1
type=AVC msg=audit(1539440299.119:150): avc: denied { name_connect } for pid=26421
comm="nginx" dest=8098 scontext=system_u:system_r:polaris_nginx_t:s0
tcontext=system_u:object_r:polaris_caf_api_port_t:s0 tclass=tcp_socket permissive=1
===== END =====
=====

```

次に、**show software platform software audit switch** コマンドの出力例を示します。

```

Device# show platform software audit switch active R0

===== START =====
type=AVC msg=audit(1539222292.584:100): avc: denied { read } for pid=14017
comm="mcp_trace_filte" name="crashinfo" dev="rootfs" ino=13667
scontext=system_u:system_r:polaris_trace_filter_t:s0
tcontext=system_u:object_r:polaris_disk_crashinfo_t:s0 tclass=lnk_file permissive=1
type=AVC msg=audit(1539222292.584:100): avc: denied { getattr } for pid=14017
comm="mcp_trace_filte" path="/mnt/sd1" dev="sdal" ino=2
scontext=system_u:system_r:polaris_trace_filter_t:s0
tcontext=system_u:object_r:polaris_disk_crashinfo_t:s0 tclass=dir permissive=1
type=AVC msg=audit(1539222292.586:101): avc: denied { getattr } for pid=14028 comm="ls"
path="/tmp/ufs/crashinfo" dev="tmpfs" ino=58407
scontext=system_u:system_r:polaris_trace_filter_t:s0
tcontext=system_u:object_r:polaris_ncd_tmp_t:s0 tclass=dir permissive=1
type=AVC msg=audit(1539222292.586:102): avc: denied { read } for pid=14028 comm="ls"
name="crashinfo" dev="tmpfs" ino=58407
scontext=system_u:system_r:polaris_trace_filter_t:s0
tcontext=system_u:object_r:polaris_ncd_tmp_t:s0 tclass=dir permissive=1
type=AVC msg=audit(1539438624.916:122): avc: denied { execute_no_trans } for pid=8600
comm="auto_upgrade_se" path="/bin/bash" dev="rootfs" ino=7276
scontext=system_u:system_r:polaris_auto_upgrade_server_rp_t:s0
tcontext=system_u:object_r:shell_exec_t:s0 tclass=file permissive=1
type=AVC msg=audit(1539438648.936:123): avc: denied { execute_no_trans } for pid=9307
comm="auto_upgrade_se" path="/bin/bash" dev="rootfs" ino=7276
scontext=system_u:system_r:polaris_auto_upgrade_server_rp_t:s0
tcontext=system_u:object_r:shell_exec_t:s0 tclass=file permissive=1
type=AVC msg=audit(1539438678.649:124): avc: denied { name_connect } for pid=26421

```

```
comm="nginx" dest=8098 scontext=system_u:system_r:polaris_nginx_t:s0
tcontext=system_u:object_r:polaris_caf_api_port_t:s0 tclass=tcp_socket permissive=1
type=AVC msg=audit(1539438696.969:125): avc: denied { execute_no_trans } for pid=10057
comm="auto_upgrade_se" path="/bin/bash" dev="rootfs" ino=7276
scontext=system_u:system_r:polaris_auto_upgrade_server_rp_t:s0
tcontext=system_u:object_r:shell_exec_t:s0 tclass=file permissive=1
type=AVC msg=audit(1539438732.973:126): avc: denied { execute_no_trans } for pid=10858
comm="auto_upgrade_se" path="/bin/bash" dev="rootfs" ino=7276
scontext=system_u:system_r:polaris_auto_upgrade_server_rp_t:s0
tcontext=system_u:object_r:shell_exec_t:s0 tclass=file permissive=1
type=AVC msg=audit(1539438778.008:127): avc: denied { execute_no_trans } for pid=11579
comm="auto_upgrade_se" path="/bin/bash" dev="rootfs" ino=7276
scontext=system_u:system_r:polaris_auto_upgrade_server_rp_t:s0
tcontext=system_u:object_r:shell_exec_t:s0 tclass=file permissive=1
type=AVC msg=audit(1539438800.156:128): avc: denied { name_connect } for pid=26421
comm="nginx" dest=8098 scontext=system_u:system_r:polaris_nginx_t:s0
tcontext=system_u:object_r:polaris_caf_api_port_t:s0 tclass=tcp_socket permissive=1
type=AVC msg=audit(1539438834.099:129): avc: denied { execute_no_trans } for pid=12451
comm="auto_upgrade_se" path="/bin/bash" dev="rootfs" ino=7276
scontext=system_u:system_r:polaris_auto_upgrade_server_rp_t:s0
tcontext=system_u:object_r:shell_exec_t:s0 tclass=file permissive=1
type=AVC msg=audit(1539438860.907:130): avc: denied { name_connect } for pid=26421
comm="nginx" dest=8098 scontext=system_u:system_r:polaris_nginx_t:s0
tcontext=system_u:object_r:polaris_caf_api_port_t:s0 tclass=tcp_socket permissive=1
===== END =====
=====
```

show platform software fed switch punt cause

インターフェイスで受信したパケットがルータプロセッサ（RP）にパントされている理由に関する情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show platform software fed switch punt cpuq cause** コマンドを使用します。

show platform software fed switch {*switch-number* | **active** | **standby**} **punt**{*cause_id* | **clear** | **summary**}

構文の説明

switch {*switch-number* | **active** | **standby**} スイッチに関する情報を表示します。次の選択肢があります。

- **switch-number**。
- **active** : アクティブなスイッチに関する情報を表示します。
- **standby** : 存在する場合、スタンバイスイッチに関する情報を表示します。

(注) このキーワードはサポートされていません。

cause_id 詳細を表示する必要がある原因の ID を指定します。

clear すべての原因の統計をクリアします。原因をクリアすると、統計に矛盾が生じる可能性があります。

summary パント理由の概要を表示します。

コマンド デフォルト なし

コマンド モード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE ジブラルタル 16.10.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン なし

例

次に、**show platform software fed switch active punt cause summary** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show platform software fed switch active punt cause summary
Statistics for all causes
```

Cause	Cause Info	Rcvd	Dropped
7	ARP request or response	1	0
21	RP<->QFP keepalive	22314	0

```
55    For-us control                12          0
60    IP subnet or broadcast packet 21          0
96    Layer2 control protocols     133808     0
-----
```

次に、**show platform software fed switch active punt cause *cause-id*** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show platform software fed switch active punt cause 21
Detailed Statistics
```

```
Sub Cause      Rcvd          Dropped
-----
0              22363         0
-----
```

show platform software fed switch punt cpuq

CPU キューのパントトラフィックに関する情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show platform software fed switch punt cpuq** コマンドを使用します。

```
show platform software fed switch {switch-number | active | standby} punt cpuq {cpuq_id
| all | brief | clear | rates}
```

構文の説明

switch { <i>switch-number</i> active standby }	スイッチに関する情報を表示します。次の選択肢があります。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>switch-number</i>。 • active : アクティブなスイッチに関する情報を表示します。 • standby : 存在する場合、スタンバイスイッチに関する情報を表示します。 <p>(注) このキーワードはサポートされていません。</p>
punt	パント情報を表示します。
cpuq	CPU 受信キューに関する情報を表示します。
<i>cpuq_id</i>	特定の CPU キューに固有の詳細を指定します。
all	すべての CPU キューの統計を表示します。
brief	受信およびドロップされたパントパケットの詳細など、すべてのキューの要約された統計を表示します。
clear	すべての CPU キューの統計をクリアします。CPU キューをクリアすると、統計に矛盾が生じる可能性があります。
rates	パケットのパントレートを表示します。

コマンド デフォルト なし

コマンド モード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース

変更内容

Cisco IOS XE ジブラルタル 16.10.1 このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

なし

例

次に、**show platform software fed switch active punt cpuq brief** コマンドの出力例を示します。

```
Device#show platform software fed switch active punt cpuq brief
```

```
Punt CPU Q Statistics Brief
```

Q no	Queue Name	Rx prev	Rx cur	Rx delta	Drop prev	Drop cur	Drop delta
0	CPU_Q_DOT1X_AUTH	0	0	0	0	0	0
1	CPU_Q_L2_CONTROL	0	6772	6772	0	0	0
2	CPU_Q_FORUS_TRAFFIC	0	0	0	0	0	0
3	CPU_Q_ICMP_GEN	0	0	0	0	0	0
4	CPU_Q_ROUTING_CONTROL	0	12	12	0	0	0
5	CPU_Q_FORUS_ADDR_RESOLUTION	0	1	1	0	0	0
6	CPU_Q_ICMP_REDIRECT	0	0	0	0	0	0
7	CPU_Q_INTER_FED_TRAFFIC	0	0	0	0	0	0
8	CPU_Q_L2LVX_CONTROL_PKT	0	0	0	0	0	0
9	CPU_Q_EWLC_CONTROL	0	0	0	0	0	0
10	CPU_Q_EWLC_DATA	0	0	0	0	0	0
11	CPU_Q_L2LVX_DATA_PKT	0	0	0	0	0	0
12	CPU_Q_BROADCAST	0	21	21	0	0	0
13	CPU_Q_LEARNING_CACHE_OVFL	0	0	0	0	0	0
14	CPU_Q_SW_FORWARDING	0	0	0	0	0	0
15	CPU_Q_TOPOLOGY_CONTROL	0	127300	127300	0	0	0
16	CPU_Q_PROTO_SNOOPING	0	0	0	0	0	0
17	CPU_Q_BFD_LOW_LATENCY	0	0	0	0	0	0
18	CPU_Q_TRANSIT_TRAFFIC	0	0	0	0	0	0
19	CPU_Q_RPF_FAILED	0	0	0	0	0	0
20	CPU_Q_MCAST_END_STATION_SERVICE	0	0	0	0	0	0

show platform software fed switch punt cpuq

```

21 CPU_Q_LOGGING          0      0      0      0      0      0
22 CPU_Q_PUNT_WEBAUTH     0      0      0      0      0      0
23 CPU_Q_HIGH_RATE_APP   0      0      0      0      0      0
24 CPU_Q_EXCEPTION        0      0      0      0      0      0
25 CPU_Q_SYSTEM_CRITICAL  0      0      0      0      0      0
26 CPU_Q_NFL_SAMPLED_DATA 0      0      0      0      0      0
27 CPU_Q_LOW_LATENCY      0      0      0      0      0      0
28 CPU_Q_EGR_EXCEPTION    0      0      0      0      0      0
29 CPU_Q_FSS              0      0      0      0      0      0
30 CPU_Q_MCAST_DATA       0      0      0      0      0      0
31 CPU_Q_GOLD_PKT         0      0      0      0      0      0

```

次の表で、この出力に表示される重要なフィールドを説明します。

表 11: **show platform software fed switch active punt cpuq brief** フィールドの説明

フィールド	説明
Q no	キューの ID。
Queue Name	キューの名前。
Rx	受信されたパケット数。
ドロップ	ドロップされたパケットの数

次に、**show platform software fed switch active punt cpuq cpuq_id** コマンドの出力例を示します。

```
Device#show platform software fed switch active punt cpuq 1
```

```

Punt CPU Q Statistics
=====
CPU Q Id          : 1
CPU Q Name        : CPU_Q_L2_CONTROL
Packets received from ASIC : 6774
Send to IOSd total attempts : 6774
Send to IOSd failed count  : 0
RX suspend count    : 0
RX unsuspend count  : 0
RX unsuspend send count : 0
RX unsuspend send failed count : 0
RX consumed count   : 0
RX dropped count     : 0
RX non-active dropped count : 0

```



```
RX conversion failure dropped : 0
RX INTACK count               : 6761
RX packets dq'd after intack  : 0
Active RxQ event              : 6761
RX spurious interrupt         : 0
```

```
Replenish Stats for all rxq:
```

```
-----
Number of replenish           : 61969
Number of replenish suspend   : 0
Number of replenish un-suspend : 0
-----
```

show platform software sl-infra

トラブルシューティング情報を表示し、デバッグに関する情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show platform software sl-infra** コマンドを入力します。このコマンドの出力は、テクニカルサポートチームがトラブルシューティングとデバッグに使用します。

show platform software sl-infra { all | current | debug | stored }

構文の説明

all 現在の情報、デバッグ情報、および保存されている情報を表示します。

current 現在のライセンス関連情報を表示します。

debug デバッグを有効にします。

stored 製品インスタンスに保存されている情報を表示します。

コマンドモード

特権 EXEC (Device#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Amsterdam 17.3.2a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

解決できないエラーメッセージが表示された場合は、コンソールまたはシステムログに表示されるメッセージともに、シスコのテクニカルサポート担当者に **show license tech support**、**show license history message**、および **show platform software sl-infra all** 特権 EXEC コマンドの出力例を提供してください。

show platform sudi certificate

特定の SUDI のチェックサムレコードを表示するには、特権 EXEC モードで **show platform sudi certificate** コマンドを使用します。

show platform sudi certificate [**sign** [**nonce** <nonce>]]

構文の説明	sign	(任意) 署名を表示します。
	nonce	(任意) ナンス値を入力します。
コマンドモード	特権 EXEC (#)	
コマンド履歴	リリー ス	変更内容
	このコマンドが導入されました。	

例

次に、特定の SUDI のチェックサムレコードを表示する例を示します。

デバイス# **show platform sudi certificate**

```

-----BEGIN CERTIFICATE-----
MIIDQzCCAiugAwIBAgIQX/h7KctU3I1CoxW1aMmt/zANBgkqhkiG9w0BAQUFADA1
MRYwFAYDVQQKEw1DaXNjbyBTeXN0ZW1zMRswGQYDVQQDExJDaXNjbyBSb290IENB
IDIwNDgwHhcNMDQwNTEOMjAxNzEyWhcNMjkwNTEOMjAyNTQyWjA1MRwFAYDVQQK
Ew1DaXNjbyBTeXN0ZW1zMRswGQYDVQQDExJDaXNjbyBSb290IENBIDIwNDgwggEg
MA0GCSqGSIb3DQEBAQUAA4IBDQAwggEIAoIBAQCwmrmrp68Kd6ficba0ZmKUeIhH
xmJvHEAyv8CrLqUccda8bnuoqrpu0hWIESEWdovyD0My5j0AmaHBKeN8hF570YQXJ
FcjPFto1YYmUQ6iEqDGYeJu5Tm8sUxJsZr2tKyS7McQr/4NEb7Y9JHcJ6r8qqB9q
VvYgDxFUL4F1pyXOWWqCZe+36ufijXWlLvLdT6ZeYpzPEApk0E5tzivMW/VgpSdh
jWn0f84bcN5wGyDWbs2mAag8EtKpP6BrXruOIIt6ke01a06g58QBdKhTCytKmg9l
Eg6CTY5j/e/rmxrbU6YTYK/CfdHbBcl1HP7R2RQgYCUTOG/rksc35LtLgXfAgED
o1EwTzALBgNVHQ8EBAMCAYYwDwYDVR0TAQH/BAUwAwEB/zAdBgNVHQ4EFgQUJ/PI
FR5umgIJFq0roIlgX9p7L6owEAYJKwYBBAGCNxUBBAMCAQAwDQYJKoZIhvcNAQEF
BQADggEBAJ2dhISjQal8dwy3U8pORFbi71R803UXHOjgXkhLtv5MOhmBVRBW7hmW
Yqpao2TB9k5UM8Z3/sUcuuVdJcr18JOagxEu5sv4dEX+5wW4q+ffY0vhN4TauYuX
cB7w4ovXsNgOnbFp1iqRe6lJT37mjpXYgyc81WhJdTSd9i7rp77rMKSsH0T8lasz
Bvt9YaretIpjsJyp8qS5UwGH0GikJ3+r/+n6yUA4iGe0OcaEblfJU9u6ju7AQ7L4
CYNu/2bPPu8Xs1gYJQk0XuPL1hS27PKSb3TkL4Eq1ZKR4OCXPdJoBYVL0fdX4lId
kxpUnwVwwEpxYB5DC2Ae/qPOgRnhCzU=
-----END CERTIFICATE-----
-----BEGIN CERTIFICATE-----
MIIEPDCCAySgAwIBAgIKYQ1ufQAAAAADDANBgkqhkiG9w0BAQUFADA1MRYwFAYD
VQQKEw1DaXNjbyBTeXN0ZW1zMRswGQYDVQQDExJDaXNjbyBSb290IENBIDIwNDgw
HhcNMTcwNTEwMjAxNzEyWhcNMjkwNTEOMjAyNTQyWjA1MRwFAYDVQQKEw1DaXNj
bzEVMBMGA1UEAxMMQUNUMiBTURJiENBMTIiANBgkqhkiG9w0BAQEFAAOCAQ8A
MIIBCgKCAQEAA0m5l3THIx9tN/hS5qR/6UZRpdd+9aE2JbFknjht6gfHKd477AkS
5XAtUs5oxDYVt/zEbs1Zq3+LR6qrqKQVu6JYvh05UYLBqCj38s76NLk53905Wzp
9pRcmRCPUx+a6tHF/qRuOiJ44mdeDYzo3qPCpxzprWJDPc1M4iYKHumMQMqmgmg+
xghHIOoWS80BOcdiynEbeP5rZ7qRuewKmp11Ti3WdBNjZjnpfjg66F+P4SaDkGb
BXdGj13oVeF+EyFWLrFj97fL2+8oauV43Qrvnf3d/GfqXj7ew+/sXlXtEOjSXJ
URsyMEj53Rdd9tJwHky8neapszS+r+kdVQIDAQABo4IBWjCCAyWwCwYDVR0PBAQD

```

show platform sudi certificate

```

AgHGMB0GA1UdDgQWBbRI2PHxwnDVW7t8cwmTr7i4MAP4fzAfBgNVHSMEGDAWgBQn
88gVHm6aAgkWrSugiWbF2nsvqjBDBgNVHR8EPDA6MDIqNqA0hjJodHRWoi8vd3d3
LmNpc2NvLmNvbS9zZW50cm10eS9wa2kvY3JsL2NyY2EyMDQ4LmNybDBQBggrBgEF
BQCBAQREMEIwQAYIKwYBBQUHMAKGNH0dHA6Ly93d3cuY2l2Y28uY29tL3N1Y3Vy
aXR5L3BraS9jZXJ0cy9jcmNhMjA0OC5jZXIwXAYDVR0gBFUwUzBRBgorBgEEAQKv
AQwAMEMwQQYIKwYBBQUHAgEWNWh0dHA6Ly93d3cuY2l2Y28uY29tL3N1Y3VyYXR5
L3BraS9wb2xpY2llcy9pbmRleC5odG1sMBIGAlUdEwEB/wQIMAYBAf8CAQAwdQYJ
KozThvcNAQEFBQADggEBAGh1qclr9tx4hzWgDERm371yeuEmqcIfi9b9+GbMSJbi
ZHC/CcCl01Ju0a9zTXA9w47H9/t61eduGxb4WeLxcwCiUgvFtCa51Iklt8nNbcKY
/4dw1ex+7amATUQ04QggIE67wVlPu6bgAE3Ja/nRS3xKYSnj8H5TehimBSv6TECi
i5jUhOwryAK4dVo8hCjkjEkzu3ufBTJapnv89g9OE+H3VKM4L+/KdkUO+52djFKn
hy147d7cZR4Y4LIuFM2P1As8YyjoNpK/urSRI14WdIlpLr1nH7KND15618yfVP
0IFJZBGrooCRBjOSwFv8cpWcbmWdPaCQT2nwIjTfy8c=
-----END CERTIFICATE-----
-----BEGIN CERTIFICATE-----
MIDhJCCAm6gAwIBAgIDctWkMA0GCSqGSIb3DQEBCwUAMCcxDjAMBGNVBAoTBUNp
c2NvNmRUwEwYDVQQDEwxBQ1QyIFNVREkgQ0EwHhcNMTUwODAMZDgwODI1WhcNMjUw
ODAMZDgwODI1WjBzMSwwKgYDVQQFEyNQSUQ6V1MtQzM2NTAtMTJYNdhVWjBTtjPjG
RE8xOTMyWDAwQzEOMAwGA1UEChMFQ21zY28xGDAWBgNVBAsTD0FDVC0yIExpdmUg
U1VESTZMBcGA1UEAxMQV1MtQzM2NTAtMTJYNdhVWjCCASIdQYJKoZIhvcNAQEB
BQADggEPADCCAQoCggEBANZxOGYI0eUl4HcSwjL4HO75qTj19C2BHG3ufce9ikkN
xwGXi8qg8vKxub9tRYRaJC5bP1Wmoq7+ZJtQA079xE4X14soNbkq5NaUhh7RB1wD
iRUJvTfCoZVICbNfbzvtB30I75tCarFNmpd0K6AFrIa41U988QGqaCj7R1JrYNaj
nC73UXXM/hC0HtNR5mhyqer5Y2qjjzo6tHZYqrrx2eS1X0a262ZSQRiAxmaH/KLC
K97ywyRbdJlxBRX3hGtKlog8nASB8WpXqB9NVCERzUajwU3L/kg2BsCqw9Y2m7HW
U1cerTxgthuyUkdNI+Jg6iGAp2+s8E9hsHPBPMCDIsCAwEAAANvMG0wDgYDVR0P
AQH/BAQDAgXgMAwGA1UdEwEB/wQCMAAwTQYDVR0RBEEYwRKBCBgkrBgEEAQKvAgOg
NRMzQ2hpcE1EPVVZSk5ORmRRRlFvN1ZIVmxJRTlqZENBeU9DQXhPRG93TlRveE1T
QVg5eWc9MA0GCSqGSIb3DQEBCwUAA4IBAQBKicTRZbVCRjVIR5MQcWXUT086v6Ej
HahDHTts3YpQoyAVfioNg2x8J6EXcEau4voyVu+eMUuoNL4szPhmmDcULfiCGBcA
/R3EFuoVMIzNT0geziytsCf728KGw1oGuosgVjNGOOahUELu4+F/My7bIJNBH+PD
KjIFmhJpJg0F3q17yClAeXvd13g3W393i35d00Lm5L1WbBfQTyBaOLAbxsHvutrX
ulVZ5sdqStWtkk09vKMaQjh7a8J/AmJi93jvzM69pe5711P1zqZfYfpiJ3cyJ0xf
I4brQ1smdczloFD4asF7A+1v0r5e4VDBP0ppmeFAJvCQ52JTpj0M0o1D
-----END CERTIFICATE-----

```

show romvar

すべての ROMMON 環境変数を表示するには、**show romvar** コマンドを使用します。特定のリソースの環境変数を表示するには、**show romvar | i resource_name** を使用します。

show romvar

コマンド デフォルト このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンド モード 特権 EXEC

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Gibraltar 16.10.1	このコマンドが導入されました。

次に、**show romvar** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show romvar
ROMMON variables:
BOARDID="20610"
MODEL_NUM="C9500-40X"
SYSTEM_SERIAL_NUM="FCW2215A1AM"
MOTHERBOARD_SERIAL_NUM="FOC22141LY6"
MOTHERBOARD_REVISION_NUM="B0"
MOTHERBOARD_ASSEMBLY_NUM="73-18140-03"
MODEL_REVISION_NUM="C0"
BAUD="115200"
DC_COPY="yes"
SWITCH_NUMBER="1"
SWITCH_PRIORITY="15"
MAC_ADDR="00:01:02:02:aa:bb"
TAG_ID="E20034120131FB00098B2957"
ENABLE_BREAK="yes"
TEMPLATE="distribution"
TFTP_BLKSIZE="8192"
VERSION_ID="V01"
CRASHINFO="crashinfo:crashinfo_RP_00_00_20180704-001727-UTC"
TFTP_SERVER="10.8.0.6"
BOOT="flash:packages.conf;"
AUTOREBOOT_RESTORE="0"
D_STACK_DAD=""
LICENSE_BOOT_LEVEL="network-essentials+dna-essentials,all:C9500_40X;"
MANUAL_BOOT="yes"
RET_2_RTS=""
ABNORMAL_RESET_COUNT="1"
IP_ADDRESS="10.8.40.173"
IP_SUBNET_MASK="255.255.0.0"
DEFAULT_GATEWAY="10.8.0.1"
ROMMON_AUTOBOOT_ATTEMPT="3"
BSI="0"
RET_2_RCALTS=""
RANDOM_NUM="1494148250"
```

show running-config

現在実行されている設定ファイルまたは特定のモジュールのレイヤ 2 VLAN、クラスマップ、インターフェイス、マップクラス、ポリシーマップ、または仮想回線（VC）クラスの設定の内容を表示するには、**show running-config** コマンドを特権 EXEC モードで使します。

show running-config [*options*]

構文の説明

オプション（任意）出力のカスタマイズに使用されるキーワード。複数のキーワードを入力できます。

- **aaa** [**accounting** | **attribute** | **authentication** | **authorization** | **diameter** | **group** | **ldap** | **miscellaneous** | **radius-server** | **server** | **tacacs-server** | **user-name** | **username**] : AAA の設定を表示します。
- **all** : デフォルトパラメータで設定されたコマンドを含むように出力を展開します。**all** キーワードを使用しない場合、デフォルトパラメータで設定されたコマンドは出力に表示されません。
- **bridge-domain** {**id** | **parameterized vlan**} : ブリッジドメインの実行中コンフィギュレーションを表示します。
- **brief** : 認定データや暗号化されたフィルタの詳細なしで設定を表示します。
- **class-map** [*name*] [*linenum*] : クラスマップ情報を表示します。
- **cts** [**interface** | **policy-server** | **rbm-rbac** | **server** | **sxp**] : Cisco TrustSec の設定を表示します。
- **deprecated** : 実行中コンフィギュレーションとともに廃止された設定を表示します。
- **eap** {**method** | **profiles**} : EAP 方式の設定とプロファイルを表示します。
- **flow** {**exporter** | **monitor** | **record**} : グローバルフロー コンフィギュレーション コマンドを表示します。
- **full** : 完全な設定を表示します。
- **identity** {**policy** | **profile**} : アイデンティティ プロファイルまたはポリシー情報を表示します。

show running-config interface コマンドは、複数のインターフェイスがある場合に特定のインターフェイスの設定を確認する際に役立ちます。

linenum キーワードを指定すると、行番号が出力に表示されます。このオプションは、非常に大規模な設定の特定の部分を識別するのに役立ちます。

オプションのキーワードの後にパイプ文字 (|) を含めることで、コマンドシンタックスに追加の出力修飾子を入力できます。たとえば、**show running-config interface GigabitEthernet 1/0/1 linenum | begin 3** などです。キーワードに使用可能な出力修飾子を表示するには、キーワードの後に **|?** を入力します。使用しているプラットフォームによって、*options* 引数のキーワードと引数は異なる場合があります。

show running-config all コマンドは、デフォルト設定や値を含めて、完全な設定情報を表示します。たとえば、Cisco Discovery Protocol（出力では CDP と省略）の保留時間の値がデフォルトの 180 に設定されているとします。

- **show running-config** コマンドではこの値が表示されません。
- **show running-config all** では `cdp holdtime 180` を出力します。

Cisco Discovery Protocol の保留時間をデフォルト以外の値（100 など）に変更すると、**show running-config** コマンドと **show running-config all** コマンドの出力は同じになります。つまり、設定したパラメータが出力されます。

show running-config コマンドは ACL 情報を表示します。出力から ACL 情報を除外するには、**show running | section exclude ip access | access list** コマンドを使用します。

例

次に、GigabitEthernet0/0 インターフェイスを設定する例を示します。フィールドの説明は自明です。

```
Device# show running-config interface gigabitEthernet0/0

Building configuration...

Current configuration : 130 bytes
!
interface GigabitEthernet0/0
 vrf forwarding Mgmt-vrf
 ip address 10.5.20.10 255.255.0.0
 negotiation auto
 ntp broadcast
end
```

次に、コマンド出力に行番号を設定し、出力修飾子を使用して 10 行目から表示を開始する例を示します。フィールドの説明は自明です。

```
Device# show running-config linenum | begin 10

10 : boot-start-marker
11 : boot-end-marker
12 : !
13 : no logging buffered
14 : enable password #####
15 : !
16 : spe 1/0 1/7
17 : firmware location bootflash:mica-modem-pw.10.16.0.0.bin
```



```

18 : !
19 : !
20 : resource-pool disable
21 : !
22 : no aaa new-model
23 : ip subnet-zero
24 : ip domain name cisco.com
25 : ip name-server 172.16.11.48
26 : ip name-server 172.16.2.133
27 : !
28 : !
29 : isdn switch-type primary-5ess
30 : !
.
.
.
126 : end

```

show running-config コマンドの次の出力例では、**shape average** コマンドによって ATM のトラフィックシェーピングのオーバーヘッドアカウンティングが有効になっていることが示されています。BRAS-DSLAM のカプセル化タイプは **qinq** で、加入者回線のカプセル化タイプは ATM アダプテーション層 5 (AAL5) に基づき **snap-rbe** になります。フィールドの説明は自明です。

```

Device# show running-config
.
.
.
subscriber policy recording rules limit 64
no mpls traffic-eng auto-bw timers frequency 0
call rsvp-sync
!
controller T1 2/0
framing sf
linecode ami
!
controller T1 2/1
framing sf
linecode ami
!
!
policy-map unit-test
class class-default
shape average percent 10 account qinq aal5 snap-rbe
!

```

次に、**show running-config class-map** コマンドの出力例を示します。出力にはフィールドの説明も表示されます。

```

Device# show running-config class-map

Building configuration...

Current configuration : 2157 bytes
!
class-map match-any system-cpp-police-ewlc-control
  description EWLC Control
class-map match-any system-cpp-police-topology-control
  description Topology control
class-map match-any system-cpp-police-sw-forward
  description Sw forwarding, L2 LVX data packets, LOGGING, Transit Traffic
class-map match-any system-cpp-default
  description EWLC Data, Inter FED Traffic

```

```

class-map match-any system-cpp-police-sys-data
  description Openflow, Exception, EGR Exception, NFL Sampled Data, RPF Failed
class-map match-any system-cpp-police-punt-webauth
  description Punt Webauth
class-map match-any system-cpp-police-l2lvs-control
  description L2 LVX control packets
class-map match-any system-cpp-police-forus
  description Forus Address resolution and Forus traffic
class-map match-any system-cpp-police-multicast-end-station
  description MCAST END STATION
class-map match-any system-cpp-police-high-rate-app
  description High Rate Applications
class-map match-any system-cpp-police-multicast
  description MCAST Data
class-map match-any system-cpp-police-l2-control
  description L2 control
class-map match-any system-cpp-police-dot1x-auth
  description DOT1X Auth
class-map match-any system-cpp-police-data
  description ICMP redirect, ICMP_GEN and BROADCAST
class-map match-any system-cpp-police-stackwise-virt-control
  description Stackwise Virtual OOB
...

```

次に、teletype (tty) 回線 2 が 2 番目のコアとの通信用に予約されている例を示します。

```

Device# show running

Building configuration...

Current configuration:
!
version 12.0
service timestamps debug uptime
service timestamps log uptime
no service password-encryption
!
hostname device
!
enable password lab
!
no ip subnet-zero
!
!
!
interface Ethernet0
 ip address 10.25.213.150 255.255.255.128
 no ip directed-broadcast
 no logging event link-status
!
interface Serial0
 no ip address
 no ip directed-broadcast
 no ip mroute-cache
 shutdown
 no fair-queue
!
interface Serial1
 no ip address
 no ip directed-broadcast
 shutdown
!
ip default-gateway 10.25.213.129

```

```

ip classless
ip route 0.0.0.0 0.0.0.0 10.25.213.129
!
!
line con 0
  transport input none
line 1 6
  no exec
  transport input all
line 7
  no exec
  exec-timeout 300 0
  transport input all
line 8 9
  no exec
  transport input all
line 10
  no exec
  transport input all
  stopbits 1
line 11 12
  no exec
  transport input all
line 13
  no exec
  transport input all
  speed 115200
line 14 16
  no exec
  transport input all
line aux 0
line vty 0 4
  password cisco
  login
!
end

```

関連コマンド

Command	Description
copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーします (copy system:running-config nvram:startup-config コマンドのコマンドエイリアス)。
show startup-config	NVRAM の内容を表示するか (存在していて有効な場合)、または CONFIG_FILE 環境変数によって指定されている設定ファイルを表示します (more:nvram startup-config コマンドのコマンドエイリアス)。

show sdm prefer

特定の機能用のシステムリソースを最大にするために使用できるテンプレートに関する情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show sdm prefer** コマンドを使用します。現在のテンプレートを表示するには、キーワードを指定せずにコマンドを使用します。

show sdm prefer [advanced]

構文の説明	advanced (任意) 高度なテンプレートに関する情報を表示します。				
コマンド デフォルト	デフォルトの動作や値はありません。				
コマンド モード	特権 EXEC				
コマンド履歴	<table border="1"> <thead> <tr> <th>リリース</th> <th>変更内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Cisco IOS XE Everest 16.5.1a</td> <td>このコマンドが導入されました。</td> </tr> </tbody> </table>	リリース	変更内容	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。
リリース	変更内容				
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。				

show sdm prefer グローバル コンフィギュレーション コマンドを入力後にデバイスをリロードしていない場合、**show sdm prefer** 特権 EXEC コマンドでは、新しく設定されたテンプレートではなく現在使用中のテンプレートが表示されます。

各テンプレートで表示される番号は、各機能のリソースにおけるおおよその最大数になります。他に設定された機能の実際の数字にもよるため、実際の数字とは異なる場合があります。たとえば、デバイスに 16 を超えるルーテッド インターフェイス (サブネット VLAN) がある場合、デフォルトのテンプレートでは、可能なユニキャスト MAC アドレスの数は 6000 未満になることがあります。

例

次に、**show sdm prefer** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show sdm prefer
Showing SDM Template Info

This is the Advanced template.
Number of VLANs:          4094
Unicast MAC addresses:    32768
Overflow Unicast MAC addresses:  512
IGMP and Multicast groups:      8192
Overflow IGMP and Multicast groups:  512
Directly connected routes:     32768
Indirect routes:           7680
Security Access Control Entries: 3072
QoS Access Control Entries:    3072
Policy Based Routing ACEs:     1024
Netflow ACEs:               1024
```

```
Input Microflow policer ACEs:    256
Output Microflow policer ACEs:  256
Flow SPAN ACEs:                 256
Tunnels:                        256
Control Plane Entries:          512
Input Netflow flows:            8192
Output Netflow flows:          16384
SGT/DGT entries:                4096
SGT/DGT Overflow entries:       512
```

These numbers are typical for L2 and IPv4 features.
Some features such as IPv6, use up double the entry size;
so only half as many entries can be created.

show tech-support confidential

show tech-support の機密情報を非表示にするには、特権 EXEC モードで **show tech-support confidential** コマンドを使用します。

show tech-support confidential output *file-name*

構文の説明	output <i>file-name</i>	テクニカルサポートデータを保存する出力ファイルを指定します。
コマンド デフォルト	特権 EXEC (#)	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Amsterdam 17.3.1	このコマンドが導入されました。

show tech-support confidential コマンドは、MAC アドレス、IP アドレス、パスワードなどの機密データを非表示にします。出力は、すべての顧客固有のデータがマスクされた **show tech-support** コマンドの出力と同じです。

show tech-support confidential コマンドの出力は非常に長くなります。この出力を効率よく処理するには、**show tech-support confidential output location:filename** を使用してローカルの書き込み可能なストレージ、またはリモートファイルシステムで、この出力をファイルにリダイレクトします。ファイルに出力をリダイレクトすると、出力を Cisco Technical Assistance Center (TAC) の担当者に送信することも容易になります。

```
Device# show tech-support confidential output flash:tech_confidential
Collecting tech-support without confidential info, it will take few min..
```

リダイレクトされたファイルの出力を表示するには、**more location:filename** コマンドを使用します。

show tech-support monitor

SPAN モニタの情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show tech-support monitor** コマンドを使用します。

show tech-support monitor [**switch** *switch-number* | **active** | **standby**]

構文の説明		
	<i>switch-number</i>	スイッチを指定します。
	active	スイッチのアクティブインスタンスを指定します。
	standby	スイッチのスタンバイインスタンスを指定します。

コマンドデフォルト 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Amsterdam 17.3.1	このコマンドが導入されました。

show tech-support monitor コマンドの出力は非常に長くなります。この出力を効率よく処理するには、ローカルの書き込み可能なストレージ、またはリモートファイルシステムで、この出力をファイルにリダイレクトします（たとえば、**show tech-support monitor** [**switch** *switch-number* | **active** | **standby**] | **redirect location:filename**）。ファイルに出力をリダイレクトすると、出力を Cisco Technical Assistance Center (TAC) の担当者に送信することも容易になります。

リダイレクトされたファイルの出力を表示するには、**more location:filename** コマンドを使用します。

show tech-support platform

テクニカルサポートに使用するプラットフォームに関する詳細情報を表示するには、特権EXECモードで **show tech-support platform** コマンドを使用します。

show tech-support platform

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE ジブラルタル 16.10.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、プラットフォーム固有のデバッグに使用されます。出力には、CPU使用率、Ternary Content Addressable Memory (TCAM) の使用率、容量、メモリ使用率など、プラットフォームに関する詳細情報が表示されます。

show tech-support platform コマンドの出力は非常に長くなります。この出力を効率よく処理するには、ローカルの書き込み可能なストレージ、またはリモートファイルシステムで、この出力を外部ファイルにリダイレクトします（たとえば、**show tech-support platform | redirect flash:filename**）。

show tech-support platform コマンドの出力には、一連のコマンドとその出力が表示されます。これらのコマンドは、プラットフォームによって異なる場合があります。

例

次に、**show tech-support platform** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show tech-support platform
.
.
.
----- show platform hardware capacity -----

Load Average
Slot Status 1-Min 5-Min 15-Min
1-RP0 Healthy 0.25 0.17 0.12

Memory (kB)
Slot Status Total Used (Pct) Free (Pct) Committed (Pct)
1-RP0 Healthy 3964428 2212476 (56%) 1751952 (44%) 3420472 (86%)

CPU Utilization
Slot CPU User System Nice Idle IRQ SIRQ IOWait
1-RP0 0 1.40 0.90 0.00 97.60 0.00 0.10 0.00
      1 2.00 0.20 0.00 0.00 97.79 0.00 0.00 0.00
      2 0.20 0.00 0.00 0.00 99.80 0.00 0.00 0.00
      3 0.79 0.19 0.00 0.00 99.00 0.00 0.00 0.00
      4 5.61 0.50 0.00 0.00 93.88 0.00 0.00 0.00
      5 2.90 0.40 0.00 0.00 96.70 0.00 0.00 0.00
```



```

*: interface is up
IHQ: pkts in input hold queue      IQD: pkts dropped from input queue
OHQ: pkts in output hold queue     OQD: pkts dropped from output queue
RXBS: rx rate (bits/sec)           RXPS: rx rate (pkts/sec)
TXBS: tx rate (bits/sec)           TXPS: tx rate (pkts/sec)
TRTL: throttle count

```

Interface	IHQ	IQD	OHQ	OQD	RXBS	RXPS
TXBS TXPS TRTL						
Vlan1	0	0	0	0	0	0
0 0 0						
* GigabitEthernet0/0	0	10179	0	0	2000	4
0 0 0						
GigabitEthernet1/0/1	0	0	0	0	0	0
0 0 0						
GigabitEthernet1/0/2	0	0	0	0	0	0
0 0 0						
GigabitEthernet1/0/3	0	0	0	0	0	0
0 0 0						
GigabitEthernet1/0/4	0	0	0	0	0	0
0 0 0						
GigabitEthernet1/0/5	0	0	0	0	0	0
0 0 0						
GigabitEthernet1/0/6	0	0	0	0	0	0
0 0 0						
GigabitEthernet1/0/7	0	0	0	0	0	0
0 0 0						
GigabitEthernet1/0/8	0	0	0	0	0	0
0 0 0						
GigabitEthernet1/0/9	0	0	0	0	0	0
0 0 0						
GigabitEthernet1/0/10	0	0	0	0	0	0
0 0 0						
GigabitEthernet1/0/11	0	0	0	0	0	0
0 0 0						
GigabitEthernet1/0/12	0	0	0	0	0	0
0 0 0						
GigabitEthernet1/0/13	0	0	0	0	0	0
0 0 0						
GigabitEthernet1/0/14	0	0	0	0	0	0
0 0 0						
GigabitEthernet1/0/15	0	0	0	0	0	0
0 0 0						
GigabitEthernet1/0/16	0	0	0	0	0	0
0 0 0						
GigabitEthernet1/0/17	0	0	0	0	0	0
0 0 0						
GigabitEthernet1/0/18	0	0	0	0	0	0
0 0 0						
GigabitEthernet1/0/19	0	0	0	0	0	0
0 0 0						
GigabitEthernet1/0/20	0	0	0	0	0	0
0 0 0						
GigabitEthernet1/0/21	0	0	0	0	0	0
0 0 0						
GigabitEthernet1/0/22	0	0	0	0	0	0
0 0 0						
GigabitEthernet1/0/23	0	0	0	0	0	0
0 0 0						

show tech-support platform

```

GigabitEthernet1/0/24      0      0      0      0      0      0
 0      0      0
GigabitEthernet1/0/25      0      0      0      0      0      0
 0      0      0
GigabitEthernet1/0/26      0      0      0      0      0      0
 0      0      0
GigabitEthernet1/0/27      0      0      0      0      0      0
 0      0      0
GigabitEthernet1/0/28      0      0      0      0      0      0
 0      0      0
GigabitEthernet1/0/29      0      0      0      0      0      0
 0      0      0
GigabitEthernet1/0/30      0      0      0      0      0      0
 0      0      0
GigabitEthernet1/0/31      0      0      0      0      0      0
 0      0      0
GigabitEthernet1/0/32      0      0      0      0      0      0
 0      0      0
GigabitEthernet1/0/33      0      0      0      0      0      0
 0      0      0
GigabitEthernet1/0/34      0      0      0      0      0      0
 0      0      0
GigabitEthernet1/0/35      0      0      0      0      0      0
 0      0      0
GigabitEthernet1/0/36      0      0      0      0      0      0
 0      0      0
Tel1/0/37                   0      0      0      0      0      0
 0      0      0
Tel1/0/38                   0      0      0      0      0      0
 0      0      0
Tel1/0/39                   0      0      0      0      0      0
 0      0      0
Tel1/0/40                   0      0      0      0      0      0
 0      0      0
Tel1/0/41                   0      0      0      0      0      0
 0      0      0
Tel1/0/42                   0      0      0      0      0      0
 0      0      0
Tel1/0/43                   0      0      0      0      0      0
 0      0      0
Tel1/0/44                   0      0      0      0      0      0
 0      0      0
Tel1/0/45                   0      0      0      0      0      0
 0      0      0
Tel1/0/46                   0      0      0      0      0      0
 0      0      0
Tel1/0/47                   0      0      0      0      0      0
 0      0      0
Tel1/0/48                   0      0      0      0      0      0
 0      0      0
Tel1/1/1                    0      0      0      0      0      0
 0      0      0
Tel1/1/2                    0      0      0      0      0      0
 0      0      0
Tel1/1/3                    0      0      0      0      0      0
 0      0      0
Tel1/1/4                    0      0      0      0      0      0
 0      0      0
ASIC 0 Info
-----
ASIC 0 HASH Table 0 Software info: FSE 0
MAB 0: Unicast MAC addresses srip 0 1
MAB 1: Unicast MAC addresses srip 0 1
MAB 2: Unicast MAC addresses srip 0 1

```

```

MAB 3: Unicast MAC addresses srip 0 1
MAB 4: Unicast MAC addresses srip 0 1
MAB 5: Unicast MAC addresses srip 0 1
MAB 6: Unicast MAC addresses srip 0 1
MAB 7: Unicast MAC addresses srip 0 1
ASIC 0 HASH Table 1 Software info: FSE 0
MAB 0: Unicast MAC addresses srip 0 1
MAB 1: Unicast MAC addresses srip 0 1
MAB 2: Unicast MAC addresses srip 0 1
MAB 3: Unicast MAC addresses srip 0 1
MAB 4: Unicast MAC addresses srip 0 1
MAB 5: Unicast MAC addresses srip 0 1
MAB 6: Unicast MAC addresses srip 0 1
MAB 7: Unicast MAC addresses srip 0 1
ASIC 0 HASH Table 2 Software info: FSE 1
MAB 0: L3 Multicast entries srip 2 3
MAB 1: L3 Multicast entries srip 2 3
MAB 2: SGT_DGT          srip 0 1
MAB 3: SGT_DGT          srip 0 1
MAB 4: (null)           srip
MAB 5: (null)           srip
MAB 6: (null)           srip
MAB 7: (null)           srip
.
.
.

```

出力フィールドの意味は自明です。

関連コマンド

コマンド	説明
show tech-support platform evpn_vxlan	EVPN-VXLAN 関連のプラットフォーム情報を表示します。
show tech-support platform fabric	スイッチファブリックに関する詳細情報を表示します。
show tech-support platform igmp_snooping	グループに関する IGMP スヌーピング情報を表示します。
show tech-support platform layer3	レイヤ3プラットフォーム転送情報を表示します。
show tech-support platform mld_snooping	グループに関する MLD スヌーピング情報を表示します。

show tech-support platform evpn_vxlan

テクニカルサポートに使用するイーサネット VPN (EVPN) Virtual Extensible LAN (VXLAN) 関連のプラットフォーム情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show tech-support platform evpn_vxlan** コマンドを使用します。

show tech-support platform evpn_vxlan switch *switch-number*

構文の説明	switch <i>switch-number</i>	指定されたスイッチに関する情報を表示します。有効な値は 1 ~ 9 です。
コマンドモード	特権 EXEC (#)	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE ジブラルタル 16.10.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドの出力は非常に長くなります。この出力を効率よく処理するには、ローカルの書き込み可能なストレージ、またはリモートファイルシステムで、この出力を外部ファイルにリダイレクトします (たとえば、**show tech-support platform evpn_vxlan switch 1 | redirect flash:filename**)。

例 次に、**show tech-support platform evpn_vxlan** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show tech-support platform evpn_vxlan switch 1
.
.
.
  "show clock"
  "show version"
  "show running-config"switch no: 1

----- sh sdm prefer -----

Showing SDM Template Info

This is the Advanced template.
  Number of VLANs:                               4094
  Unicast MAC addresses:                          32768
  Overflow Unicast MAC addresses:                 512
  L2 Multicast entries:                           4096
  Overflow L2 Multicast entries:                  512
  L3 Multicast entries:                           4096
  Overflow L3 Multicast entries:                  512
  Directly connected routes:                      16384
  Indirect routes:                                7168
  STP Instances:                                  4096
  Security Access Control Entries:                3072
  QoS Access Control Entries:                    2560
  Policy Based Routing ACEs:                      1024
```

```

Netflow ACEs:                               768
Flow SPAN ACEs:                             512
Tunnels:                                     256
LISP Instance Mapping Entries:              256
Control Plane Entries:                     512
Input Netflow flows:                       8192
Output Netflow flows:                      16384
SGT/DGT (or) MPLS VPN entries:             4096
SGT/DGT (or) MPLS VPN Overflow entries:    512
Wired clients:                              2048
MACSec SPD Entries:                        256
MPLS L3 VPN VRF:                           127
MPLS Labels:                                2048
MPLS L3 VPN Routes VRF Mode:              7168
MPLS L3 VPN Routes Prefix Mode:          3072
MVPN MDT Tunnels:                          256
L2 VPN EOMPLS Attachment Circuit:         256
MAX VPLS Bridge Domains :                  64
MAX VPLS Peers Per Bridge Domain:         8
MAX VPLS/VPWS Pseudowires :               256

```

These numbers are typical for L2 and IPv4 features.

Some features such as IPv6, use up double the entry size;
so only half as many entries can be created.

* values can be modified by sdm cli.

```
----- show platform software fed switch 1 ifm interfaces nve -----
```

```
----- show platform software fed switch 1 ifm interfaces efp -----
```

```
----- show platform software fed switch 1 matm macTable -----
```

```

Total Mac number of addresses:: 0
*a_time=aging_time(secs) *e_time=total_elapsed_time(secs)
Type:
MAT_DYNAMIC_ADDR          0x1  MAT_STATIC_ADDR          0x2  MAT_CPU_ADDR
    0x4  MAT_DISCARD_ADDR          0x8
MAT_ALL_VLANS             0x10 MAT_NO_FORWARD           0x20 MAT_IPMULT_ADDR
    0x40  MAT_RESYNC                0x80
MAT_DO_NOT_AGE            0x100 MAT_SECURE_ADDR         0x200 MAT_NO_PORT
    0x400  MAT_DROP_ADDR            0x800
MAT_DUP_ADDR              0x1000 MAT_NULL_DESTINATION    0x2000 MAT_DOT1X_ADDR
    0x4000  MAT_ROUTER_ADDR         0x8000
MAT_WIRELESS_ADDR        0x10000 MAT_SECURE_CFG_ADDR     0x20000 MAT_OPQ_DATA_PRESENT
    0x40000  MAT_WIRED_TUNNEL_ADDR  0x80000
MAT_DLR_ADDR             0x100000 MAT_MRP_ADDR            0x200000 MAT_MSRRP_ADDR
    0x400000  MAT_LISP_LOCAL_ADDR    0x800000
MAT_LISP_REMOTE_ADDR    0x1000000 MAT_VPLS_ADDR           0x2000000
Device#

```

出力フィールドの意味は自明です。

関連コマンド

コマンド	説明
show tech-support platform	テクニカルサポートに使用するプラットフォームに関する詳細情報を表示します。

show tech-support platform fabric

スイッチファブリックに関する情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show tech-support platform fabric** コマンドを使用します。

```
show tech-support platform fabric [{display-cli | vrf vrf-name {ipv4 display-cli | ipv6 display-cli
| source instance-id instance-id {ipv4 ip-address/ip-prefix | ipv6 ipv6-address/ipv6-prefix | mac
mac-address} {dest instance-id instance-id} {ipv4 ip-address/ip-prefix | ipv6 ipv6-address/ipv6-prefix
| mac mac-address} [{display-cli}]]}]
```

構文の説明	display-cli	(任意) このコマンドの出力で使用可能な show コマンドのリストを表示します。
	vrf <i>vrf-name</i>	(任意) 指定した Virtual Routing and Forwarding (VRF) インスタンスのファブリック関連情報を表示します。
	ipv4 <i>ip-address/ip-prefix</i>	(任意) 送信元または宛先 IPv4 VRF のファブリック関連情報を表示します。
	ipv6 <i>ipv6-address/ipv6-prefix</i>	(任意) 送信元または宛先 IPv6 VRF のファブリック関連情報を表示します。
	source	(任意) 送信元 VRF のファブリック関連情報を表示します。
	instance-id <i>instance-id</i>	(任意) 送信元のエンドポイント識別子 (EID) に関する情報を表示します。
	mac <i>mac-address</i>	(任意) レイヤ2 拡張展開の送信元および宛先 MAC VRF のファブリック関連情報を表示します。
コマンドモード	特権 EXEC (#)	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Gibraltar 16.10.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドの出力は非常に長くなります。この出力を効率よく処理するには、ローカルの書き込み可能なストレージ、またはリモートファイルシステムで、この出力を外部ファイルにリダイレクトします（たとえば、**show tech-support platform fabric | redirect flash:filename**）。

このコマンドの出力には、一連のコマンドとその出力が表示されます。これらのコマンドは、プラットフォームによって異なる場合があります。

例

次に、**show tech-support platform fabric vrf source instance-id ipv4 dest instance-id ipv4** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show tech-support platform fabric vrf DEFAULT_VN source instance-id
4098 ipv4 10.1.1.1/32 dest instance-id 4098 ipv4 10.12.12.12/32

.
.
.
-----show ip lisp eid-table vrf DEFAULT_VN forwarding eid remote 10.12.12.12-----

Prefix          Fwd action  Locator status bits  encap_iid
10.12.12.12/32  encap      0x00000001             N/A
  packets/bytes 1/576
  path list 7F44EEC2C188, 4 locks, per-destination, flags 0x49 [shble, rif, hwn]
  ifnums:
    LISP0.4098(78): 192.0.2.2
  1 path
    path 7F44F8B5AFF0, share 10/10, type attached nexthop, for IPv4
      nexthop 192.0.2.2 LISP0.4098, IP midchain out of LISP0.4098, addr 192.0.2.2
7F44F8E86CE8
  1 output chain
    chain[0]: IP midchain out of LISP0.4098, addr 192.0.2.2 7F44F8E86CE8
      IP adj out of GigabitEthernet1/0/1, addr 10.0.2.1 7F44F8E87378

-----show lisp instance-id 4098 ipv4 map-cache-----

LISP IPv4 Mapping Cache for EID-table vrf DEFAULT_VN (IID 4098), 3 entries
0.0.0.0/0, uptime: 02:46:01, expires: never, via static-send-map-request
  Encapsulating to proxy ETR
10.1.1.0/24, uptime: 02:46:01, expires: never, via dynamic-EID, send-map-request
  Encapsulating to proxy ETR
10.12.12.12/32, uptime: 02:45:54, expires: 21:14:06, via map-reply, complete
  Locator Uptime State Pri/Wgt Encap-IID
  192.0.2.2 02:45:54 up 10/10 -

-----show lisp instance-id 4098 ipv4 map-cache detail-----

LISP IPv4 Mapping Cache for EID-table vrf DEFAULT_VN (IID 4098), 3 entries
0.0.0.0/0, uptime: 02:46:01, expires: never, via static-send-map-request
  Sources: static-send-map-request
  State: send-map-request, last modified: 02:46:01, map-source: local
  Exempt, Packets out: 2(676 bytes) (~ 02:45:38 ago)
  Configured as EID address space
  Encapsulating to proxy ETR
101.1.0/24, uptime: 02:46:01, expires: never, via dynamic-EID, send-map-request
  Sources: NONE
```



```

State: send-map-request, last modified: 02:46:01, map-source: local
Exempt, Packets out: 0(0 bytes)
Configured as EID address space
Configured as dynamic-EID address space
Encapsulating dynamic-EID traffic
Encapsulating to proxy ETR
10.12.12.12/32, uptime: 02:45:54, expires: 21:14:06, via map-reply, complete
Sources: map-reply
State: complete, last modified: 02:45:54, map-source: 10.0.1.2
Idle, Packets out: 1(576 bytes) (~ 02:45:38 ago)
Locator Uptime State Pri/Wgt Encap-IID
192.0.2.2 02:45:54 up 10/10 -
Last up-down state change: 02:45:54, state change count: 1
Last route reachability change: 02:45:54, state change count: 1
Last priority / weight change: never/never
RLOC-probing loc-status algorithm:
Last RLOC-probe sent: 02:45:54 (rtt 1ms)

-----show lisp instance-id 4098 ipv4 map-cache 10.12.12.12/32-----

LISP IPv4 Mapping Cache for EID-table vrf DEFAULT_VN (IID 4098), 3 entries
10.12.12.12/32, uptime: 02:45:54, expires: 21:14:06, via map-reply, complete
Sources: map-reply
State: complete, last modified: 02:45:54, map-source: 10.0.1.2
Idle, Packets out: 1(576 bytes) (~ 02:45:38 ago)
Locator Uptime State Pri/Wgt Encap-IID
192.0.2.2 02:45:54 up 10/10 -
Last up-down state change: 02:45:54, state change count: 1
Last route reachability change: 02:45:54, state change count: 1
Last priority / weight change: never/never
RLOC-probing loc-status algorithm:
Last RLOC-probe sent: 02:45:54 (rtt 1ms)

-----show ip cef vrf DEFAULT_VN 10.12.12.12/32 internal-----

10.12.12.12/32, epoch 1, flags [sc, lisp elig], refcnt 6, per-destination sharing
sources: LISP, IPL
feature space:
Broker: linked, distributed at 1st priority
subblocks:
SC owned,sourced: LISP remote EID - locator status bits 0x00000001
LISP remote EID: 1 packets 576 bytes fwd action encap, cfg as EID space
LISP source path list
path list 7F44EEC2C188, 4 locks, per-destination, flags 0x49 [shble, rif, hwcn]
ifnums:
LISP0.4098(78): 192.0.2.2
1 path
path 7F44F8B5AFF0, share 10/10, type attached nexthop, for IPv4
nexthop 192.0.2.2 LISP0.4098, IP midchain out of LISP0.4098, addr 192.0.2.2
7F44F8E86CE8
1 output chain
chain[0]: IP midchain out of LISP0.4098, addr 192.0.2.2 7F44F8E86CE8
IP adj out of GigabitEthernet1/0/1, addr 10.0.2.1 7F44F8E87378
Dependent covered prefix type LISP, cover 0.0.0.0/0
2 IPL sources [no flags]
ifnums:
LISP0.4098(78): 192.0.2.2
path list 7F44EEC2C188, 3 locks, per-destination, flags 0x49 [shble, rif, hwcn]
path 7F44F8B5AFF0, share 10/10, type attached nexthop, for IPv4

```

show tech-support platform fabric

```

        nexthop 192.0.2.2 LISP0.4098, IP midchain out of LISP0.4098, addr 192.0.2.2
        7F44F8E86CE8
    output chain:
        PushCounter(LISP:10.12.12.12/32) 7F44F3C8B8D8
        IP midchain out of LISP0.4098, addr 192.0.2.2 7F44F8E86CE8
        IP adj out of GigabitEthernet1/0/1, addr 10.0.2.1 7F44F8E87378
    switch no: 1
    .
    .
    .

```

```

Device# show tech-support platform fabric vrf Campus_VN source instance-id 8189
mac 00b7.7128.00a1 dest instance-id 8189 mac 00b7.7128.00a0 | i show

```

```

----- show clock -----
----- show version -----
----- show running-config -----
----- show device-tracking database -----
----- show lisp site -----
----- show mac address-table address 00B7.7128.00A0-----
----- show ip arp vrf Campus_VN-----
Device#

```

出力フィールドの意味は自明です。

関連コマンド

コマンド	説明
show tech-support platform	テクニカルサポートに使用するプラットフォームに関する詳細情報を表示します。

show tech-support platform igmp_snooping

グループに関する Internet Group Management Protocol (IGMP) スヌーピング情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show tech-support platform igmp_snooping** コマンドを使用します。

show tech-support platform igmp_snooping [{Group_ipAddr *ipv4-address* | [{vlan *vlan-ID*}]}

構文の説明	Group_ipAddr	(任意) 指定したグループアドレスに関するスヌーピング情報を表示します。
	<i>ipv4-address</i>	(任意) グループの IPv4 アドレス。
	vlan <i>vlan-ID</i>	(任意) IGMP スヌーピング VLAN 情報を表示します。有効な値は 1 ~ 4094 です。

コマンドモード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE ジブラルタル 16.10.1	このコマンドが導入されました。

このコマンドの出力は非常に長くなります。この出力を効率よく処理するには、ローカルの書き込み可能なストレージ、またはリモートファイルシステムで、この出力をファイルにリダイレクトします (たとえば、**show tech-support platform igmp_snooping | redirect flash:filename**)。

例

次に、**show tech-support platform igmp_snooping** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show tech-support platform igmp_snooping GroupIPAddr 226.6.6.6 vlan
.
.
.
----- show ip igmp snooping groups | i 226.6.6.6 -----
5          226.6.6.6          user          Gi1/0/8, Gi1/0/27, Gi1/0/28,

----- show ip igmp snooping groups count -----
Total number of groups:  2

----- show ip igmp snooping mrouter -----
```

show tech-support platform igmp_snooping

```
Vlan    ports
----    -
 23     Router
 24     Router
 25     Router
```

```
----- show ip igmp snooping querier -----
```

Vlan	IP Address	IGMP Version	Port
23	10.1.1.1	v2	Router
24	10.1.2.1	v2	Router
25	10.1.3.1	v2	Router

```
----- show ip igmp snooping vlan 5 -----
```

```
Global IGMP Snooping configuration:
```

```
-----
IGMP snooping           : Enabled
Global PIM Snooping    : Disabled
IGMPv3 snooping        : Enabled
Report suppression     : Enabled
TCN solicit query      : Disabled
TCN flood query count  : 2
Robustness variable    : 2
Last member query count : 2
Last member query interval : 1000
```

```
Vlan 5:
```

```
-----
IGMP snooping           : Enabled
Pim Snooping           : Disabled
IGMPv2 immediate leave : Disabled
Explicit host tracking  : Enabled
Multicast router learning mode : pim-dvmrp
CGMP interoperability mode : IGMP_ONLY
Robustness variable    : 2
Last member query count : 2
Last member query interval : 1000
```

```
----- show ip igmp snooping groups vlan 5 -----
```

Vlan	Group	Type	Version	Port List
5	226.6.6.6	user		Gi1/0/8, Gi1/0/27, Gi1/0/28, Gi2/0/7, Gi2/0/8, Gi2/0/27, Gi2/0/28
5	238.192.0.1	user		Gi2/0/28

```
----- show platform software fed active ip igmp snooping vlan 5 -----
```

```

Vlan 5
-----
IGMP SN Enabled : On
PIM SN Enabled : Off
Flood Mode      : On
I-Mrouter       : Off
Oper State      : Up
STP TCN Flood   : Off
Routing Enabled : Off
PIM Enabled     : Off
PVLAN           : No
In Retry        : 0x0
L3mcast Adj     :
Mrouter PortQ   :
Flood PortQ    :

----- show platform software fed active ip igmp snooping groups | begin 226.6.6.6 -----

Vlan:5 Group:226.6.6.6
-----
Member ports :
CAPWAP ports :
Host Type Flags: 0
Failure Flags : 0
DI handle     : 0x7f11151cbad8
REP RI handle : 0x7f11151cc018
SI handle     : 0x7f11151cd198
HTM handle    : 0x7f11151cd518

si hdl : 0x7f11151cd198 rep ri hdl : 0x7f11151cc018 di hdl : 0x7f11151cbad8 htm hdl :
0x7f11151cd518
.
.
.
Device#

```

出力フィールドの意味は自明です。

関連コマンド

コマンド	説明
ip igmp snooping	IGMP スヌーピングをグローバルまたはインターフェイスで有効にします。
show ip igmp snooping	デバイスのIGMP スヌーピング設定を表示します。
show tech-support platform	テクニカルサポートに使用するプラットフォームに関する詳細情報を表示します。

show tech-support platform layer3

レイヤ3プラットフォーム転送情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show tech-support platform layer3** コマンドを使用します。

```
show tech-support platform layer3 {multicast Group_ipAddr ipv4-address switch switch-number
srcIP ipv4-address | unicast {dstIP ipv4-address srcIP ipv4-address | vrf vrf-name destIP ipv4-address
srcIP ipv4-address}}
```

構文の説明	multicast	マルチキャスト情報を表示します。
	Group_ipv6Addr <i>ipv4-address</i>	指定したマルチキャストグループアドレスに関する情報を表示します。
	switch <i>switch-number</i>	指定したスイッチに関する情報を表示します。有効な値は1～9です。
	srcIP <i>ipv4-address</i>	指定した送信元アドレスに関する情報を表示します。
	unicast	ユニキャスト関連の情報を表示します。
	dstIP <i>ipv4-address</i>	指定した宛先アドレスに関する情報を表示します。
	vrf <i>vrf-name</i>	ユニキャスト関連の Virtual Routing and Forwarding (VRF) 情報を表示します。
コマンドモード	特権 EXEC (#)	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE ジブラルタル 16.10.1	このコマンドが導入されました。
使用上のガイドライン	このコマンドの出力は非常に長くなります。この出力を効率よく処理するには、ローカルの書き込み可能なストレージ、またはリモートファイルシステムで、この出力を外部ファイルにリダイレクトします（たとえば、 show tech-support platform layer3 multicast group 224.1.1.1 switch 1 srcIP 10.10.0.2 redirect flash:filename ）。	

例

次に、**show tech-support platform layer3 multicast group** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show tech-support platform layer3 multicast group_ipAddr 224.1.1.1
switch 1 srcIp 10.10.0.2

.
.
.
destination IP: 224.1.1.1
source IP: 10.10.0.2
switch no: 1

----- show ip mroute 224.1.1.1 10.10.0.2 -----

IP Multicast Routing Table
Flags: D - Dense, S - Sparse, B - Bidir Group, s - SSM Group, C - Connected,
L - Local, P - Pruned, R - RP-bit set, F - Register flag,
T - SPT-bit set, J - Join SPT, M - MSDP created entry, E - Extranet,
X - Proxy Join Timer Running, A - Candidate for MSDP Advertisement,
U - URD, I - Received Source Specific Host Report,
Z - Multicast Tunnel, z - MDT-data group sender,
Y - Joined MDT-data group, y - Sending to MDT-data group,
G - Received BGP C-Mroute, g - Sent BGP C-Mroute,
N - Received BGP Shared-Tree Prune, n - BGP C-Mroute suppressed,
Q - Received BGP S-A Route, q - Sent BGP S-A Route,
V - RD & Vector, v - Vector, p - PIM Joins on route,
x - VxLAN group, c - PFP-SA cache created entry
Outgoing interface flags: H - Hardware switched, A - Assert winner, p - PIM Join
Timers: Uptime/Expires
Interface state: Interface, Next-Hop or VCD, State/Mode

(10.10.0.2, 224.1.1.1), 00:00:22/00:02:37, flags: LFT
  Incoming interface: GigabitEthernet1/0/10, RPF nbr 0.0.0.0, Registering
  Outgoing interface list:
    Vlan20, Forward/Sparse, 00:00:22/00:02:37, A

----- show ip mfib 224.1.1.1 10.10.0.2 -----

Entry Flags:   C - Directly Connected, S - Signal, IA - Inherit A flag,
               ET - Data Rate Exceeds Threshold, K - Keepalive
               DDE - Data Driven Event, HW - Hardware Installed
               ME - MoFRR ECMP entry, MNE - MoFRR Non-ECMP entry, MP - MFIB
               MoFRR Primary, RP - MRIB MoFRR Primary, P - MoFRR Primary
               MS - MoFRR Entry in Sync, MC - MoFRR entry in MoFRR Client.
I/O Item Flags: IC - Internal Copy, NP - Not platform switched,
                NS - Negate Signalling, SP - Signal Present,
                A - Accept, F - Forward, RA - MRIB Accept, RF - MRIB Forward,
                MA - MFIB Accept, A2 - Accept backup,
                RA2 - MRIB Accept backup, MA2 - MFIB Accept backup

Forwarding Counts: Pkt Count/Pkts per second/Avg Pkt Size/Kbits per second
Other counts:      Total/RPF failed/Other drops
I/O Item Counts:  FS Pkt Count/PS Pkt Count
Default
(10.10.0.2,224.1.1.1) Flags: HW
  SW Forwarding: 0/0/0/0, Other: 1/1/0
  HW Forwarding:  NA/NA/NA/NA, Other: NA/NA/NA
```

show tech-support platform layer3

```
GigabitEthernet1/0/10 Flags: A
Vlan20 Flags: F IC
Pkts: 0/0
Tunnel0 Flags: F
Pkts: 0/0
```

```
----- show platform software fed switch 1 ip multicast interface summary -----
```

```
Multicast Interface database
```

VRF Handle	Interface SVI	IF ID	PIM Status	State	RI
0	GigabitEthernet1/0/10	0x0000000000000005f	enabled	0x0000000000000010	
	0x00007fb414b1f108 false				
0	Vlan20	0x00000000000000060	enabled	0x0000000000000010	
	0x00007fb414b31a98 true				

```
----- show platform software fed switch 1 ip multicast groups summary -----
```

```
Multicast Groups database
```

```
Mvrf_id: 0 Mroute: (*, 224.0.1.40/32) Flags: C IC
Htm: 0x00007fb414b23ce8 Si: 0x00007fb414b23a08 Di: 0x00007fb414b240e8 Rep_ri:
0x00007fb414b245f8
```

```
Mvrf_id: 0 Mroute: (*, 224.0.0.0/4) Flags: C
Htm: 0x00007fb4143549e8 Si: 0x00007fb414b20a48 Di: 0x00007fb414b1fe78 Rep_ri:
0x00007fb414b20428
```

```
Mvrf_id: 0 Mroute: (*, 224.1.1.1/32) Flags: C IC
Htm: 0x00007fb414b2cc98 Si: 0x00007fb414b2b678 Di: 0x00007fb414b2ab98 Rep_ri:
0x00007fb414b2b0c8
```

```
Mvrf_id: 0 Mroute: (10.10.0.2, 224.1.1.1/32) Flags: IC
Htm: 0x00007fb414b2f348 Si: 0x00007fb414b321d8 Di: 0x00007fb414b2dba8 Rep_ri:
0x00007fb414b30ed8
```

```
----- show platform software fed switch 1 ip multicast groups count -----
```

```
Total Number of entries:4
```

```
----- show platform software fed switch 1 ip multicast groups 224.1.1.1/32
source 10.10.0.2 detail -----
```

```
MROUTE ENTRY vrf 0 (10.10.0.2, 224.1.1.1/32)
HW Handle: 140411418055080 Flags: IC
RPF interface: GigabitEthernet1/0/10(95)):
HW Handle:140411418055080 Flags:A
Number of OIF: 3
Flags: 0x4 Pkts : 0
OIF Details:
Tunnel0 Adj: 0xf8000636 F
```



```

      Vlan20      Adj: 0xf8000601  F IC
      GigabitEthernet1/0/10      A
Htm: 0x7fb414b2f348  Si: 0x7fb414b321d8  Di: 0x7fb414b2dba8  Rep_ri: 0x7fb414b30ed8

DI details
-----
Handle:0x7fb414b2dba8 Res-Type:ASIC_RSC_DI Res-Switch-Num:255 Asic-Num:255
Feature-ID:AL_FID_L3_
MULTICAST_IPV4 Lkp-ftr-id:LKP_FEAT_INVALID ref_count:1
priv_ri/priv_si Handle:(nil) Hardware Indices/Handles: index0:0x538e
mtu_index/l3u_ri_index0:0x0 index1:0x538e mtu_index/l3u_ri_index1:0x0
Cookie length: 56
00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 02 00 0a 0a 01 01 01 e0 00 00 00 00 00 00 00 00
00 00 00
00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00
Detailed Resource Information (ASIC# 0)
-----

Destination Index (DI) [0x538e]
portMap = 0x00000000          0
cmil = 0x385
rcpPortMap = 0

al_rsc_cmi
CPU Map Index (CMI) [0x385]
ctiLo0 = 0x9
ctiLo1 = 0
ctiLo2 = 0
cpuQNum0 = 0x9e
cpuQNum1 = 0
cpuQNum2 = 0
npuIndex = 0
strip_seg = 0x0
copy_seg = 0x0
Detailed Resource Information (ASIC# 1)
-----

Destination Index (DI) [0x538e]
portMap = 0x00000000          0
cmil = 0x385
rcpPortMap = 0

al_rsc_cmi
CPU Map Index (CMI) [0x385]
ctiLo0 = 0x9
ctiLo1 = 0
ctiLo2 = 0
cpuQNum0 = 0x9e
cpuQNum1 = 0
cpuQNum2 = 0
npuIndex = 0
strip_seg = 0x0
copy_seg = 0x0

=====

RI details
-----
Handle:0x7fb414b30ed8 Res-Type:ASIC_RSC_RI_REP Res-Switch-Num:255 Asic-Num:255 Feature-ID:
AL_FID_L3_MULTICAST_IPV4 Lkp-ftr-id:LKP_FEAT_INVALID ref_count:1
priv_ri/priv_si Handle:(nil) Hardware Indices/Handles: index0:0x5
mtu_index/l3u_ri_index0:0x0
index1:0x5 mtu_index/l3u_ri_index1:0x0

```

show tech-support platform layer3

```

Cookie length: 56
00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 02 00 0a 0a 01 01 01 e0 00 00 00 00 00 00 00 00 00
00 00 00 00
00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00
Detailed Resource Information (ASIC# 0)
-----

Detailed Resource Information (ASIC# 1)
-----

=====

SI details
-----
Handle:0x7fb414b321d8 Res-Type:ASIC_RSC_SI_STATS Res-Switch-Num:255 Asic-Num:255
Feature-ID:
AL_FID_L3_MULTICAST_IPV4 Lkp-ftr-id:LKP_FEAT_INVALID ref_count:1
priv_ri/priv_si Handle:(nil) Hardware Indices/Handles: index0:0x4004
mtu_index/l3u_ri_index0:
0x0 sm handle 0:0x7fb414b2df98 index1:0x4004 mtu_index/l3u_ri_index1:0x0
Cookie length: 56
00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 02 00 0a 0a 01 01 01 e0 00 00 00 00 00 00 00 00 00
00 00
00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00
Detailed Resource Information (ASIC# 0)
-----

Detailed Resource Information (ASIC# 1)
-----

=====

HTM details
-----
Handle:0x7fb414b2f348 Res-Type:ASIC_RSC_HASH_TCAM Res-Switch-Num:0 Asic-Num:255 Feature-ID:
AL_FID_L3_MULTICAST_IPV4 Lkp-ftr-id:LKP_FEAT_IPV4_MCAST_SG ref_count:1
priv_ri/priv_si Handle:(nil) Hardware Indices/Handles: handle0:0x7fb414b2f558
Detailed Resource Information (ASIC# 0)
-----

Number of HTM Entries: 1

Entry #0: (handle 0x7fb414b2f558)

KEY - src_addr:10.10.0.2 starg_station_index: 16387
MASK - src_addr:0.0.0.0 starg_station_index: 0
AD: use_starg_match: 0 mcast_bridge_frame: 0 mcast_rep_frame: 0 rpf_valid: 1 rpf_le_ptr:
  0
afd_client_flag: 0 dest_mod_bridge: 0 dest_mod_route: 1 cpp_type: 0 dest_mod_index: 0
rp_index:
0 priority: 5 rpf_le: 36 station_index: 16388 capwap_mgid_present: 0 mgid 0

=====

```

次に、**show tech-support platform layer3 unicast vrf** コマンドの出力例を示します。

```

Device# show tech-support platform layer3 unicast vrf vr1 dstIP 10.0.0.20
srcIP 10.0.0.10

.
.
.
destination IP: 10.0.0.20
source IP: 10.0.0.10
vrf name :

```

Switch/Stack Mac Address : 5006.ab89.0280 - Local Mac Address
 Mac persistency wait time: Indefinite

Switch#	Role	Mac Address	Priority	H/W Version	Current State
*1	Active	5006.ab89.0280	1	V02	Ready

----- show switch -----

10.0.0.10 -> 10.0.0.20 =>IP adj out of GigabitEthernet1/0/7, addr 10.0.0.20

----- show ip cef exact-route platform 10.0.0.10 10.0.0.20 -----

nexthop is 10.0.0.20

Protocol	Interface	Address
IP	GigabitEthernet1/0/7	10.0.0.20(8) 0 packets, 0 bytes epoch 0 sourced in sev-epoch 0 Encap length 14 00211BFDE6495006AB8902C00800 L2 destination address byte offset 0 L2 destination address byte length 6 Link-type after encap: ip ARP

----- show adjacency 10.0.0.20 detail -----

Routing entry for 10.0.0.0/24
 Known via "connected", distance 0, metric 0 (connected, via interface)
 Routing Descriptor Blocks:
 * directly connected, via GigabitEthernet1/0/7
 Route metric is 0, traffic share count is 1

----- show ip route 10.0.0.20 -----

10.0.0.20/32, epoch 3, flags [attached]
 Adj source: IP adj out of GigabitEthernet1/0/7, addr 10.0.0.20 FF90E67820
 Dependent covered prefix type adjfib, cover 10.0.0.0/24
 attached to GigabitEthernet1/0/7

----- show ip cef 10.0.0.20 detail -----

```
ip prefix: 10.0.0.20/32
```

```
Forwarding Table
```

```
10.0.0.20/32 -> OBJ_ADJACENCY (29), urpf: 30  
Connected Interface: 31  
Prefix Flags: Directly L2 attached  
OM handle: 0x10205416d8
```

```
----- show platform software ip switch 1 R0 cef prefix 10.0.0.20/32 detail -----
```

```
OBJ_ADJACENCY found: 29
```

```
Number of adjacency objects: 5
```

```
Adjacency id: 0x1d (29)  
Interface: GigabitEthernet1/0/7, IF index: 31, Link Type: MCP_LINK_IP  
Encap: 0:21:1b:fd:e6:49:50:6:ab:89:2:c0:8:0  
Encap Length: 14, Encap Type: MCP_ET_ARPA, MTU: 1500  
Flags: no-l3-inject  
Incomplete behavior type: None  
Fixup: unknown  
Fixup_Flags_2: unknown  
Nexthop addr: 10.0.0.20  
IP FRR MCP_ADJ_IPFRR_NONE 0  
OM handle: 0x1020541348
```

```
----- show platform software adjacency switch 1 R0 index 29 -----
```

```
Forwarding Table
```

```
10.0.0.20/32 -> OBJ_ADJACENCY (29), urpf: 30  
Connected Interface: 31  
Prefix Flags: Directly L2 attached  
aom id: 393, HW handle: (nil) (created)
```

```
----- show platform software ip switch 1 F0 cef prefix 10.0.0.20/32 detail -----
```

```
OBJ_ADJACENCY found: 29
```

```
Number of adjacency objects: 5
```

```
Adjacency id: 0x1d (29)  
Interface: GigabitEthernet1/0/7, IF index: 31, Link Type: MCP_LINK_IP  
Encap: 0:21:1b:fd:e6:49:50:6:ab:89:2:c0:8:0  
Encap Length: 14, Encap Type: MCP_ET_ARPA, MTU: 1500  
Flags: no-l3-inject  
Incomplete behavior type: None
```

```

Fixup: unknown
Fixup_Flags_2: unknown
Nexthop addr: 10.0.0.20
IP FRR MCP_ADJ_IPFRR_NONE 0
aom id: 391, HW handle: (nil) (created)

----- show platform software adjacency switch 1 F0 index 29 -----

found aom id: 391

Object identifier: 391
  Description: adj 0x1d, Flags None
  Status: Done, Epoch: 0, Client data: 0xc6a747a8

----- show platform software object-manager switch 1 F0 object 391 -----

Object identifier: 66
  Description: intf GigabitEthernet1/0/7, handle 31, hw handle 31, HW dirty: NONE AOM
dirty NONE
  Status: Done

----- show platform software object-manager switch 1 F0 object 391 parents -----

Object identifier: 393
  Description: PREFIX 10.0.0.20/32 (Table id 0)
  Status: Done
.
.
.

```

出力フィールドの意味は自明です。

関連コマンド

コマンド	説明
show tech-support platform	テクニカルサポートに使用するプラットフォームに関する詳細情報を表示します。

show tech-support platform mld_snooping

グループに関するマルチキャストリスナー検出 (MLD) スヌーピング情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show tech-support platform mld_snooping** コマンドを使用します。

show tech-support platform mld_snooping [{Group_ipv6Addr *ipv6-address*}] [{vlan *vlan-ID*}]

構文の説明	Group_ipv6Addr	(任意) 指定したグループアドレスに関するスヌーピング情報を表示します。
	<i>ipv6-address</i>	(任意) グループの IPv6 アドレス。
	vlan <i>vlan-ID</i>	(任意) MLD スヌーピング VLAN 情報を表示します。有効な値は 1 ~ 4094 です。

コマンドモード 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE ジブラルタル 16.10.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドの出力は非常に長くなります。この出力を効率よく処理するには、ローカルの書き込み可能なストレージ、またはリモートファイルシステムで、この出力を外部ファイルにリダイレクトします (たとえば、**show tech-support platform mld_snooping | redirect flash:filename**)。

例

次に、**show tech-support platform mld_snooping** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show tech-support platform mld_snooping GroupIPv6Addr FF02::5:1
```

```
.
.
.
```

```
----- show running-config -----
```

```
Building configuration...
```

```
Current configuration : 11419 bytes
!
! Last configuration change at 09:17:04 UTC Thu Sep 6 2018
!
version 16.10
no service pad
service timestamps debug datetime msec
service timestamps log datetime msec
service call-home
```

```
no platform punt-keepalive disable-kernel-core
!
hostname Switch
!
!
vrf definition Mgmt-vrf
!
address-family ipv4
exit-address-family
!
address-family ipv6
exit-address-family
!
!
no aaa new-model
switch 1 provision ws-c3650-12x48uq
!
!
!
!
call-home
! If contact email address in call-home is configured as sch-smart-licensing@cisco.com
! the email address configured in Cisco Smart License Portal will be used as contact
email address to send SCH notifications.
contact-email-addr sch-smart-licensing@cisco.com
profile "profile-1"
active
destination transport-method http
no destination transport-method email
!
!
!
!
!
ip admission watch-list expiry-time 0
!
!
!
login on-success log
!
!
!
!
!
no device-tracking logging theft
!
crypto pki trustpoint TP-self-signed-559433368
enrollment selfsigned
subject-name cn=IOS-Self-Signed-Certificate-559433368
revocation-check none
rsa-keypair TP-self-signed-559433368
!
crypto pki trustpoint SLA-TrustPoint
enrollment pkcs12
revocation-check crl
!
!
crypto pki certificate chain TP-self-signed-559433368
certificate self-signed 01
30820229 30820192 A0030201 02020101 300D0609 2A864886 F70D0101 05050030
30312E30 2C060355 04031325 494F532D 53656C66 2D536967 6E65642D 43657274
69666963 6174652D 35353934 33333336 38301E17 0D313531 32303331 32353432
325A170D 32303031 30313030 30303030 5A303031 2E302C06 03550403 1325494F
532D5365 6C662D53 69676E65 642D4365 72746966 69636174 652D3535 39343333
```

show tech-support platform mld_snooping

```

33363830 819F300D 06092A86 4886F70D 01010105 0003818D 00308189 02818100
AD8C9C3B FEE7FFC8 986837D2 4C126172 446C3C53 E040F798 4BA61C97 7506FDC6
46365D0A E47E3F4F C774CA5B 73E2A8DD B72A2E98 C66DB196 94E8150F 0B669CF6
AA5BC4CD FC2E02F6 FE08B17F 0164FC19 7DC84ABB C99D91D6 398233FF 814EF6DA
6DC8FC20 CA12C0D6 1CB28EDA 6ADD6DFA 7E3E8281 4A189A9A AA44FCC0 BA9BD8A5
02030100 01A35330 51300F06 03551D13 0101FF04 05300301 01FF301F 0603551D
23041830 16801448 668D668E C92914BB 69E9BA64 F61228DE 132E2030 1D060355
1D0E0416 04144866 8D668EC9 2914BB69 E9BA64F6 1228DE13 2E20300D 06092A86
4886F70D 01010505 00038181 0000F1D3 3DD1E5F1 EB714A95 D5819933 CAD0C943
59927D55 9D70CAD0 D64830EB D54380AD D2B5B613 F8AF7A5B 1F801134 246F760D
5E5515DB D098304F 5086F6CE 88E8B576 F6B93A88 F458FDCF 91A42D7E FA741908
5C892D78 600FB655 E6C5A4D0 6C1F1B9A 3AECA550 E3DC0881 01C4D004 7AB65BC3
88CF24DE DAA19474 51B535A5 0C
quit
crypto pki certificate chain SLA-TrustPoint
certificate ca 01
30820321 30820209 A0030201 02020101 300D0609 2A864886 F70D0101 0B050030
32310E30 0C060355 040A1305 43697363 6F312030 1E060355 04031317 43697363
6F204C69 63656E73 696E6720 526F6F74 20434130 1E170D31 33303533 30313934
3834375A 170D3338 30353330 31393438 34375A30 32310E30 0C060355 040A1305
43697363 6F312030 1E060355 04031317 43697363 6F204C69 63656E73 696E6720
526F6F74 20434130 82012230 0D06092A 864886F7 0D010101 05000382 010F0030
82010A02 82010100 A6BCBD96 131E05F7 145EA72C 2CD686E6 17222EA1 F1EFF64D
CBB4C798 212AA147 C655D8D7 9471380D 8711441E 1AAF071A 9CAE6388 8A38E520
1C394D78 462EF239 C659F715 B98C0A59 5BBB5CBD 0CFEBEA3 700A8BF7 D8F256EE
4AA4E80D DB6FD1C9 60B1FD18 FFC69C96 6FA68957 A2617DE7 104FDC5F EA2956AC
7390A3EB 2B5436AD C847A2C5 DAB553EB 69A9A535 58E9F3E3 C0BD23CF 58BD7188
68E69491 20F320E7 948E71D7 AE3BCC84 F10684C7 4BC8E00F 539BA42B 42C68BB7
C7479096 B4CB2D62 EA2F505D C7B062A4 6811D95B E8250FC4 5D5D5FB8 8F27D191
C55F0D76 61F9A4CD 3D992327 A8BB03BD 4E6D7069 7CBADF8B DF5F4368 95135E44
DFC7C6CF 04DD7FD1 02030100 01A34230 40300E06 03551D0F 0101FF04 04030201
06300F06 03551D13 0101FF04 05300301 01FF301D 0603551D 0E041604 1449DC85
4B3D31E5 1B3E6A17 606AF333 3D3B4C73 E8300D06 092A8648 86F70D01 010B0500
03820101 00507F24 D3932A66 86025D9F E838AE5C 6D4DF6B0 49631C78 240DA905
604EDCDE FF4FED2B 77FC460E CD636FDB DD44681E 3A5673AB 9093D3B1 6C9E3D8B
D98987BF E40CBD9E 1AECA0C2 2189BB5C 8FA85686 CD98B646 5575B146 8DFC66A8
467A3DF4 4D565700 6ADF0F0D CF835015 3C04FF7C 21E878AC 11BA9CD2 55A9232C
7CA7B7E6 C1AF74F6 152E99B7 B1FCF9BB E973DE7F 5BDDEB86 C71E3B49 1765308B
5FB0DA06 B92AFE7F 494E8A9E 07B85737 F3A58BE1 1A48A229 C37C1E69 39F08678
80DDDC16 D6BACECA EEBC7CF9 8428787B 35202CDC 60E4616A B623CDBD 230E3AFB
418616A9 4093E049 4D10AB75 27E86F73 932E35B5 8862FDAE 0275156F 719BB2F0
D697DF7F 28
quit
!
!
!
diagnostic bootup level minimal
diagnostic monitor syslog
!
spanning-tree mode rapid-pvst
spanning-tree extend system-id
!
!
!
redundancy
mode sso
!
!
!
!
!
class-map match-any system-cpp-police-topology-control
description Topology control

```



```
class-map match-any system-cpp-police-sw-forward
  description Sw forwarding, L2 LVX data, LOGGING
class-map match-any system-cpp-default
  description EWLC control, EWLC data, Inter FED
class-map match-any system-cpp-police-sys-data
  description Learning cache ovfl, High Rate App, Exception, EGR Exception, NFL SAMPLED
  DATA, RPF Failed
class-map match-any AutoQos-4.0-RT1-Class
  match dscp ef
  match dscp cs6
class-map match-any system-cpp-police-punt-webauth
  description Punt Webauth
class-map match-any AutoQos-4.0-RT2-Class
  match dscp cs4
  match dscp cs3
  match dscp af41
class-map match-any system-cpp-police-l2lvx-control
  description L2 LVX control packets
class-map match-any system-cpp-police-forus
  description Forus Address resolution and Forus traffic
class-map match-any system-cpp-police-multicast-end-station
  description MCAST END STATION
class-map match-any system-cpp-police-multicast
  description Transit Traffic and MCAST Data
class-map match-any system-cpp-police-l2-control
  description L2 control
class-map match-any system-cpp-police-dot1x-auth
  description DOT1X Auth
class-map match-any system-cpp-police-data
  description ICMP redirect, ICMP_GEN and BROADCAST
class-map match-any system-cpp-police-stackwise-virt-control
  description Stackwise Virtual
class-map match-any system-cpp-police-control-low-priority
  description ICMP redirect and general punt
class-map match-any system-cpp-police-wireless-priority1
  description Wireless priority 1
class-map match-any system-cpp-police-wireless-priority2
  description Wireless priority 2
class-map match-any system-cpp-police-wireless-priority3-4-5
  description Wireless priority 3,4 and 5
class-map match-any non-client-nrt-class
class-map match-any system-cpp-police-routing-control
  description Routing control and Low Latency
class-map match-any system-cpp-police-protocol-snooping
  description Protocol snooping
class-map match-any system-cpp-police-dhcp-snooping
  description DHCP snooping
class-map match-any system-cpp-police-system-critical
  description System Critical and Gold Pkt
!
policy-map system-cpp-policy
  class system-cpp-police-data
    police rate 200 pps
  class system-cpp-police-routing-control
    police rate 500 pps
  class system-cpp-police-control-low-priority
  class system-cpp-police-wireless-priority1
  class system-cpp-police-wireless-priority2
  class system-cpp-police-wireless-priority3-4-5
policy-map port_child_policy
  class non-client-nrt_class
    bandwidth remaining ratio 10
!
```

```
!  
!  
!  
!  
!  
!  
!  
interface GigabitEthernet0/0  
  vrf forwarding Mgmt-vrf  
  no ip address  
  speed 1000  
  negotiation auto  
!  
interface GigabitEthernet1/0/1  
  switchport mode access  
  macsec network-link  
!  
interface GigabitEthernet1/0/2  
!  
interface GigabitEthernet1/0/3  
!  
interface TenGigabitEthernet1/1/1  
!  
interface TenGigabitEthernet1/1/2  
!  
interface TenGigabitEthernet1/1/3  
!  
interface TenGigabitEthernet1/1/4  
!  
interface Vlan1  
  no ip address  
  shutdown  
!  
ip forward-protocol nd  
ip http server  
ip http authentication local  
ip http secure-server  
!  
ip access-list extended AutoQos-4.0-wlan-Acl-Bulk-Data  
  permit tcp any any eq 22  
  permit tcp any any eq 465  
  permit tcp any any eq 143  
  permit tcp any any eq 993  
  permit tcp any any eq 995  
  permit tcp any any eq 1914  
  permit tcp any any eq ftp  
  permit tcp any any eq ftp-data  
  permit tcp any any eq smtp  
  permit tcp any any eq pop3  
ip access-list extended AutoQos-4.0-wlan-Acl-MultiEnhanced-Conf  
  permit udp any any range 16384 32767  
  permit tcp any any range 50000 59999  
ip access-list extended AutoQos-4.0-wlan-Acl-Scavenger  
  permit tcp any any range 2300 2400  
  permit udp any any range 2300 2400  
  permit tcp any any range 6881 6999  
  permit tcp any any range 28800 29100  
  permit tcp any any eq 1214  
  permit udp any any eq 1214  
  permit tcp any any eq 3689  
  permit udp any any eq 3689  
  permit tcp any any eq 11999  
ip access-list extended AutoQos-4.0-wlan-Acl-Signaling
```

```

permit tcp any any range 2000 2002
permit tcp any any range 5060 5061
permit udp any any range 5060 5061
ip access-list extended AutoQos-4.0-wlan-Acl-Transactional-Data
permit tcp any any eq 443
permit tcp any any eq 1521
permit udp any any eq 1521
permit tcp any any eq 1526
permit udp any any eq 1526
permit tcp any any eq 1575
permit udp any any eq 1575
permit tcp any any eq 1630
permit udp any any eq 1630
permit tcp any any eq 1527
permit tcp any any eq 6200
permit tcp any any eq 3389
permit tcp any any eq 5985
permit tcp any any eq 8080
!
!
!
ipv6 access-list preauth_ipv6_acl
permit udp any any eq domain
permit tcp any any eq domain
permit icmp any any nd-ns
permit icmp any any nd-na
permit icmp any any router-solicitation
permit icmp any any router-advertisement
permit icmp any any redirect
permit udp any eq 547 any eq 546
permit udp any eq 546 any eq 547
deny ipv6 any any
!
control-plane
service-policy input system-cpp-policy
!
!
line con 0
  stopbits 1
line aux 0
  stopbits 1
line vty 0 4
  login
line vty 5 15
  login
!
!
mac address-table notification mac-move
!
!
!
!
!
end

```

```
-----show switch | Include Ready-----
```

```
*1      Active   188b.9dfc.eb00    1      V00     Ready
```

```
----- show ipv6 mld snooping address | i FF02::5:1 -----
```

Vlan	Group	Type	Version	Port List
------	-------	------	---------	-----------

show tech-support platform mld_snooping

```
-----
123          FF02::5:1          mld          v2          Gi2/0/1
```

```
Device#
```

出力フィールドの意味は自明です。

関連コマンド

コマンド	説明
ipv6 mld snooping	MLDv2 プロトコルスヌーピングをグローバルに有効にします。
show ipv6 mld snooping	MLDv2 スヌーピング情報を表示します。
show tech-support platform	テクニカルサポートに使用するプラットフォームに関する詳細情報を表示します。

show tech-support port

テクニカルサポートに使用するポート関連の情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show tech-support port** コマンドを使用します。

show tech-support port

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Gibraltar 16.10.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

show tech-support port コマンドの出力は非常に長くなります。この出力を効率よく処理するには、ローカルの書き込み可能なストレージ、またはリモートファイルシステムで、この出力を外部ファイルにリダイレクトします（たとえば、**show tech-support port | redirect flash:filename**）。

このコマンドの出力には次のコマンドが表示されます。

- **show clock**
- **show version**
- **show module**
- **show inventory**
- **show interface status**
- **show interface counters**
- **show interface counters errors**
- **show interfaces**
- **show interfaces capabilities**
- **show controllers**
- **show controllers utilization**
- **show idprom interface**
- **show controller ethernet-controller phy detail**
- **show switch**
- **show platform software fed switch active port summary**
- **show platform software fed switch ifm interfaces ethernet**
- **show platform software fed switch ifm mappings**

- show platform software fed switch ifm mappings lpn
- show platform software fed switch ifm mappings gpn
- show platform software fed switch ifm mappings port-le
- show platform software fed switch ifm if-id
- show platform software fed switch active port if_id

例

次に、**show tech-support port** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show tech-support port
.
.
.
----- show controllers utilization -----

Port          Receive Utilization  Transmit Utilization
Gi1/0/1       0 0
Gi1/0/2       0 0
Gi1/0/3       0 0
Gi1/0/4       0 0
Gi1/0/5       0 0
Gi1/0/6       0 0
Gi1/0/7       0 0
Gi1/0/8       0 0
Gi1/0/9       0 0
Gi1/0/10      0 0
Gi1/0/11      0 0
Gi1/0/12      0 0
Gi1/0/13      0 0
Gi1/0/14      0 0
Gi1/0/15      0 0
Gi1/0/16      0 0
Gi1/0/17      0 0
Gi1/0/18      0 0
Gi1/0/19      0 0
Gi1/0/20      0 0
Gi1/0/21      0 0
Gi1/0/22      0 0
Gi1/0/23      0 0
Gi1/0/24      0 0
Gi1/0/25      0 0
Gi1/0/26      0 0
Gi1/0/27      0 0
Gi1/0/28      0 0
Gi1/0/29      0 0
Gi1/0/30      0 0
Gi1/0/31      0 0
Gi1/0/32      0 0
Gi1/0/33      0 0
Gi1/0/34      0 0
Gi1/0/35      0 0
Gi1/0/36      0 0
Tel/0/37      0 0
Tel/0/38      0 0
Tel/0/39      0 0
Tel/0/40      0 0
Tel/0/41      0 0
Tel/0/42      0 0
```

```
Te1/0/43      0  0
Te1/0/44      0  0
Te1/0/45      0  0
Te1/0/46      0  0
Te1/0/47      0  0
Te1/0/48      0  0
Te1/1/1       0  0
Te1/1/2       0  0
Te1/1/3       0  0
Te1/1/4       0  0
```

```
Total Ports : 52
```

```
Total Ports Receive Bandwidth Percentage Utilization : 0
```

```
Total Ports Transmit Bandwidth Percentage Utilization : 0
```

```
Average Switch Percentage Utilization : 0
```

```
----- show idprom interface Gi1/0/1 -----
```

```
*Sep  7 08:57:24.249: No module is present
```

```
.  
.
.
```

出力フィールドの意味は自明です。

show tech-support pvlan

プライベート VLAN に関する情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show tech-support pvlan** コマンドを使用します。

show tech-support pvlan [**{pvlan_id pvlan-id }**]

構文の説明	pvlan_id pvlan-id	プライベート VLAN ID を指定します。
コマンド デフォルト	特権 EXEC (#)	
コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Amsterdam 17.3.1	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン **show tech-support pvlan** コマンドの出力は非常に長くなります。この出力を効率よく処理するには、**show tech-support pvlan [pvlan_id vlan-id] | redirect location:filename** を使用してローカルの書き込み可能なストレージ、またはリモートファイルシステムで、この出力をファイルにリダイレクトします。ファイルに出力をリダイレクトすると、出力を Cisco Technical Assistance Center (TAC) の担当者に送信することも容易になります。

リダイレクトされたファイルの出力を表示するには、**more location:filename** コマンドを使用します。

show tech-support resource

スイッチのリソース情報を表示するには、特権 EXEC モードで **show tech-support resource** コマンドを使用します。

show tech-support resource

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドモード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Amsterdam 17.2.1	このコマンドが導入されました。

例

次に、**show tech-support resource** コマンドの出力例を示します。

```
Device> enable
Device# show tech-support resource
----- show clock -----

*17:57:36.220 UTC Fri Jun 4 2021

----- show version -----

Cisco IOS XE Software, Version 17.03.03
Cisco IOS Software [Amsterdam], Catalyst L3 Switch Software (CAT9K_IOSXE), Version 17.3.3,
RELEASE SOFTWARE (fc7)
Technical Support: http://www.cisco.com/techsupport
Copyright (c) 1986-2021 by Cisco Systems, Inc.
Compiled Thu 04-Mar-21 12:32 by mcpre

Cisco IOS-XE software, Copyright (c) 2005-2021 by cisco Systems, Inc.
All rights reserved. Certain components of Cisco IOS-XE software are
licensed under the GNU General Public License ("GPL") Version 2.0. The
software code licensed under GPL Version 2.0 is free software that comes
with ABSOLUTELY NO WARRANTY. You can redistribute and/or modify such
GPL code under the terms of GPL Version 2.0. For more details, see the
documentation or "License Notice" file accompanying the IOS-XE software,
or the applicable URL provided on the flyer accompanying the IOS-XE
software.

ROM: IOS-XE ROMMON
BOOTLDR: System Bootstrap, Version 17.5.2r, RELEASE SOFTWARE (P)

stack-nyqcr8 uptime is 3 weeks, 1 day, 19 hours, 18 minutes
Uptime for this control processor is 3 weeks, 1 day, 19 hours, 21 minutes
System returned to ROM by Reload Command
System image file is "flash:packages.conf"
Last reload reason: Reload Command
```

This product contains cryptographic features and is subject to United States and local country laws governing import, export, transfer and use. Delivery of Cisco cryptographic products does not imply third-party authority to import, export, distribute or use encryption. Importers, exporters, distributors and users are responsible for compliance with U.S. and local country laws. By using this product you agree to comply with applicable laws and regulations. If you are unable to comply with U.S. and local laws, return this product immediately.

A summary of U.S. laws governing Cisco cryptographic products may be found at: <http://www.cisco.com/wwl/export/crypto/tool/stqrg.html>

If you require further assistance please contact us by sending email to export@cisco.com.

Technology Package License Information:

```

-----
Technology-package           Technology-package
Current                      Type                      Next reboot
-----
network-advantage          Smart License              network-advantage
dna-advantage               Subscription Smart License  dna-advantage
AIR License Level: AIR DNA Advantage
Next reload AIR license Level: AIR DNA Advantage

```

Smart Licensing Status: Registration Not Applicable/Not Applicable

```

cisco C9300-48S (X86) processor with 1331521K/6147K bytes of memory.
Processor board ID FCW2315G10C
2 Virtual Ethernet interfaces
224 Gigabit Ethernet interfaces
36 2.5 Gigabit Ethernet interfaces
100 Ten Gigabit Ethernet interfaces
16 TwentyFive Gigabit Ethernet interfaces
16 Forty Gigabit Ethernet interfaces
48 Five Gigabit Ethernet interfaces
2048K bytes of non-volatile configuration memory.
8388608K bytes of physical memory.
1638400K bytes of Crash Files at crashinfo:.
11264000K bytes of Flash at flash:.

```

```

Base Ethernet MAC Address       : 4c:bc:48:97:ec:80
Motherboard Assembly Number    : 73-19406-03C
Motherboard Serial Number      : FOC23122J45
Model Revision Number          : A0
Motherboard Revision Number    : 07
Model Number                   : C9300-48S
System Serial Number           : FCW2315G10C
CLEI Code Number               : INM2900ARB

```

```

Switch Ports Model          SW Version  SW Image        Mode
-----
*   1 65    C9300-48S    17.03.03    CAT9K_IOSXE    INSTALL

```

Configuration register is 0x102

```

----- show running-config -----

```



```

subject-name cn=IOS-Self-Signed-Certificate-1829944574
revocation-check none
rsaкеypair TP-self-signed-1829944574
!
crypto pki trustpoint DNAC-CA
  enrollment mode ra
  enrollment terminal
  usage ssl-client
  revocation-check crl none
!
crypto pki trustpoint SLA-TrustPoint
  enrollment pkcs12
  revocation-check crl
!
!
crypto pki certificate chain TP-self-signed-1829944574
certificate self-signed 01
  30820330 30820218 A0030201 02020101 300D0609 2A864886 F70D0101 05050030
  31312F30 2D060355 04031326 494F532D 53656C66 2D536967 6E65642D 43657274
  69666963 6174652D 31383239 39343435 3734301E 170D3231 30353132 32323132
  33375A17 0D333130 35313232 32313233 375A3031 312F302D 06035504 03132649
  4F532D53 656C662D 5369676E 65642D43 65727469 66696361 74652D31 38323939
  34343537 34308201 22300D06 092A8648 86F70D01 01010500 0382010F 00308201
  0A028201 0100DDCC BF7D66CE FFE20EF3 725757F3 6FAFC721 94D4D60B 6233AD79
  E69AA12C 434C6ECE 98A34568 870DF666 CC4C09EA A80AE81C D607FAA3 A8B3022E
  0700AC7C 55B79266 C628FE55 1CA371A0 B5C47C4D 5445996A 0E6ADFB0 C1FF962D
  4F363522 A3CA9E43 736CA7A9 4C350C13 F4C2B5EC 59EDEAEC D7D74EF4 BF4ECE77
  4B625216 F5DD11C0 B667F9D4 1A6681E1 197B2C18 E7767A0A B798E120 D4616BCB
  99DD3D44 2F55BB2E ED85826F 91AE530E 968AD28F 36767EEE 4597726E 2D997AA0
  CDD33E49 7B814E3D 03C90538 C410F9F4 59147E4F 083B4143 40482C56 0CE5D3CD
  D3C6B337 E768E664 10FF3E35 93624B3F 187AD6A4 55C404BE F1993665 B18FC6A3
  4B968C9E 92E10203 010001A3 53305130 0F060355 1D130101 FF040530 030101FF
  301F0603 551D2304 18301680 14FDB525 614E9C81 4060EFC6 349A80E2 8B0F25F9
  28301D06 03551D0E 04160414 FDB52561 4E9C8140 60EFC634 9A80E28B 0F25F928
  300D0609 2A864886 F70D0101 05050003 82010100 2EACE5C4 6BB136E5 28204E25
  EE8C0514 21ECC597 24BC3B3B D72A34CB CBF950CC 82BADAE2 F58CD72B BE0A0BB9
  509946C4 F1DC5E8D 10184A79 33050AC0 8CD235DA 501C47BA 6920B007 FDF82BD3
  448A1E05 0C726EA7 6F641AA9 6A6172C0 4E2EAB90 CF758F0B 08A5F319 83D42DA1
  B0DF87FE E255864C 5DC87D26 339309D3 813E0B66 FD916E73 2319F717 6F8EF279
  5F13A7CC 2C5A6BA9 052E8D13 6D27B405 41984D8C DDB15B21 11E06F27 D36723F6
  85274D7A 994A8543 F6D8B8B1 9E94AAA9 AA660F19 951E2DB8 EA473526 89ED4161
  CCBF2032 9D03BF11 92FB4D62 8AA3A09D 374DB7DD 8566452B 4DEA0AF4 5B0D88B1
  B355144A FC6CC495 8058EFB2 4CF83651 149BA5DB
quit
crypto pki certificate chain DNAC-CA
certificate ca 43338DDB13667FF821F1D6502649F8926E67C11C
  308203A5 3082028D A0030201 02021443 338DDB13 667FF821 F1D65026 49F8926E
  67C11C30 0D06092A 864886F7 0D01010B 05003062 312D302B 06035504 030C2437
  36613236 3864642D 38393936 2D366138 322D6533 65352D34 36663366 62656137
  65306431 16301406 0355040A 0C0D4369 73636F20 53797374 656D7331 19301706
  0355040B 0C104369 73636F20 444E4120 43656E74 6572301E 170D3231 30343233
  32303431 30315A17 0D323430 31313832 30343130 315A3062 312D302B 06035504
  030C2437 36613236 3864642D 38393936 2D366138 322D6533 65352D34 36663366
  62656137 65306431 16301406 0355040A 0C0D4369 73636F20 53797374 656D7331
  19301706 0355040B 0C104369 73636F20 444E4120 43656E74 65723082 0122300D
  06092A86 4886F70D 01010105 00038201 0F003082 010A0282 010100AF 43FF5F25
  74C29B94 6E2A0FA1 A45D07B3 FD560BEC 0603B1C4 8B140AA3 A69877B8 6FAE6348
  8C7D9D3B AFDD99D2 235098C5 C5B56FD1 3EFC8258 6FD37FEE 1783B463 A490022A
  EED21295 B20CACB3 24273372 DF15FBAB A396FB54 FF348FB1 B3A34B49 59B1113A
  66595D17 EBE521A2 E3AA10BF 766F3A83 8046F031 26F0A642 609CF57D 6F6BCE6C
  5CFA6105 C783F6C6 3D414CB9 A5A572E6 FEB4CD9F D9B66208 D253F222 A2DEFEB9
  626C2AC5 6B4532DA 39429736 55D99A14 4A69D702 158469D6 5F6A6CBF A311B98F
  D459851C 5C45875A 88619DF5 22220D6C B689FE6F 989C8573 2E5492EE 9F69E108
  0892726B BB7CD254 FFE9AEAA 769395F5 1A930E7B 4AD0B5C6 603D2B02 03010001

```

```
A3533051 301D0603 551D0E04 160414CC 002C9091 065EE9E7 003B5F10 ED1A1ED3
76D4DD30 1F060355 1D230418 30168014 CC002C90 91065EE9 E7003B5F 10ED1A1E
D376D4DD 300F0603 551D1301 01FF0405 30030101 FF300D06 092A8648 86F70D01
010B0500 03820101 00719B9F 5D4F7FFE 29071394 1E82BF02 7F8BF38E 796BDFC7
DF2750DC 7D146E0D 094F17C6 6A8559E6 090FEA1E E2734F18 4A7D8647 A1AD4190
E0B0153A 447E9CC3 4A87B2D2 9A752F09 776CE638 4404391F F898179E 73752372
7108D675 5859CC7E C2AABAA9 C1027074 3B2E0195 02F2822C 14B7F168 EC4F91D1
A4EEEE07 73F92A61 9B6AE69F 379F3F77 CEF6A89B 0270F25F 2319E4FD 3795DFB6
C4E206FB 8E2A236A D3A2D012 DEDBB99D 8DE1C4A1 D4BE3AEC 97A2CDE3 7DB719FC
99DB5D14 4D00CBF8 EF67CE28 AC77AE17 88ECDAA5 199F7F88 9F513851 37ECCA2F
42781701 C5FC45C2 D8B0CE82 1306D4E4 7C617076 FB562A07 A3CAF126 5B860C56
582F1A97 E5AF26B5 65
quit
crypto pki certificate chain SLA-TrustPoint
certificate ca 01
3082031B 30820203 A0030201 02020101 300D0609 2A864886 F70D0101 0B050030
2F310E30 0C060355 040A1305 43697363 6F311D30 1B060355 04031314 4C696365
6E73696E 6720526F 6F74202D 20444556 301E170D 31333034 32343231 35353433
5A170D33 33303432 34323135 3534335A 302F310E 300C0603 55040A13 05436973
636F311D 301B0603 55040313 144C6963 656E7369 6E672052 6F6F7420 2D204445
56308201 22300D06 092A8648 86F70D01 01010500 0382010F 00308201 0A028201
01009C56 7101D61E DF2EBCC3 BA7AE0DB B241B3B4 328A9B00 EB8A80D0 2AA86F5E
F1AEBFDE B67BD6AD 7DAD7B43 F582753B FFCC1CA5 A7841A07 6934D3AF 99078EF6
179196FA 4FB3F2ED 3942C756 BF1CA0A9 CC98A7A7 F9E43724 D9E61D47 89E9E792
DD9F27B4 517C2BDE D0EB5B9A 787BA085 D9BBF003 F0563BE0 A4450C8F 127B5583
3EBC1385 2D9BAD98 68D3AE07 5C27987C 6B814B99 0686B14A 5F61753C 813089E6
AEC48C68 F6D45267 0E365F44 B4456E11 96DCB950 233C8ADB 9FEEBAF1 2B5F3BB6
7CE521B5 F277EBF6 03B7B0A4 958C9C7D 5460C20B CF9CCFC7 14B80F58 B5268947
6D081172 26916B41 FB07DF42 EB9B9408 EC346138 23FBD8C4 19909697 A30845F3
01C50203 010001A3 42304030 0E060355 1D0F0101 FF040403 02010630 0F060355
1D130101 FF040530 030101FF 301D0603 551D0E04 16041443 214521B5 FB217A1A
4D1BB702 36E664CB EC8B6530 0D06092A 864886F7 0D01010B 05000382 01010085
F1B1F2AE AE7D2F9C AB0351C3 29E3F1AE 982DF11F 5E3C90F6 00B3CDED 5A1491FB
DF07E06C AA0F4325 9FB4C4AE 2080F675 8C3B7AC5 4EAAA03E C5B50A2F 670AFF87
EDA6462F CFC43967 C024AB32 EE3CCDCF A04B9DAE 1BBABBD4 C8DF5587 CF51CB1C
005A282F 8B518A5A 8C6F9B3C AABA3446 32EF3A75 C2F45450 7A9BCFD3 0C8BE54A
11872DE0 CF1200D0 D1018FD9 AC685968 167E421C 9BC394ED 9BC85463 83B28146
07B2BDED DFC1605B 4D16007B 68723E25 55908512 4EEB0A70 B2A74C2A CB1EC882
C3215B87 6FC74304 241E59D7 C7C02C6D BD3042F5 196E8133 7A4446A4 81216E70
CF52CF22 50A7D23E FA9F6B07 FB0F6386 9DCC3BBC 65250693 38CF6BA6 CB8EFD
quit
!
!
license boot level network-advantage addon dna-advantage
license smart transport off
<output truncated>
```

show version

現在ロードされているソフトウェアの情報とハードウェアおよびデバイス情報を表示するには、ユーザ EXEC モードまたは特権 EXEC モードで **show version** コマンドを使用します。

show version [{switch ノード}][{installed | provisioned | running}]

構文の説明	switch ノード	(任意) 1つのスイッチのみを指定できます。デフォルトは、スタック構成のシステム内のすべてのスイッチです。
	running	(任意) 現在実行されているファイルに関する情報を指定します。
	provisioned	(任意) プロビジョニングされているソフトウェアファイルに関する情報を指定します。
	installed	RP にインストールされているソフトウェアに関する情報を指定します。
	user-interface	ユーザインターフェイスに関連するファイルに関する情報を指定します。

コマンド デフォルト デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード ユーザ EXEC (>)
 特権 EXEC (#)

コマンド履歴	リリース	変更内容
	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドでは、デバイスで現在実行中の Cisco IOS ソフトウェアのバージョン、ROM モニタとブートフラッシュ ソフトウェアのバージョン、およびシステムメモリの量を含むハードウェア構成についての情報が表示されます。このコマンドではソフトウェアとハードウェアの両方の情報が表示されるため、このコマンドの出力は **show hardware** コマンドの出力と同じです (**show hardware** コマンドは **show version** コマンドのコマンドエイリアスです)。

show version コマンドは、具体的には次の情報を提供します。

- ソフトウェア情報
 - メインの Cisco IOS イメージのバージョン
 - メインの Cisco IOS イメージの機能 (フィーチャセット)
 - ROM 内のブートファイルの場所と名前
 - ブートフラッシュイメージのバージョン (プラットフォームによって異なる)
- デバイス固有の情報
 - デバイス名

- システムの動作期間
 - システムのリロードの理由
 - config-register 設定
 - 次回のリロード後の config-register 設定（プラットフォームによって異なる）
- ハードウェア情報
 - プラットフォームタイプ
 - プロセッサ タイプ
 - プロセッサ ハードウェア リビジョン
 - 搭載されているメイン（プロセッサ）メモリの容量
 - 搭載されている I/O メモリの容量
 - 搭載されている各タイプのフラッシュメモリの容量（プラットフォームによって異なる）
 - プロセッサボード ID

このコマンドの出力の形式は次のとおりです。

```
Cisco IOS Software, <platform> Software (<image-id>), Version <software-version>,
<software-type>

Technical Support: http://www.cisco.com/techsupport
Copyright (c) <date-range> by Cisco Systems, Inc.
Compiled <day> <date> <time> by <compiler-id>

ROM: System Bootstrap, Version <software-version>, <software-type>
BOOTLDR: <platform> Software (image-id), Version <software-version>, <software-type>

<router-name> uptime is <w> weeks, <d> days, <h> hours,
<m> minutes
System returned to ROM by reload at <time> <day> <date>
System image file is "<filesystem-location>/<software-image-name>"
Last reload reason: <reload-reason>Cisco <platform-processor-type>
processor (revision <processor-revision-id>) with <free-DRAM-memory>
K/<packet-memory>K bytes of memory.
Processor board ID <ID-number>

<CPU-type> CPU at <clock-speed>Mhz, Implementation <number>, Rev <
Revision-number>, <kilobytes-Processor-Cache-Memory>KB <cache-Level> Cache
```

この出力のフィールドの説明については、「例」を参照してください。

show version を入力すると、IOS XE ソフトウェアのバージョンと IOS XE ソフトウェアバンドルが表示されます。このバンドルには、スイッチで実行されるソフトウェアの完全なセットを構成する一連の個別パッケージが含まれています。

show version running コマンドは、スイッチで現在実行されている個々のパッケージのリストを表示します。インストールモードで起動した場合、通常は起動したプロビジョニングファイルにリストされているパッケージのセットになります。バンドルモードで起動した場合、通常はバンドルに含まれているパッケージのセットになります。

show version provisioned コマンドは、プロビジョニングされたパッケージセットに関する情報を表示します。

次に、Cisco Catalyst 9300 シリーズスイッチでの **show version** コマンドの出力例を示します。

```
Device# show version
Cisco IOS XE Software, Version BLD_V1610_THROTTLE_LATEST_20180903_070602_V16_10_0_101_2
Cisco IOS Software [Fujil], Catalyst L3 Switch Software (CAT9K_IOSXE), Experimental Version
 16.10.20180903:072347
[v1610_throttle-/nobackup/mcpre/BLD-BLD_V1610_THROTTLE_LATEST_20180903_070602 183]
Copyright (c) 1986-2018 by Cisco Systems, Inc.
Compiled Mon 03-Sep-18 11:53 by mcpre
```

```
Cisco IOS-XE software, Copyright (c) 2005-2018 by cisco Systems, Inc.
All rights reserved. Certain components of Cisco IOS-XE software are
licensed under the GNU General Public License ("GPL") Version 2.0. The
software code licensed under GPL Version 2.0 is free software that comes
with ABSOLUTELY NO WARRANTY. You can redistribute and/or modify such
GPL code under the terms of GPL Version 2.0. For more details, see the
documentation or "License Notice" file accompanying the IOS-XE software,
or the applicable URL provided on the flyer accompanying the IOS-XE
software.
```

```
ROM: IOS-XE ROMMON
BOOTLDR: System Bootstrap, Version 16.10.1r, RELEASE SOFTWARE (P)
```

```
C9300 uptime is 20 hours, 7 minutes
Uptime for this control processor is 20 hours, 8 minutes
System returned to ROM by Image Install
System image file is "flash:packages.conf"
Last reload reason: Image Install
```

```
This product contains cryptographic features and is subject to United
States and local country laws governing import, export, transfer and
use. Delivery of Cisco cryptographic products does not imply
third-party authority to import, export, distribute or use encryption.
Importers, exporters, distributors and users are responsible for
compliance with U.S. and local country laws. By using this product you
agree to comply with applicable laws and regulations. If you are unable
to comply with U.S. and local laws, return this product immediately.
```

```
A summary of U.S. laws governing Cisco cryptographic products may be found at:
http://www.cisco.com/wwl/export/crypto/tool/stqrg.html
```

```
If you require further assistance please contact us by sending email to
export@cisco.com.
```

```
Technology Package License Information:
```

```
-----
Technology-package
Current                               Type                               Technology-package
Next reboot
-----
network-advantage                    Smart License                    network-advantage
dna-advantage                        Subscription Smart License      dna-advantage
```



```

Smart Licensing Status: UNREGISTERED/EVAL MODE

cisco C9300-24U (X86) processor with 1415813K/6147K bytes of memory.
Processor board ID FCW2125L0BH
8 Virtual Ethernet interfaces
56 Gigabit Ethernet interfaces
16 Ten Gigabit Ethernet interfaces
4 TwentyFive Gigabit Ethernet interfaces
4 Forty Gigabit Ethernet interfaces
2048K bytes of non-volatile configuration memory.
8388608K bytes of physical memory.
1638400K bytes of Crash Files at crashinfo:.
1638400K bytes of Crash Files at crashinfo-2:.
11264000K bytes of Flash at flash:.
11264000K bytes of Flash at flash-2:.
0K bytes of WebUI ODM Files at webui:.

Base Ethernet MAC Address       : 70:d3:79:be:6c:80
Motherboard Assembly Number     : 73-17954-06
Motherboard Serial Number       : FOC21230KPX
Model Revision Number           : A0
Motherboard Revision Number     : A0
Model Number                    : C9300-24U
System Serial Number            : FCW2125L0BH

Switch Ports Model          SW Version  SW Image        Mode
-----
*   1 40    C9300-24U    16.10.1     CAT9K_IOSXE    INSTALL
   2 40    C9300-24U    16.10.1     CAT9K_IOSXE    INSTALL

Switch 02
-----
Switch uptime                : 20 hours, 8 minutes

Base Ethernet MAC Address     : 70:d3:79:84:85:80
Motherboard Assembly Number   : 73-17954-06
Motherboard Serial Number     : FOC21230KPK
Model Revision Number         : A0
Motherboard Revision Number   : A0
Model Number                  : C9300-24U
System Serial Number          : FCW2125L03W
Last reload reason            : Image Install

Configuration register is 0x102

次に、Cisco Catalyst 9300 シリーズ スイッチで show version running コマンドを入力して、2 メンバスタックの両方のスイッチで現在実行されているパッケージに関する情報を表示する例を示します。

Device# show version running
Package: Provisioning File, version: n/a, status: active
  Role: provisioning file
  File: /flash/packages.conf, on: RP0
  Built: n/a, by: n/a
  File SHA1 checksum: 6a43991bae5b94de0df8083550f827a3c01756c5

Package: rpbase, version: BLD_V1610_THROTTLE_LATEST_20180903_070602_V16_10_0_101_2,
status: active
  Role: rp_base

```

```
File:
/flash/cat9k-rpbase.BLD_V1610_THROTTLE_LATEST_20180903_070602_V16_10_0_101_2.SSA.pkg,
on: RP0
  Built: 2018-09-03_13.11, by: mcpre
  File SHA1 checksum: 78331327788b2cd00624043d71a15094bd19d885

Package: rpboot, version: BLD_V1610_THROTTLE_LATEST_20180903_070602_V16_10_0_101_2,
status: active
  Role: rp_boot
  File:
/flash/cat9k-rpboot.BLD_V1610_THROTTLE_LATEST_20180903_070602_V16_10_0_101_2.SSA.pkg,
on: RP0
  Built: 2018-09-03_13.11, by: mcpre
  File SHA1 checksum: n/a

Package: guestshell, version: BLD_V1610_THROTTLE_LATEST_20180903_070602_V16_10_0_101_2,
status: active
  Role: guestshell
  File:
/flash/cat9k-guestshell.BLD_V1610_THROTTLE_LATEST_20180903_070602_V16_10_0_101_2.SSA.pkg,
on: RP0/0
  Built: 2018-09-03_13.11, by: mcpre
  File SHA1 checksum: 10827f9f9db3b016d19a926acc6be0541440b8d7

Package: rpbase, version: BLD_V1610_THROTTLE_LATEST_20180903_070602_V16_10_0_101_2,
status: active
  Role: rp_daemons
  File:
/flash/cat9k-rpbase.BLD_V1610_THROTTLE_LATEST_20180903_070602_V16_10_0_101_2.SSA.pkg,
on: RP0/0
  Built: 2018-09-03_13.11, by: mcpre
  File SHA1 checksum: 78331327788b2cd00624043d71a15094bd19d885

Package: rpbase, version: BLD_V1610_THROTTLE_LATEST_20180903_070602_V16_10_0_101_2,
status: active
  Role: rp_iosd
  File:
/flash/cat9k-rpbase.BLD_V1610_THROTTLE_LATEST_20180903_070602_V16_10_0_101_2.SSA.pkg,
on: RP0/0
  Built: 2018-09-03_13.11, by: mcpre
  File SHA1 checksum: 78331327788b2cd00624043d71a15094bd19d885

Package: rpbase, version: BLD_V1610_THROTTLE_LATEST_20180903_070602_V16_10_0_101_2,
status: active
  Role: rp_security
  File:
/flash/cat9k-rpbase.BLD_V1610_THROTTLE_LATEST_20180903_070602_V16_10_0_101_2.SSA.pkg,
on: RP0/0
  Built: 2018-09-03_13.11, by: mcpre
  File SHA1 checksum: 78331327788b2cd00624043d71a15094bd19d885

Package: webui, version: BLD_V1610_THROTTLE_LATEST_20180903_070602_V16_10_0_101_2, status:
active
  Role: rp_webui
  File:
/flash/cat9k-webui.BLD_V1610_THROTTLE_LATEST_20180903_070602_V16_10_0_101_2.SSA.pkg, on:
RP0/0
  Built: 2018-09-03_13.11, by: mcpre
  File SHA1 checksum: 5112d7749b38fale122ce6ee1bfb266ad7eb553a

Package: srdriver, version: BLD_V1610_THROTTLE_LATEST_20180903_070602_V16_10_0_101_2,
status: active
  Role: srdriver
  File:
```

```
/flash/cat9k-srdriver.BLD_V1610_THROTTLE_LATEST_20180903_070602_V16_10_0_101_2.SSA.pkg,
on: RP0/0
  Built: 2018-09-03_13.11, by: mcpre
  File SHA1 checksum: aff411e981a8dfc8de14005cc33462dc69f8bfaf

Package: cc_srdriver, version: BLD_V1610_THROTTLE_LATEST_20180903_070602_V16_10_0_101_2,
status: active
  Role: cc_srdriver
  File:
/flash/cat9k-cc_srdriver.BLD_V1610_THROTTLE_LATEST_20180903_070602_V16_10_0_101_2.SSA.pkg,
on: SIP0
  Built: 2018-09-03_13.11, by: mcpre
  File SHA1 checksum: e3da784f3e61ef1e153028e53d9dc94b2c9b1bf7
```

次に、2 メンバスタックのアクティブスイッチである Cisco Catalyst 9300 シリーズ スイッチで **show version provisioned** コマンドを入力した場合の例を示します。 **show version provisioned** コマンドは、プロビジョニングされたパッケージセットに含まれているパッケージに関する情報を表示します。

```
Device# show version provisioned
Package: Provisioning File, version: n/a, status: active
  Role: provisioning file
  File: /flash/packages.conf, on: RP0
  Built: n/a, by: n/a
  File SHA1 checksum: 6a43991bae5b94de0df8083550f827a3c01756c5

Package: rpbase, version: BLD_V1610_THROTTLE_LATEST_20180903_070602_V16_10_0_101_2,
status: n/a
  Role: rp_base
  File:
/flash/cat9k-rpbase.BLD_V1610_THROTTLE_LATEST_20180903_070602_V16_10_0_101_2.SSA.pkg,
on: RP0
  Built: 2018-09-03_13.11, by: mcpre
  File SHA1 checksum: 78331327788b2cd00624043d71a15094bd19d885

Package: guestshell, version: BLD_V1610_THROTTLE_LATEST_20180903_070602_V16_10_0_101_2,
status: n/a
  Role: guestshell
  File:
/flash/cat9k-guestshell.BLD_V1610_THROTTLE_LATEST_20180903_070602_V16_10_0_101_2.SSA.pkg,
on: RP0
  Built: 2018-09-03_13.11, by: mcpre
  File SHA1 checksum: 10827f9f9db3b016d19a926acc6be0541440b8d7

Package: rpboot, version: BLD_V1610_THROTTLE_LATEST_20180903_070602_V16_10_0_101_2,
status: n/a
  Role: rp_boot
  File:
/flash/cat9k-rpboot.BLD_V1610_THROTTLE_LATEST_20180903_070602_V16_10_0_101_2.SSA.pkg,
on: RP0
  Built: 2018-09-03_13.11, by: mcpre
  File SHA1 checksum: n/a

Package: rpbase, version: BLD_V1610_THROTTLE_LATEST_20180903_070602_V16_10_0_101_2,
status: n/a
  Role: rp_daemons
  File:
/flash/cat9k-rpbase.BLD_V1610_THROTTLE_LATEST_20180903_070602_V16_10_0_101_2.SSA.pkg,
on: RP0
  Built: 2018-09-03_13.11, by: mcpre
  File SHA1 checksum: 78331327788b2cd00624043d71a15094bd19d885
```

show version

```
Package: rpbase, version: BLD_V1610_THROTTLE_LATEST_20180903_070602_V16_10_0_101_2,
status: n/a
  Role: rp_iosd
  File:
/flash/cat9k-rpbase.BLD_V1610_THROTTLE_LATEST_20180903_070602_V16_10_0_101_2.SSA.pkg,
on: RP0
  Built: 2018-09-03_13.11, by: mcpre
  File SHA1 checksum: 78331327788b2cd00624043d71a15094bd19d885

Package: rpbase, version: BLD_V1610_THROTTLE_LATEST_20180903_070602_V16_10_0_101_2,
status: n/a
  Role: rp_security
  File:
/flash/cat9k-rpbase.BLD_V1610_THROTTLE_LATEST_20180903_070602_V16_10_0_101_2.SSA.pkg,
on: RP0
  Built: 2018-09-03_13.11, by: mcpre
  File SHA1 checksum: 78331327788b2cd00624043d71a15094bd19d885

Package: webui, version: BLD_V1610_THROTTLE_LATEST_20180903_070602_V16_10_0_101_2, status:
n/a
  Role: rp_webui
  File:
/flash/cat9k-webui.BLD_V1610_THROTTLE_LATEST_20180903_070602_V16_10_0_101_2.SSA.pkg, on:
RP0
  Built: 2018-09-03_13.11, by: mcpre
  File SHA1 checksum: 5112d7749b38fa1e122ce6ee1bfb266ad7eb553a

Package: wlc, version: BLD_V1610_THROTTLE_LATEST_20180903_070602_V16_10_0_101_2, status:
n/a
  Role: rp_wlc
  File: /flash/cat9k-wlc.BLD_V1610_THROTTLE_LATEST_20180903_070602_V16_10_0_101_2.SSA.pkg,
on: RP0
  Built: 2018-09-03_13.11, by: mcpre
  File SHA1 checksum: ada21bb3d57e1b03e5af2329503ed6caa7236d6e

Package: srdriver, version: BLD_V1610_THROTTLE_LATEST_20180903_070602_V16_10_0_101_2,
status: n/a
  Role: srdriver
  File:
/flash/cat9k-srdriver.BLD_V1610_THROTTLE_LATEST_20180903_070602_V16_10_0_101_2.SSA.pkg,
on: RP0
  Built: 2018-09-03_13.11, by: mcpre
  File SHA1 checksum: aff411e981a8dfc8de14005cc33462dc69f8bfaf

Package: espbase, version: BLD_V1610_THROTTLE_LATEST_20180903_070602_V16_10_0_101_2,
status: n/a
  Role: fp
  File:
/flash/cat9k-espbase.BLD_V1610_THROTTLE_LATEST_20180903_070602_V16_10_0_101_2.SSA.pkg,
on: ESP0
  Built: 2018-09-03_13.11, by: mcpre
  File SHA1 checksum: 1a2317485f285a3945b31ae57aa64c56ed30a8c0

Package: sipbase, version: BLD_V1610_THROTTLE_LATEST_20180903_070602_V16_10_0_101_2,
status: n/a
  Role: cc
  File:
/flash/cat9k-sipbase.BLD_V1610_THROTTLE_LATEST_20180903_070602_V16_10_0_101_2.SSA.pkg,
on: SIP0
  Built: 2018-09-03_13.11, by: mcpre
  File SHA1 checksum: ce821195f0c0bd5e44f21e32fca76cf9b2eed02b

Package: sipspa, version: BLD_V1610_THROTTLE_LATEST_20180903_070602_V16_10_0_101_2,
status: n/a
```

```

Role: cc_spa
File:
/flash/cat9k-sipspa.BLD_V1610_THROTTLE_LATEST_20180903_070602_V16_10_0_101_2.SSA.pkg,
on: SIP0
  Built: 2018-09-03_13.11, by: mcpre
  File SHA1 checksum: 54645404860b662d72f8ff7fa5e6e88cb0960e20

Package: cc_srdriver, version: BLD_V1610_THROTTLE_LATEST_20180903_070602_V16_10_0_101_2,
status: n/a
  Role: cc_srdriver
  File:
/flash/cat9k-cc_srdriver.BLD_V1610_THROTTLE_LATEST_20180903_070602_V16_10_0_101_2.SSA.pkg,
on: SIP0
  Built: 2018-09-03_13.11, by: mcpre
  File SHA1 checksum: e3da784f3e61ef1e153028e53d9dc94b2c9b1bf7

```

表 12: show version running のフィールドの説明

フィールド	説明
Package:	個々のサブパッケージの名前。
version:	個々のサブパッケージのバージョン。
status :	特定のスーパーバイザモジュールに対してパッケージがアクティブであるか非アクティブであるか。
File:	個々のパッケージファイルのファイル名。
on:	このパッケージが実行されているアクティブまたはスタンバイのスーパーバイザの スロット番号。
Built:	個々のパッケージが作成された日付。

system env temperature threshold yellow

イエローのしきい値を決定する、イエローとレッドの温度しきい値の差を設定するには、グローバル コンフィギュレーション コマンドで **system env temperature threshold yellow** コマンドを使用します。デフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

system env temperature threshold yellow value
no system env temperature threshold yellow value

構文の説明

value イエローとレッドのしきい値の差を指定します（摂氏）。指定できる範囲は 10 ～ 25 です。

コマンド デフォルト

デフォルト値は次のとおりです。

表 13: 温度しきい値のデフォルト値

デバイス	イエローとレッドの差	レッド ¹
Catalyst 9500	14 °C	60 °C

¹ レッドの温度しきい値を設定することはできません。

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

グリーンとレッドのしきい値を設定することはできませんが、イエローのしきい値を設定することはできます。イエローとレッドのしきい値の差を指定して、イエローのしきい値を設定するには、**system env temperature threshold yellow value** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。たとえば、レッドしきい値が 66 °C の場合に、イエローしきい値を 51 °C に設定するには、しきい値の差を 15 に設定するために、**system env temperature threshold yellow 15** コマンドを使用します。たとえば、レッドしきい値が 60 °C の場合に、イエローしきい値を 51 °C に設定するには、しきい値の差を 9 に設定するために、**system env temperature threshold yellow 9** コマンドを使用します。



(注) デバイス内部の温度センサーでシステム内の温度を測定するため、±5 °C の差が生じる可能性があります。

例

次の例では、イエローとレッドのしきい値の差を 15 に設定する方法を示します。

```
Device(config)# system env temperature threshold yellow 15  
Device(config)#
```

tracert mac

指定の送信元 MAC アドレスから指定の宛先 MAC アドレスまでをパケットが通過するレイヤ 2 パスを表示するには、特権 EXEC モードで **tracert mac** コマンドを使用します。

```
tracert mac [interface interface-id] source-mac-address [interface interface-id]
destination-mac-address [vlan vlan-id] [detail]
```

構文の説明	interface <i>interface-id</i> (任意) 送信元または宛先デバイス上のインターフェイスを指定します。						
	<i>source-mac-address</i> 送信元デバイスの 16 進形式の MAC アドレス。						
	<i>destination-mac-address</i> 宛先デバイスの 16 進形式の MAC アドレス。						
	vlan <i>vlan-id</i> (任意) 送信元デバイスから宛先デバイスまでをパケットが通過するレイヤ 2 のパスをトレースする VLAN を指定します。指定できる VLAN ID の範囲は 1 ~ 4094 です。						
	detail (任意) 詳細情報を表示するよう指定します。						
コマンド デフォルト	デフォルトの動作や値はありません。						
コマンド モード	特権 EXEC						
コマンド履歴	<table border="1"> <thead> <tr> <th>リリース</th> <th>変更内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Cisco IOS XE Everest 16.5.1a</td> <td>このコマンドが導入されました。</td> </tr> <tr> <td>Cisco IOS XE Bengaluru 17.5.1</td> <td>tracert mac コマンドの出力エラーメッセージで、aborted は terminated に置き換えられました。</td> </tr> </tbody> </table>	リリース	変更内容	Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。	Cisco IOS XE Bengaluru 17.5.1	tracert mac コマンドの出力エラーメッセージで、 aborted は terminated に置き換えられました。
リリース	変更内容						
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。						
Cisco IOS XE Bengaluru 17.5.1	tracert mac コマンドの出力エラーメッセージで、 aborted は terminated に置き換えられました。						
使用上のガイドライン	<p>レイヤ 2 のトレースルートを適切に機能させるには、Cisco Discovery Protocol (CDP) がネットワークのすべてのデバイスでイネーブルになっている必要があります。CDP をディセーブルにすることは避けてください。</p> <p>デバイスがレイヤ 2 パス内でレイヤ 2 トレースルートをサポートしていないデバイスを検知した場合、デバイスはレイヤ 2 トレースクエリを送信し続け、タイムアウトにします。</p> <p>パス内で識別可能な最大ホップ数は 10 です。</p> <p>レイヤ 2 tracert はユニキャストトラフィックだけをサポートします。マルチキャストの送信元または宛先 MAC アドレスを指定しても、物理的なパスは識別されず、エラーメッセージが表示されます。</p> <p>指定された送信元および宛先アドレスが同じ VLAN にある場合、tracert mac コマンド出力はレイヤ 2 パスを表示します。</p>						

異なる VLAN にある送信元および宛先アドレスを指定した場合、レイヤ 2 パスは識別されず、エラーメッセージが表示されます。

送信元または宛先 MAC アドレスが複数の VLAN に属する場合は、送信元および宛先 MAC アドレスの両方が属している VLAN を指定する必要があります。

VLAN を指定しないと、パスは識別されず、エラーメッセージが表示されます。

複数の装置がハブを介して 1 つのポートに接続されている場合（たとえば、複数の CDP ネイバーがポートで検出されるなど）、レイヤ 2 traceroute 機能はサポートされません。

複数の CDP ネイバーが 1 つのポートで検出された場合、レイヤ 2 パスは特定されず、エラーメッセージが表示されます。

この機能は、トークンリング VLAN ではサポートされません。

例

次の例では、送信元および宛先 MAC アドレスを指定することで、レイヤ 2 のパスを表示する方法を示します。

```
Device# traceroute mac 0000.0201.0601 0000.0201.0201
Source 0000.0201.0601 found on con6[WS-C3750E-24PD] (2.2.6.6)
con6 (2.2.6.6) :Gi0/0/1 => Gi0/0/3
con5          (2.2.5.5   ) :   Gi0/0/3 => Gi0/0/1
con1          (2.2.1.1   ) :   Gi0/0/1 => Gi0/0/2
con2          (2.2.2.2   ) :   Gi0/0/2 => Gi0/0/1
Destination 0000.0201.0201 found on con2[WS-C3550-24] (2.2.2.2)
Layer 2 trace completed
```

次の例では、**detail** キーワードを使用することで、レイヤ 2 のパスを表示する方法を示します。

```
Device# traceroute mac 0000.0201.0601 0000.0201.0201 detail
Source 0000.0201.0601 found on con6[WS-C3750E-24PD] (2.2.6.6)
con6 / WS-C3750E-24PD / 2.2.6.6 :
    Gi0/0/2 [auto, auto] => Gi0/0/3 [auto, auto]
con5 / WS-C2950G-24-EI / 2.2.5.5 :
    Fa0/3 [auto, auto] => Gi0/1 [auto, auto]
con1 / WS-C3550-12G / 2.2.1.1 :
    Gi0/1 [auto, auto] => Gi0/2 [auto, auto]
con2 / WS-C3550-24 / 2.2.2.2 :
    Gi0/2 [auto, auto] => Fa0/1 [auto, auto]
Destination 0000.0201.0201 found on con2[WS-C3550-24] (2.2.2.2)
Layer 2 trace completed.
```

次の例では、送信元および宛先デバイスのインターフェイスを指定することで、レイヤ 2 のパスを表示する方法を示します。

```
Device# traceroute mac interface fastethernet0/1 0000.0201.0601 interface fastethernet0/3
0000.0201.0201
Source 0000.0201.0601 found on con6[WS-C3750E-24PD] (2.2.6.6)
con6 (2.2.6.6) :Gi0/0/1 => Gi0/0/3
```

```

con5          (2.2.5.5      ) :   Gi0/0/3 => Gi0/0/1
con1          (2.2.1.1      ) :   Gi0/0/1 => Gi0/0/2
con2          (2.2.2.2      ) :   Gi0/0/2 => Gi0/0/1
Destination 0000.0201.0201 found on con2[WS-C3550-24] (2.2.2.2)
Layer 2 trace completed

```

次の例では、デバイスが送信元デバイスに接続されていない場合のレイヤ 2 のパスを示します。

```

Device# tracert mac 0000.0201.0501 0000.0201.0201 detail
Source not directly connected, tracing source .....
Source 0000.0201.0501 found on con5[WS-C3750E-24TD] (2.2.5.5)
con5 / WS-C3750E-24TD / 2.2.5.5 :
    Gi0/0/1 [auto, auto] => Gi0/0/3 [auto, auto]
con1 / WS-C3550-12G / 2.2.1.1 :
    Gi0/1 [auto, auto] => Gi0/2 [auto, auto]
con2 / WS-C3550-24 / 2.2.2.2 :
    Gi0/2 [auto, auto] => Fa0/1 [auto, auto]
Destination 0000.0201.0201 found on con2[WS-C3550-24] (2.2.2.2)
Layer 2 trace completed.

```

次の例では、デバイスが送信元 MAC アドレスの宛先ポートを検出できない場合のレイヤ 2 のパスを示します。

```

Device# tracert mac 0000.0011.1111 0000.0201.0201
Error:Source Mac address not found.
Layer2 trace terminated.

```

次の例では、送信元および宛先デバイスが異なる VLAN にある場合のレイヤ 2 のパスを示します。

```

Device# tracert mac 0000.0201.0601 0000.0301.0201
Error:Source and destination macs are on different vlans.
Layer2 trace terminated.

```

次の例では、宛先 MAC アドレスがマルチキャストアドレスの場合のレイヤ 2 のパスを示します。

```

Device# tracert mac 0000.0201.0601 0100.0201.0201
Invalid destination mac address

```

次の例では、送信元および宛先デバイスが複数の VLAN にある場合のレイヤ 2 のパスを示します。

```

Device# tracert mac 0000.0201.0601 0000.0201.0201
Error:Mac found on multiple vlans.
Layer2 trace terminated.

```

tracert mac ip

指定の送信元 IP アドレスまたはホスト名から、指定の宛先 IP アドレスまたはホスト名を通過するパケットのレイヤ 2 パスを表示するには、特権 EXEC モードで **tracert mac ip** コマンドを使用します。

```
tracert mac ip { source-ip-address source-hostname } { destination-ip-address
destination-hostname } [detail]
```

構文の説明

<i>source-ip-address</i>	32 ビットの値（ドット付き 10 進表記）で指定された送信元デバイスの IP アドレス。
<i>source-hostname</i>	送信元デバイスの IP ホスト名。
<i>destination-ip-address</i>	32 ビットの値（ドット付き 10 進表記）で指定された宛先デバイスの IP アドレス。
<i>destination-hostname</i>	宛先デバイスの IP ホスト名。
detail	（任意）詳細情報を表示するよう指定します。

コマンドデフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

特権 EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。
Cisco IOS XE Bengaluru 17.5.1	tracert mac ip コマンドの出力エラーメッセージで、 aborted は terminated に置き換えられました。

使用上のガイドライン

レイヤ 2 のトレーズルートを実際に機能させるには、Cisco Discovery Protocol (CDP) がネットワークの各デバイスでイネーブルになっている必要があります。CDP をディセーブルにすることは避けてください。

デバイスがレイヤ 2 パス内でレイヤ 2 トレーズルートをサポートしていないデバイスを検知した場合、デバイスはレイヤ 2 トレーズクエリを送信し続け、タイムアウトにします。

パス内で識別可能な最大ホップ数は 10 です。

指定された送信元および宛先の IP アドレスが同一のサブネット内にある場合、**tracert mac ip** コマンド出力はレイヤ 2 パスを表示します。

IP アドレスを指定した場合、デバイスは Address Resolution Protocol (ARP) を使用し、IP アドレスとそれに対応する MAC アドレスおよび VLAN ID を対応させます。

- 指定の IP アドレスの ARP のエントリが存在している場合、デバイスは関連付けられた MAC アドレスを使用し、物理パスを識別します。
- ARP のエントリが存在しない場合、デバイスは ARP クエリを送信し、IP アドレスを解決しようと試みます。IP アドレスは同一のサブネットにある必要があります。IP アドレスが解決されない場合は、パスは識別されず、エラーメッセージが表示されます。

複数の装置がハブを介して 1 つのポートに接続されている場合（たとえば、複数の CDP ネイバーがポートで検出されるなど）、レイヤ 2 tracert 機能はサポートされません。

複数の CDP ネイバーが 1 つのポートで検出された場合、レイヤ 2 パスは特定されず、エラーメッセージが表示されます。

この機能は、トークンリング VLAN ではサポートされません。

例

次の例では、**detail** キーワードを使用して、送信元と宛先の IP アドレスを指定することで、レイヤ 2 のパスを表示する方法を示します。

```
Device# tracert mac ip 2.2.66.66 2.2.22.22 detail
Translating IP to mac .....
2.2.66.66 => 0000.0201.0601
2.2.22.22 => 0000.0201.0201

Source 0000.0201.0601 found on con6[WS-C2950G-24-EI] (2.2.6.6)
con6 / WS-C3750E-24TD / 2.2.6.6 :
    Gi0/0/1 [auto, auto] => Gi0/0/3 [auto, auto]
con5 / WS-C2950G-24-EI / 2.2.5.5 :
    Fa0/3 [auto, auto] => Gi0/1 [auto, auto]
con1 / WS-C3550-12G / 2.2.1.1 :
    Gi0/1 [auto, auto] => Gi0/2 [auto, auto]
con2 / WS-C3550-24 / 2.2.2.2 :
    Gi0/2 [auto, auto] => Fa0/1 [auto, auto]
Destination 0000.0201.0201 found on con2[WS-C3550-24] (2.2.2.2)
Layer 2 trace completed.
```

次の例では、送信元および宛先ホスト名を指定することで、レイヤ 2 のパスを表示する方法を示します。

```
Device# tracert mac ip con6 con2
Translating IP to mac .....
2.2.66.66 => 0000.0201.0601
2.2.22.22 => 0000.0201.0201

Source 0000.0201.0601 found on con6
con6 (2.2.6.6) :Gi0/0/1 => Gi0/0/3
con5           (2.2.5.5)   ) :   Gi0/0/3 => Gi0/1
con1           (2.2.1.1)   ) :   Gi0/0/1 => Gi0/2
con2           (2.2.2.2)   ) :   Gi0/0/2 => Fa0/1
Destination 0000.0201.0201 found on con2
Layer 2 trace completed
```

次の例では、ARP が送信元 IP アドレスと対応する MAC アドレスを関連付けられない場合の、レイヤ 2 のパスを示します。

```
Device# traceroute mac ip 2.2.66.66 2.2.77.77  
Arp failed for destination 2.2.77.77.  
Layer2 trace terminated.
```

type

1 つ以上のファイルの内容を表示するには、ブートローダモードで **type** コマンドを使用します。

type *filesystem:/file-url...*

構文の説明

filesystem: ファイルシステムのエイリアス。システム ボードフラッシュ デバイスには **flash:** を使用します。USB メモリスティックには **usbflash0:** を使用します。

/file-url... 表示するファイルのパス（ディレクトリ）および名前です。ファイル名はスペースで区切ります。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

ブートローダ

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

ファイル名およびディレクトリ名は、大文字と小文字を区別します。

ファイルのリストを指定すると、各ファイルの内容が順次表示されます。

例

次に、ファイルの内容を表示する例を示します。

```
Device: type flash:image_file_name
version_suffix: universal-122-xx.SEx
version_directory: image_file_name
image_system_type_id: 0x00000002
image_name: image_file_name.bin
ios_image_file_size: 8919552
total_image_file_size: 11592192
image_feature: IP|LAYER_3|PLUS|MIN_DRAM_MEG=128
image_family: family
stacking_number: 1.34
board_ids: 0x00000068 0x00000069 0x0000006a 0x0000006b
info_end:
```

unset

1つ以上の環境変数をリセットするには、ブートローダモードで**unset** コマンドを使用します。

unset variable...

構文の説明

variable

variable には、次に示すキーワードのいずれかを使用します。

MANUAL_BOOT / **MANUAL_BOOT** : デバイスの起動を自動で行うか手動で行うかどうかを指定します。

BOOT : 自動起動時に、実行可能ファイルのリストをリセットして、ロードおよび実行します。**BOOT** 環境変数が設定されていない場合、システムは、フラッシュファイルシステム全体に再帰的な縦型検索を行って、最初に検出された実行可能イメージをロードして実行を試みます。**BOOT** 変数が設定されていても、指定されたイメージをロードできなかった場合、システムはフラッシュファイルシステムで最初に検出した起動可能なファイルを起動しようとします。

ENABLE_BREAK : フラッシュファイルシステムの初期化後に、コンソール上の **Break** キーを使用して自動ブートプロセスを中断できるかどうかを指定します。

HELPER : ブートローダの初期化中に動的にロードされるロード可能ファイルのセミコロン区切りリストを識別します。ヘルパーファイルは、ブートローダの機能を拡張したり、パッチを当てたりします。

PS1 : ブートローダモードの場合に、コマンドラインプロンプトとして使用する文字列を指定します。

CONFIG_FILE : Cisco IOS がシステム設定の不揮発性コピーの読み書きに使用するファイル名をリセットします。

BAUD : コンソールで使用される速度 (ビット/秒 (b/s) 単位) をリセットします。コンフィギュレーション ファイルに別の設定が指定されていない限り、Cisco IOS ソフトウェアはブートローダからボーレート設定を継承し、この値を引き続き使用します。

コマンド デフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンド モード

ブートローダ

コマンド履歴

リリース

変更内容

Cisco IOS XE Everest
16.5.1a

このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン 通常の環境では、環境変数の設定を変更する必要はありません。

MANUAL_BOOT 環境変数は、**no boot manual** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用してリセットすることもできます。

BOOT 環境変数は、**no boot system** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用してリセットすることもできます。

ENABLE_BREAK 環境変数は、**no boot enable-break** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用してリセットすることもできます。

HELPER 環境変数は、**no boot helper** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用してリセットすることもできます。

CONFIG_FILE 環境変数は、**no boot config-file** グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用してリセットすることもできます。

例

次に、SWITCH_PRIORITY 環境変数をリセットする例を示します。

```
Device: unset SWITCH_PRIORITY
```


upgrade rom-monitor capsule

カプセル方式を使用して読み取り専用メモリモニタ（ROMMON）をアップグレードするには、特権 EXEC モードで **upgrade rom-monitor capsule** コマンドを使用します。

スタンドアロン デバイス

```
upgrade rom-monitor capsule {golden | primary} [{R0 | RP active}]
```

ハイ アベイラビリティ対応デバイス

```
upgrade rom-monitor capsule {golden | primary} [{R0 | R1 | RP {active | standby}}]
```

StackWise Virtual 対応デバイス

```
upgrade rom-monitor capsule {golden | primary} [{R0 | R1 | RP {active | standby} | switch {switch_number | active | standby} {R0 | R1 | RP {active | standby}}]
```

構文の説明

golden	アップグレードするゴールデン ROMMON を指定します。
primary	アップグレードするプライマリ ROMMON を指定します。
R0	ルートプロセッサ（RP）スロット 3 の ROMMON をアップグレードします。
R1	RP スロット 4 の ROMMON をアップグレードします。
RP {active standby}	RP スロット 1 およびスロット 2 の ROMMON をアップグレードします。 <ul style="list-style-type: none"> • active : アクティブインスタンスを指定します。 • standby : スタンバイインスタンスを指定します。
switch {switch_number active standby}	スイッチを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • switch_number : スイッチの ID。有効な範囲は 1 ～ 2 です。 • active : アクティブスイッチを指定します。 • standby : スタンバイスイッチを指定します。

コマンド デフォルト

このコマンドには、デフォルト設定がありません。

コマンド モード

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Gibraltar 16.12.2	このコマンドは、シリーズの C9500-12Q、C9500-16X、C9500-24Q、C9500-40X モデルでのみ導入されました。

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Amsterdam 17.1.1	upgrade rom-monitor capsule golden オプションは、このシリーズの C9500-24Y4C、C9500-32C、C9500-32QC、C9500-48Y4C モデルで導入されました。

使用上のガイドライン ROMMON バージョンのアップグレードがソフトウェアバージョンに適用可能かどうかを確認するには、対応するソフトウェアリリースのリリースノートを参照してください。

<https://www.cisco.com/c/en/us/support/switches/catalyst-9500-series-switches/products-release-notes-list.html>

このシリーズの C9500-12Q、C9500-16X、C9500-24Q、C9500-40X モデルでは、ゴールデンおよびプライマリ ROMMON を Cisco IOS XE Gibraltar 16.12.2 から開始して手動でアップグレードする必要があります。

このシリーズの C9500-24Y4C、C9500-32C、C9500-32QC、C9500-48Y4C モデルでは、ゴールデン ROMMON を Cisco IOS XE Amsterdam 17.1.1 から開始して手動でアップグレードする必要があります。新しいバージョンが適用される場合、プライマリ ROMMON は常に自動的にアップグレードされます。

例

次に、StackWise Virtual 対応デバイスでゴールデン ROMMON をアップグレードする例を示します。

```
Device# upgrade rom-monitor capsule golden switch active R0

This operation will reload the switch and take a few minutes to complete.
Do you want to proceed (y/n)? [confirm]y

Device#

Initializing Hardware .....

!
!
!

Warning : New region (type 2) access rights will be modified

Updating Block at FFFFF000h 100%

Restarting switch to complete capsule upgrade

<output truncated>
```

version

ブートローダのバージョンを表示するには、ブートローダモードで **version** コマンドを使用します。

version

構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

デフォルトの動作や値はありません。

コマンドモード

ブートローダ

コマンド履歴

リリース	変更内容
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	このコマンドが導入されました。

例

次に、デバイスのブートローダのバージョンを表示する例を示します。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。